



# 令和6年度 学社融合推進協議会活動報告集



令和7年3月  
田辺市教育委員会

## はじめに

近年、少子高齢化がさらに進み、また、社会情勢もめまぐるしく変化する中、人と人とのつながりの希薄化が進み、子供たちや家庭、そして、学校を取り巻く環境が大きく変化してきています。

このような状況の中、田辺市教育委員会では、平成19年度から最重点項目の一つとして「学社融合の推進」を位置づけ、学校と公民館が連携・協力し、それぞれの地域の特色を生かしながら、地域全体で子供たちを育てる取組を継続・拡充してきました。更に、平成30年度には、学社融合の取組を発展させる形で「田辺市学社融合推進協議会」を設置しました。それぞれの学社融合推進協議会では、学校や地域の課題を様々な視点から出し合い、その課題をどのような手立てで解決していくかということを熟議し、そして課題解決に向けて協働して、学校や地域の実態に応じた創意工夫ある試みを実施してきました。

このことはコロナ禍においても同様であり、およそ3年間に渡って日常の活動が制限された中においても、それぞれの学社融合推進協議会は、可能な範囲で工夫を凝らし、活動を停滞させることなく実施し、コロナ禍後の今に繋げてきました。

そのような中、学社融合推進協議会が発足して7年目となる今年度も、昨年度に引き続きこの協議会でも、この「学社融合推進協議会活動報告集」に収められているような、地域の特色を生かした工夫ある取組を一層発展させた実践活動を創出していただきました。

また、今年度の学社融合研修会（令和6年8月20日 火曜日）は、講師に311いのちを守る教育研修機構協力研究員で東北大学非常勤講師の齋藤幸男氏を招聘し、『災害発生後の課題と対応 ～タテ割り意識の見直しと若手人材の育成～』と題して、講演及びワークショップと、事例報告（上芳養中学校）の2部構成で開催されました。参加者（学社融合推進協議会員・公民館長・幼小中代表・市内各中学校生徒代表）は、20グループに分かれて着席し、配布された二次元コードをスマホやタブレットで読み取ることによってグループ毎に異なる災害発生後の課題を知り、その対応について話し合いました。どのグループでも中学生の意見が新鮮な輝きを放っており、参加者からは、「これからも、中学生と話し合う機会を増やして、一緒に地域のことを考えていきたい。」というような肯定的な感想を沢山いただきました。従来なかった中学生の参加により、学社融合がまた一歩前進した研修会になりました。

今後も、全ての園・学校と公民館・地域が連携・協働して、学社融合推進協議会の一層の充実を図っていただきますことを心から願っております。

令和7年3月

田辺市教育委員会 教育長 野田 泰輔

## 目 次

### [小学校]

|         |    |
|---------|----|
| 田辺第一小学校 | 1  |
| 田辺第二小学校 | 3  |
| 田辺第三小学校 | 5  |
| 芳養小学校   | 7  |
| 大坊小学校   | 9  |
| 稻成小学校   | 11 |
| 会津小学校   | 13 |
| 新庄小学校   | 15 |
| 新庄第二小学校 | 17 |
| 三栖小学校   | 19 |
| 長野小学校   | 21 |
| 上秋津小学校  | 23 |
| 秋津川小学校  | 25 |
| 上芳養小学校  | 27 |
| 中芳養小学校  | 29 |
| 田辺東部小学校 | 31 |
| 龍神小学校   | 33 |
| 上山路小学校  | 35 |
| 中山路小学校  | 37 |
| 咲楽小学校   | 39 |
| 中辺路小学校  | 41 |
| 近野小学校   | 43 |
| 鮎川小学校   | 45 |
| 三里小学校   | 47 |
| 本宮小学校   | 49 |

### [中学校]

|        |    |
|--------|----|
| 東陽中学校  | 51 |
| 明洋中学校  | 53 |
| 高雄中学校  | 55 |
| 新庄中学校  | 57 |
| 衣笠中学校  | 59 |
| 上秋津中学校 | 61 |
| 秋津川中学校 | 63 |
| 上芳養中学校 | 65 |
| 中芳養中学校 | 67 |
| 龍神中学校  | 69 |
| 中辺路中学校 | 71 |
| 近野中学校  | 73 |
| 大塔中学校  | 75 |
| 本宮中学校  | 77 |

### [幼稚園]

|        |    |
|--------|----|
| 三栖幼稚園  | 79 |
| 上秋津幼稚園 | 81 |
| 中芳養幼稚園 | 83 |
| 新庄幼稚園  | 85 |

# [学社融合推進協議会活動報告集]

令和6年度

各学社融合推進協議会の活動風景



東陽中学校 避難所ゲーム



中芳養中学校 ワールドカフェ



中辺路小学校 収穫祭でグラウンドゴルフ



三里小学校 語り部ジュニア

|   |   |  |       |
|---|---|--|-------|
| 学校・園名   | 田辺市立田辺第一小学校   | 公民館名   | 中部公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子  |   |  |       |
| <p>本校の校区は、かつての城下町の名残をとどめ、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、歴史と伝統にあふれる地域である。熱心に学校教育活動を支援してくれる人材にも恵まれており、教科・総合的な学習の時間を中心に、地域の教育資源を生かした特色ある取組をおこなっている。</p> |   |  |       |
| 目<br>標  | 学校・園・地域   | <p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々との活動を通して伝統芸能や文化にふれさせることで、地域に誇りを持つ子どもを育てる。</li> <li>・専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てる。</li> <li>・地域の人々や仲間との活動を通して、児童のコミュニケーション能力を育てる。</li> </ul> <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と子どもたちとの交流の中で、互いが学び合っていることを自覚し、大人と子どもの双方からつながりを築く。</li> <li>・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子どもたちに自分も地域の一員である自覚を持たせる。</li> </ul> |       |
|   | 校（園）区の推進組織（組織体制図）   | 支援者及び支援組織  |       |
|   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊楠学（地域学習コーディネーター）</li> <li>・田一小校区協議会</li> <li>・田辺観光ボランティアガイド</li> <li>・地域の方々</li> <li>・保護者</li> </ul>  |       |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）  |   |  |       |
| 成果  |   | 課題   |       |
| 学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの取組は学社融合の趣旨に沿ったものであり、達成感を味わうこともでき、充実している。</li> <li>・防災への取組や伝統行事の継承等、地域の活動が充実し、地域とともにある学校づくりを目指す取組が行われている。</li> <li>・急激な少子化が進む中であっても、学校行事への保護者の参加や子どもたちの活動は活発に行われている。</li> <li>・推進協議会委員の方々の意見は、学校の目指す方向性への示唆に富んでいる。取組を後押しするアドバイスを頂いている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の人選において、学校と地域住民との橋渡し役となり、地域に住む児童育成に熱意のある方、地域や他分野において経験豊富な方を人選すると、高齢の方になりがちである。</li> <li>・教職員・地域住民・保護者の役割分担の明確化。</li> <li>・学校が中心となり、かつ教職員の負担が増大しないように、さらに新たなものを求めるのは難しい。</li> <li>・関心・意欲の低い地域住民の参画促進。</li> </ul>  |       |
| 公民館（地域）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会や地域作品展、おはなし会などの行事を開催することができ、地域と学校・子どもたちが関わる機会を作ることができた。</li> <li>・特に、おはなし会では、大人の方の参加者を増やし、児童がおはなしを楽しんでいる様子を知っていただくことができた。</li> <li>・地域の方々は、ゲストティーチャーとして児童たちとの関わりを深めており、授業以外でも公民館にて親しげに交流している様子がみられた。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の高齢化により、講師をお願いできる指導者や協力いただける人材が減少しており、新たな人材の発掘が必要となっている。</li> <li>・そのため、より多くの地域の方に活動を知ってもらうために学習成果の発表方法や機会を工夫する。</li> </ul>  |       |

|  |  |
|--|--|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）   |  |
| <p>○「防災教育について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、津波を想定した避難訓練は回数を重ねることで、子ども達の防災意識が高まっている。また、ライフジャケットの取り扱いや、避難経路の選定など新たな課題が見えてきている。</li> <li>・地域や保護者間の防災意識の差が気になる。全校参観日での防災学習の公開や公民館と連携した学校・地域合同避難訓練等は今後も開催していきたい。</li> <li>・地震発生時の避難はその動きをシンプルにしておく方がいい。状況の違いによる具体的なタイムライン、スケジュール等のシミュレーションが必要である。</li> </ul> <p>○SNS等の使用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものSNS等の使用は便利さよりも、発生している被害や悪影響の方が大きいのではないかと。取り返しのつかない事件になる前に、国による規制は必要だと思う。</li> <li>・子どもの使用を禁止した他国の政策に賛同する。</li> <li>・地域では、子ども食堂や絵画体験などの活動を支援する取組が行われている。</li> <li>・生命を大切にすることを子ども達に伝えていかなければいけない。学校での授業、子どもが育っていくことは大変だと言うことをあらためて感じる。</li> </ul> |  |
| 地域交流体験活動   |  |
| <p><b>茶道教室【1・2年生】</b></p> <p>地域の長尾先生を講師としてお招きし、1・2年生が茶道について教えていただきました。お作法やお抹茶の点て方などを教えていただき、お茶とお菓子を楽しむことができました。</p>  | <p><b>紀州手まり教室【6年生】</b></p> <p>地域の紀州手まり趣味の会の皆さんにご協力いただき、6年生が紀州手まり作りに挑戦しました。まず、土台に糸を巻き付け、模様を入れていきます。きれいな模様を表現するために針を刺す位置に気をつけながら縫い進めました。</p>                 |
| <p>細かく手を動かしてお抹茶を点てました。難しかったけど、楽しかったです。</p>   | <p>二色の刺繍糸を使いきれいな模様を表現するには、針を刺す位置がとても大事です。</p>  |
| <p><b>琴教室【4年生】</b></p> <p>真砂先生を講師としてお招きし、4年生が和楽器（琴）について、教えていただきました。子ども達は、楽譜を見て、自分で演奏することもでき大満足でした。</p>   | <p><b>生け花教室【4年生】</b></p> <p>地域的那須先生を講師としてお招きし、生け花について教えていただきました。花の位置や高さ、全体のバランスなどを考えながら自分の作品を仕上げることができました。</p>   |
| <p>琴からきれいな音が出て、嬉しかったです。</p>  | <p>花の色や高さを考えて活けるのが楽しかったです。</p>   |
| <p><b>リーブル読み聞かせ</b></p> <p>読み聞かせサークル「リーブル」さんに来ていただき、毎月1回、全学年を対象に読み聞かせを行っています。様々なテーマで本を用意していただけるので、子ども達は、毎回本の世界をしっかりと楽しむことができている。</p>   | <p><b>大人も子どもも地域作品展</b></p> <p>小学校体育館にて公民館主催の「大人も子どもも地域作品展」が行われました。田辺第一小学校も全児童の絵画を展示し、多くの地域の方に見ていただくことができました。今年は、高雄中の brass band部の演奏もあり、会場は大いに盛り上がりました。</p> |
|  |  |

|   |  |   |          |
|---|--|---|----------|
| 学校・園名   | 田辺市立田辺第二小学校  | 公民館名  | 東部、南部公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子  |  |   |          |
| <p>本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子どもを育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取組を進めてきた。公民館主催文化展示会への作品出品、中学校及び地域との地震津波避難訓練の実施、本校校内音楽会への中学校合唱部・吹奏楽部の参加、公民館主催行事（バスピン大会やなんぶフェスティバル等）に取り組んできた。また、各学年、生活科及び総合的な学習の時間に、公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出かけたり、ゲストティーチャーとして来校していただいたりして、地域学習、福祉体験学習、歴史学習等に取り組んできた。</p> |  |   |          |
| 目 標   | <p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちが住む地域のよさを知り、ふるさとを愛する児童を育てる。またその学習の中で調べる力・協力する力・表現する力を身につけさせる。</li> <li>○自分たちでは調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てていく。</li> <li>○南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、沿岸部に位置する本校にとって防災安全学習への取組を充実させることは大変重要である。これらの活動を通して、主体的な判断力と行動力をもつ児童を育てる。</li> <li>○子どもたちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。（公民館）</li> <li>○地域の良さを伝えることで、子どもたちとの交流を楽しむとともに、自分たちも地域について見直す機会とする。（地域）</li> </ul> |   |          |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |  | 支援者及び支援組織   |          |
| <p>田辺第二小学校学社融合推進協議会<br/>↓<br/>東部・南部公民館 東陽中学校 幼稚園<br/>↓<br/>保育所 育友会<br/>↓<br/>地域の力を生かした教育活動</p>  |  | <p>東部公民館<br/>南部公民館<br/>田辺市防災まちづくり課<br/>田辺市社会福祉協議会<br/>交通安全指導委員会東部小隊<br/>闘雞神社<br/>神楽神社<br/>地域にお住まいの皆様方</p>   |          |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）  |  |   |          |
| 成果  |  | 課題  |          |
| 学校  | <p>○地域の自然や社会【人々・歴史・施設・文化・動植物】と関わる中で、問題を発見し、追求する力や仲間と協力し活動する力等を高めることができた。</p> <p>○「児童の健全育成」をテーマに地区懇談会を開催した。そこで地域ぐるみで子どもたちを安全に育てることを中心に話し合い、情報や課題を共有することができた。</p>  | <p>◇子どもたちが地域の一員として主体的に活動できるような取組を行っていききたい。</p>  |          |
| 公民館（地域）   | <p>○田辺第二小学校児童が中心に参加している「ふれあいバスピン大会」では、年々少しずつ参加者が増加している。大会運営には子ども会・学校・地域・公民館が一緒になって取り組んでおり、バスピン大会を一つのきっかけに、子ども会と学校・地域・公民館の間につながりを生むことができた。</p> <p>○普段から小学校と密に連携することができ、相互に協力関係を構築することができた。</p>  | <p>◇コロナ禍の影響もあり、子ども会への加入率は依然として低いままの状態となっている。「ふれあいバスピン大会」を筆頭に、子ども会の方々の協力をもって開催することができている行事も多くあるため、これらを継続して行っていくためには今後も粘り強く子ども会への参加を促していく必要がある。公民館としても、各行事の開催の際には、子ども会への加入を考えてもらうきっかけとできるよう創意工夫を凝らしていきたい。</p> |          |

今年度の取組内容  
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

【田二っ子SDGs会について】  
令和4年度より使わなくなった学用品を譲り受け、欲しい方に提供する「田二っ子SDGsの会」を発足している。参観日で提供しているが、再利用品はすぐになくなり保護者からも好評である。しかし、ランドセルについては持って帰られる方がほとんどいないため、就学時健診の際に展示してみてもどうかというご意見をいただいた。本年度の就学時健診ではランドセルの展示を行った。今年度は持って帰られる方はいなかったが、来年度は事前にも周知するようにし継続して取組をしていきたい。

【地震津波避難訓練について】  
本年度より避難先は原則として市役所新庁舎を考えていることや先発職員からの避難経路の情報を確認（トランシーバー）のうえルートを選択していること等について協議した。その中で避難経路確認までかかる時間も測定してみてもどうかというご意見をいただいた。それを受けて2学期の避難訓練より避難経路確認までの時間も計測して取組を進めている。

発見!町の仕事名人【3年生】



アセロラフーズ



三浦豊店



北本商店

3年生は、11月に地域の仕事名人の方々（北本商店、三浦豊店、碓井商店、七福堂、アセロラフーズ）を訪れた。仕事の内容や技術についてはもちろんのこと、仕事への思いや地域に対する願い等についても学び、地域の良さや特徴に気づき、それらを支える人々の工夫や努力について知ることができた。

また、帰校後は、質問して分かったことや発見したことを、グループごとにまとめ、発表会を開いた。

最後に、感謝の気持ちをまとめ、それぞれの仕事名人に届けることができた。



碓井商店



七福堂

【児童の感想より】

- ・たたみの重さが15キロくらいということをはじめて知りました。それを1日に10まいも作っているということにおどろきました。
- ・碓井商店が作っている物は、こんにゃくだけではなくて納豆もあることをはじめて知りました。ていねいに教えてくれてうれしかったです。
- ・「ミカンゼリーの作り方を知らなかった。」と思っていたら、お店の人が教えてくれました。そのおかげでよく分かりました。今度、アセロラフーズの商品を買いたいです。
- ・田二っ子の材料や焼き時間を教えてもらいました。これから、地域のお土産として田二っ子を買に行きたいです。これからも地域の伝統として何十年も七福堂を続けてほしいです。
- ・しらすやかつお節の作り方を教えてもらいました。2つとも食べさせてもらったら、とてもおいしかったです。これからも、しらすやかつお節を作り続けてほしいと思いました。

再発見！ふるさと田辺【6年生】



6年生は、地域の歴史、史跡について学び、語り部活動とおして、学んだ事を発信している。今年度は直接地域の様々な場所を訪れ、昔の写真を見ながら今の様子と比較したり、地域の方々から昔の様子について話を聞いたりして学習を深めた。



地域の方々との心のつながりを大切に



扇ヶ浜公園のトリムコースで実施した校内持久走記録会は、顔を真っ赤にして一生懸命に走る子どもたちに、大勢の地域の方々からご声援をいただいた。

また、校内音楽会や合唱部の「銀座ミュージックストリート」、ふれあいバスピン大会、校内バスピン大会でも、地域の方々からのあたたかい声援が子どもたちの励みになった。これからも、地域の方々との心のつながりを大切に、連携して子どもたちの学びや愛郷心を育てていきたい。

|   |  |  |       |
|---|--|--|-------|
| 学校・園名   | 田辺市立田辺第三小学校  | 公民館名   | 西部公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b>   |  |  |       |
| <p>本校は、田辺第三小学校学社融合推進協議会を中心として、西部公民館、西部センター、天神児童館「西部エンパワーメント支援事業」等と協働・連携しながら各種事業に取り組んでいる。本校区内では、核家族化や少子高齢化などの問題が進行している。地域社会との関わりを推進し、地域の一員であるとの自覚を持つ児童を育成していくことは、大変重要であると共に大きな課題である。そのため、地域を知り、地域に興味・関心を持って活動を行うことを大切にし、地域に出かけ、体験的な活動を通して積極的に地域との交流を図るようにしている。</p> |  |  |       |
| 目<br>標  | 学校・園・地域  | <p>①子どもたちの自尊感情を高めていき、教育をよりよいものとする。<br/>                 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。<br/>                 ③学社融合（生涯学習）を推進し、更に充実する。<br/>                 ④「地域の子どもは、地域とともに育てていく。」という意識を更に高める。<br/>                 ⑤学社融合事業をさらに地域に浸透させていく。</p>              |       |
|   | 校（園）区の推進組織（組織体制図）  | <p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>西部公民館</li> <li>西部地区自主防災連絡協議会</li> <li>西部町内会連絡協議会</li> <li>西部老人クラブ連合会</li> <li>校区協議会</li> <li>天神児童館</li> <li>西部子どもエンパワーメント支援事業</li> <li>西部センター</li> <li>民生委員</li> <li>スポーツ推進委員</li> </ul> |       |
| <p><b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b></p>  |  |  |       |
| 学<br>校  | 成果   | 課題   |       |
|   | <p>・本校において初となる全校での学習発表会を開催し、学習の成果を広く発信することができた。3年生は天神崎、4年生は防災タワー、5年生は植芝盛平、6年生は避難所運営について、地域の方にご協力いただき学習したことをそれぞれ発表した。<br/>                 ・すぐるの学社融合推進協議会チャンネルを開設し、各事業の要項や実施後のまとめを配信し、情報共有に努めた。<br/>                 ・産業や防災、自然環境など地域の多様な方や関係機関の協力を得て、学習の効果を高めることができた。</p> | <p>・高齢化により「昔の遊び会」「昔のくらし学習会」ではゲストティーチャーのなり手が減ってきている。また、世代が進むことにより、昔の遊びやくらしの経験者も減ってきているので、どのように事業を行っていくか考えていかなければならない。<br/>                 ・今年度は避難所運営の基礎について学習したが、令和8年度の田辺市防災訓練に向けて、来年度は取組を広げていきたい。</p>   |       |
| 公民館（地域）   | <p>「西部花いっぱい運動」や「グラウンドゴルフ」、「昔の遊びにふれよう（天神児童館まつり）」では、西部老人クラブ連合会の協力により、世代を超えた交流を図ることができた。<br/>                 また、「天神児童館まつり」では、作品展示を行い、併催の「西部人権の集い」では、児童による人権作文を発表した。</p>  | <p>事業には西部老人クラブ連合会をはじめ多くの方々にご協力をいただいているが、高齢者が多く健康上の理由などにより辞退される方も増えている状況である。こうした状況の中で、新たに協力していただける方の発掘が課題である。</p>   |       |

|   |   |
|---|---|
| <p>今年度の取組内容<br/>                 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</p>   |   |
| <p>○授業参観を通して、子どもの様子を共有し、協議を行った。</p> <p>○主な協議内容について<br/>                 &lt;ICT・SNS&gt;<br/>                 ・タブレットPCを効率よく使用していた。思いや考えをすぐに共有できるようになっていた。<br/>                 ・家庭に持ち帰ったときのセキュリティやSNSトラブルの現状について。<br/>                 &lt;事業&gt;<br/>                 ・昔の遊びをしたことがない人や、昔のくらしの道具を使ったことがない人がこれから増えていくことが予想される。どのように事業を行っていくべきか、考えていかなければならない。<br/>                 &lt;その他&gt;<br/>                 ・「BOOKはなまるデー」や、中学校の定期考査期間に合わせた「家庭学習週間」の取組は大変良いと思う。児童館でも協力して呼び掛けたい。</p> |   |
| <p>特徴的な協働活動</p>   |   |
| <p>クリーン作戦</p>   | <p>4年生：地域の方々と一緒に街をきれいに！</p>   |
| <p>【子どもの思いから】<br/>                 「公園にごみがたくさん落ちている。きれいにしたい。」<br/>                 そんな子どもの思いから始まったクリーン作戦。<br/>                 学社融合推進協議会と4年生児童が協働し、令和4年度から行っている。<br/>                 自作したちらしをポスティングし、参加を呼び掛ける児童→</p>   |    |
| <p>【みんなの街をみんなできれいに】<br/>                 クリーン作戦当日は、5チームに分かれて各地域のごみ拾いを行った。推進委員や町内会、さらにはきんでんや田辺警察署からも参加いただき、実施することができた。<br/>                 子どもと大人が混ざってチームを組むことで、自然と会話が生まれ、ふれあいながら街をきれいにすることができた。</p>  |   |
|  <p>街がきれいになって、すがすがしい気持ちになりました。</p> <p>たくさん集まりました！</p>  |  |
| <p>魚さばき体験</p>   | <p>3年生：地域の産業を体験する</p>   |
| <p>地場産業である干物づくりを体験。<br/>                 地域の方の指導のもと、専用の包丁を使ってアジをさばいた。</p> <p>干物を焼いて食べたらすごくおいしかったよ。魚を加工するお仕事に興味を持ったよ。</p>  |  |

|   |  |  |       |
|---|--|--|-------|
| 学校・園名   | 田辺市立芳養小学校  | 公民館名   | 芳養公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>平成19年度より子供の健全育成と放課後の居場所づくりを目的に取り組み始めた「芳養ふれあい教室」、平成20・21年度には芳養小学校・芳養公民館が市の指定研究を受け、学社融合の先駆けとなった。その成果が脈々と受け継がれ、現在に至っている。講師の方の高齢化や職員の異動により、地域の教育力を生かした授業実践がやや縮小されているが、「地域とともにある学校」としての意識を常にもち、学校と公民館が連携した取組を進めている。また、生活科や国語科、書写、総合的な学習の時間などの授業においても地域の方をゲストティーチャーとして参加していただいている。 |  |  |       |
| 目 標   | ○学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、児童の健全育成を目指す。<br>○保護者や地域の方々との触れ合いを通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域を大切に作る心を育てる。<br>○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで教育内容の充実を図るとともに、地域活性へと繋げる。<br>○地域の方々为学校や子どもたちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。   |  |       |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |  | 支援者及び支援組織  |       |
|   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・芳養公民館</li> <li>・町内会</li> <li>・芳養児童センター</li> <li>・芳養校区子どもクラブ</li> <li>・ふれあい教室実行委員会</li> <li>・芳養校区補導委員会</li> <li>・更生保護女性会</li> <li>・民生児童委員</li> <li>・交通指導委員</li> <li>・育友会</li> <li>・地域の方々</li> </ul> |       |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>   |  |  |       |
| 成果  |  | 課題   |       |
| 学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーとして専門的な分野を担当してもらうことで、普段の授業ではなかなか指導が難しい内容について多様な活動を展開することができた。</li> <li>・ふれあい教室の募集を年間2度行ったことで、子どもたちの参加率も昨年度に比べて向上することができた。</li> <li>・校区探検や地域のお祭りに参加した際に「ふれあい教室の先生だあ」と子どもたちから積極的に地域の方と交流する姿が見られるなど、地域と子どもたちをつなぐ取組となっている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に比べるとふれあい教室への参加者は増加したが、高学年の参加率が減少傾向にある。そのため、高学年も参加したいと思える内容を検討していく必要がある。</li> <li>・今年新たに3名の方にふれあい教室の講師として参加していただいたが、今後も継続するため、人材の新規開拓にも取り組んでいく必要がある。</li> </ul>                                 |       |
| 公民館（地域）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の授業や放課後のふれあい教室の活動に対して、地域の方々に積極的に参加・協力をしていただいている。特にふれあい教室の協力者が増えたことが一番の成果となった。</li> <li>・公民館主催の行事にも芳養小学校の子どもたちが参加してくれるなど、地域の大人と子どもが交流できる機会が多くある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もふれあい教室を継続していくためにも、人材発掘・育成に力を入れていく必要がある。また、新しい教室を増やすときには子どもや保護者の意見や要望などを聞いてみたい。</li> <li>・学校の授業やふれあい教室における活動に対して、より多くの地域の方々や保護者の方々に協力していただけるよう周知していきたい。</li> </ul>                               |       |

|  |   |
|--|---|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）   |   |
| <b>第1回協議会 令和6年6月11日（火）実施</b><br>◎芳養小学校の学力の実態は？<br>ここ数年の傾向として、県学習到達度調査（4・5年）の結果は、県平均を大きく下回り課題が大きい。（特に算数）<br>しかし、4年で顕著であった学力課題も、全国学力学習状況調査（6年）では全国平均に近づき、学年が上がるにつれて改善傾向にある。<br><br>◎家庭学習について<br>学力向上に向けて、家庭学習も大事である。当地域の課題ではないか。家庭の協力や自学の力も必要である。<br>2年前から明洋中学校の期末テスト期間に合わせて取り組んでいる「家庭学習がんばろう！週間」の取組は、家庭への啓発にもなりよい取組である。 |   |
| <b>第2回協議会 令和7年2月実施予定</b><br>令和6年度の取組の成果と課題 学校評価アンケート結果   |   |
| 特徴的な協働活動   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度もふれあい教室は6教室（かきかた、花アレンジ、キンボール、俳句、読み聞かせ、将棋）で実施していくこととなった。</li> <li>・各学年の学習内容に応じて、スクールパートナーをお招きし、子どもたちは様々な体験活動に取り組むことができた。（米作り体験・梅ジュースづくり・蒸しパンづくり・等）</li> </ul>  |   |
|  |   |
| 今年度は5年生の米作り体験として、田んぼを保護者の方に貸していただいた。そのため、子どもたちは田植えから収穫までの流れを体験することができ、とても良い学びの場となった。この体験を通して、農業の大変さと楽しさを感じることができた。また出来たお米はキャンプで飯ごうで炊き、カレーライスにしておいしく頂いた。  |   |
|  |   |
| 6月に3年生の子どもたちに「梅ジュース」の作り方を指導していただいた。梅の良い香りの中、子どもたちはおいしいジュースになるように意欲的に活動に取り組んでいた。  | 12月に2年生の子どもたちに「蒸しパン」の作り方を指導していただいた。自分たちで収穫したさつまいもを入れた蒸しパンが出来上がり、子どもたちはとても楽しそうに取り組む姿が見られた。 |

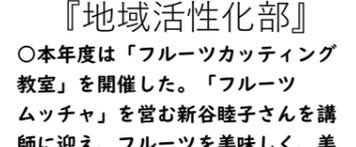
|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 学校・園名   | 田辺市立大坊小学校  | 公民館名  | 芳養公民館  |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>本校区は大坊・団栗の二地区からなり、その住民の多くは柑橘・梅栽培を中心とした専業農家である。平成31年3月、地域の長年の願いであった新校舎が完成し、より一層地域の総合センターとしての役割が求められている。地域のつながりは深く、学校の教育活動に対しても大変協力的である。運動会や各行事において、各団体に協力していただきながら取組を進めている。 |  |   |  |
| 目<br>標  | <b>地域とともにある学校</b><br>～学校は地域の未来を創る～<br>大坊小学校学社融合推進協議会は「地域とともにある学校」を目指し、「学校は地域の未来」となれるよう、各専門部会を核とした実践的な取組や活動を進めていく。<br><b>具体的目標</b><br>目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」<br>目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」<br>目標3：小学校を活用した「地域力の向上」 |   |  |
|   | <b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b>   |   | <b>支援者及び支援組織</b>   |
| 学社融合推進協議会親部   | <b>学習支援部</b><br>目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」<br>取組の柱 ①学習支援 ②家庭教育の支援   |   | ・大坊小学校育友会<br>・大坊小中学校校区協議会<br>・大坊区<br>・団栗区<br>・地域老人会（白楽会）<br>・両区青年団<br>・大坊女性会 |
|   | <b>環境整備部</b><br>目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」<br>取組の柱 ①環境整備 ②登下校の安全対策   |   |  |
|   | <b>地域活性化部</b><br>目標3：小学校を活用した「地域力の向上」<br>取組の柱 ①学校行事への参画 ②学校施設の地域への開放   |   |  |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>   |  |   |  |
| <b>成果</b>   |  | <b>課題</b>   |  |
| 学校  | ・ふるさと学習で、大坊地区について教えていただいたり、ミカンの栽培を体験させていただいたり、防災学習の中でかまどベンチの製作にご協力いただいたりすることができた。さらに、みんなの作品展への出品やフルーツカッティング教室の開催、しめ縄作り等、地域の方々とのふれあい、地域から学ぶことで、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持つ子どもたちに育っている。                                 | ・ふるさと学習は、子どもたちに目的意識をしっかりともたせるとともに、地域の方々との打ち合わせを十分に行うことが大切である。                               |  |
| 公民館（地域）   | ・大坊小学校の様々な活動や事業を公民館だよりに掲載することで、普段学校に関わることがない方にも、子どもたちの様子や取組を伝えることができた。<br>・学校の取組に、地域の方が協力、参加していただくことで、子どもたちがより地域を好きになり、地域の方も生きがいとなるWin-Winの関係ができていく。   | ・現在行っている活動が、これからも継続していくために、協力してくれる地域の方を少しでも増やしていきたい。そのためにも、公民館だより等での発信や人との出会いに力を入れていく必要がある。 |  |

**今年度の取組内容**  
**会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）**

**『地域活性化部』**  
 ○本年度は「フルーツカッティング教室」を開催した。「フルーツムッチャ」を営む新谷睦子さんを講師に迎え、フルーツを美味しく、美しくカットする方法を学ぶことができた。



**『学習支援部』**  
 ○ふるさと学習への協力や、絵本の読み聞かせ、クラブなど、地域人材と学校をつなぐ。【低学年：たんけんて見つけたよ！大坊地区のひみつ】【中学年：大坊みかんが日本一！わたしたちが魅力を広げます】【高学年：私たちにできること～命を守るために】



**『環境整備部』**  
 ○防災かまどベンチの製作に協力した。また、「炊き出し訓練」として、学習発表会の後に、かまどベンチを活用して豚汁を作り、子どもたちと地域の皆さんとおいしくいただくことができた。



**特徴的な協働活動**

**かまどベンチ製作**



①型枠作り ②型枠設置 ③バラスしき ④セメント練り



⑤セメント流し込み ⑥耐火レンガ積み ⑦合計6段積み ⑧かまど部分完成

**豚汁の炊き出し**



畑でとれた「さつまいも」を使った豚汁を地域の皆さんと一緒にいただきました。

高学年が防災学習を進めていく中で、地域の避難所となっている小学校に「かまどベンチ」をつくりたいとの思いを持ちました。そして、学社融合推進協議会、田辺市防災まちづくり課、育友会のご協力のもと、素敵なかまどベンチを製作してくれました。早速「豚汁の炊き出し」や「焼き芋パーティー」で活用しました。

## みんなの力で素敵な畑に！Ⅱ

地域の皆様が整備してくださった畑で、今年もたくさんの作物を育て、収穫することができました。そのおかげで、様々なイベントを催し、地域の皆様と一緒に美味しくいただくことができました。子どもたちも、達成感や成就感を得るとともに、主体性もぐんぐん伸びてきています。

**親子ピザ作り体験**



**「冷やしトマト祭り」& 「焼きとうもろこしパーティー」**



**メロン・スイカ祭り**



**「おでんパーティー」**

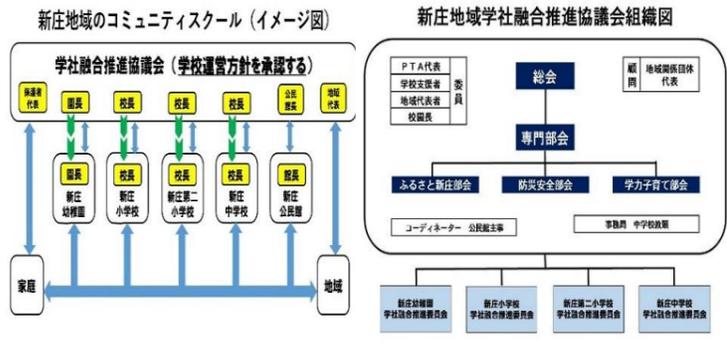


|  |   |  |       |
|--|---|--|-------|
| 学校・園名  | 田辺市立稲成小学校   | 公民館名   | 稲成公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子   |   |  |       |
| <p>当地域では、学校と公民館、地域の代表者が中心となり、地域へ働きかけ、学社融合を推進してきた。今年度は公民館・地域との打合せを密に行い、コロナ以前に実施していた行事を形態を変更しながら復活させてきた。内容の変更については、育友会や公民館、地域の協力を得て、より良い方法を考え、運動会やふれあい文化祭に取り組んだ。公民館や地域の方々との打合せを通して、年間の計画は概ね予定通り実施することができた。</p> |   |  |       |
| 目<br>標   | 学校・園・地域   | <p>〈学校の目標〉</p> <p>①農業体験ボランティアとの連携を通して、地域学習及び農業体験学習の充実を図る。</p> <p>②図書ボランティア活動を継続することを通して、児童の読書意欲を喚起する。</p> <p>③交通安全ボランティアとの連携を通して、より安全な登下校指導体制を構築する。</p> <p>〈地域の目標〉</p> <p>①学校教育に関わることで、地域の子どもたちとの良好な信頼関係を結ぶ。</p> <p>②ふるさと学習を支援することで、地域の歴史や文化を語り継ぐ。</p> <p>③子どもたちが安全に登下校できるように支援する。</p>                                   |       |
|  | 校（園）区の推進組織（組織体制図）   | 支援者及び支援組織  |       |
|  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲成校区協議会</li> <li>・稲成公民館運営協力委員会</li> <li>・稲成町内会</li> <li>・むつみ町内会</li> <li>・稲成愛郷会</li> <li>・稲成小学校育友会</li> <li>・民生児童委員会</li> </ul>  |       |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）   |   |  |       |
| 学校   | 成果  | 課題   |       |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会は、午前中開催の中、コロナ以前に実施していた地域種目を2種目実施することで、学校と地域の交流を図ることができた。</li> <li>・夏祭りやふれあい文化祭では、公民館や町内会と密に打合せを行うことで、児童が安全に楽しく過ごせるような行事にすることができた。</li> <li>・登校時の交通安全については、公民館や地域の協力を得て、児童の安全な登校に努めることができた。</li> <li>・学社融合推進協議会の委員さんに来校していただき、授業参観や交流を行うことを通じて、学校の取組や児童の様子について理解していただくことができた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症予防の観点から、運動会の日程を変えたり、午前中開催を定着させたりしていけるよう、育友会や地域との連携を図る。</li> <li>・ふれあい文化祭は学校も地域も参加・参観できるような取組を実施・継続していく。</li> <li>・行事の多い2学期については、実施できる内容を精査しながら、持続可能な教育活動を意識した取組を進める。</li> <li>・新しい公民館を活用した地域の方々との交流の場面を考えていく。</li> <li>・新しい文化的・人的資源の情報収集に努め、地域に根ざした教育活動をさらに推進していく。</li> </ul> |       |
| 公民館（地域）  | <p>新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し行動の制限が無くなってから2年目となり、コロナ禍により自粛していた事業を昨年度よりさらに多く開催する事が出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の運動会は、稲成小学校の運動会と併催し、地域種目を2種目実施した。</li> <li>・公民館で実施した稲成町の敬老行事では、稲成小学校の児童から高齢者へ手紙を書いていたが、出席者全員に配布した。（欠席者には各区長から記念品と共に配布した。）</li> </ul> <p>これまで実施してきた事業を検証して課題を洗い出し、必要に応じて改善を加え事業をより良いものにしていきたい。</p> <p>特に学社融合に関するものについては学校や保護者などと連携し、単にコロナ禍以前の事業を復活させるだけでなく、地域性や時代の流れに合わせた形での事業実施を検討していく。</p> |  |       |

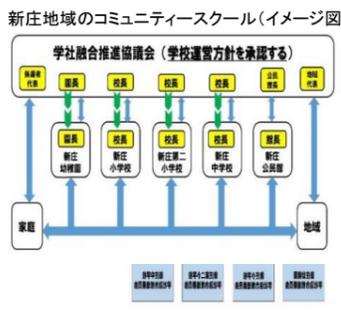
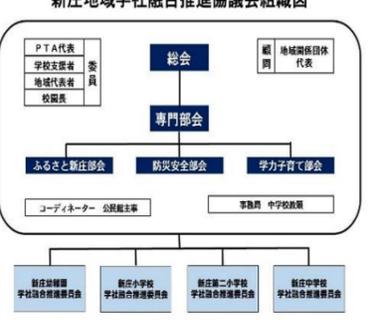
|   |  |
|---|--|
| 今年度の取組内容  |  |
| 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |  |
| <p>年度当初の学社融合推進協議会では、今年度の実施計画や役員紹介、前年度の取組やその成果と課題等について話し合った。</p> <p>その中で、コロナ以前に取り組んでいた内容を見直しつつ、新しい形として工夫・変更を加えながら実施していくという方向性を決めた。昨年度から再開してきた行事のように、学校、地域、公民館の連携を図ることで、子どもの学びが深まったり、楽しく学んだりできるような取組が進められるようにしていく。</p> <p>特に、運動会の地域参加や夏祭りの実施、ふれあい文化祭の実施については、今後を見通した取組となるように実施形態を継続可能なものにしていく。</p> <p>また、地域や保護者にご協力いただいている農業体験ボランティアや図書ボランティア、交通安全ボランティアについては、今後も継続的な取組を進めていくという考えで一致した。</p> <p>防災面では、令和7年1月に田辺市防災訓練日に合わせて、地域と連携した取組を実施できるように計画している。避難訓練や消防体験、避難所のパターショングリ作り等を通して、防災意識が高められるようにしていきたい。地震が増加している昨今、今後も地域ぐるみでの取組を進めていければと考えている。</p> |  |
| 特徴的な協働活動  |  |
| <p>学社融合に関わる学習は、保護者をはじめとする地域社会の方々との積極的な協力体制が必要である。地域の人々や自然、施設、産業などとの関わり合いを通して、豊かな心を育んだりするとともに、地域を知り、地域に対する愛情を育てることをねらいとしている。今年度の学習発表会は、保護者以外の地域の方々にも見ていただくことができた。1年生は、詩と音読発表・鍵盤ハーモニカ演奏。2年生は歌と鍵盤ハーモニカ演奏、手作りおもちゃの紹介をタブレットを使い紹介。3年生は、校区内の「よってって」に見学に行ったまとめをタブレットを使って発表。4年生は、福祉学習で学んだことを生かしたみんなが暮らしやすい町についての発表。5年生は、「田植え」と「稲刈り」の体験活動をもとに自分たちの地域の農業について発表。どの学年もICTの活用が増えてきた。6年生は、学校の近くにある「道場」の「植芝盛平」の演劇をした。練習の成果が表れ、大変面白くてできていて、在校生や地域の方々にも好評であった。</p>  |  |
|   |  |
| <p>午後からは、公民館主催で「稲成・むつみふれあい文化祭」が行われた。南紀子どもステーションチームのよさこい踊りと、男声コーラスグループによる合唱を楽しんだ。最後には、恒例の餅まき・お菓子まきがあり、児童はとても楽しい一日を過ごした。</p>  |  |
|   |  |
| <p>今後も、日々の教育活動を実践していく中で、地域人材を活かした学習の「学校力」の向上、保護者との信頼関係を基盤とした「家庭力」の向上、学校支援ボランティア活動を通して培う「地域力」の向上を、目標達成の3つの柱とする。そして、『地域とともにある学校づくり』や『学校を核とした地域づくり』を目指していきたい。</p>  |  |

|  |   |  |          |
|--|---|--|----------|
| 学校・園名  | 田辺市立会津小学校   | 公民館名   | 秋津・万呂公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>会津小学校は、現在419名の児童が通学しており、保護者(育友会)、校区協議会、公民館、子ども会、老人会等、地域の各種団体との連携・協力を得ながら子どもたちのために様々な教育活動に取り組んでいる。今年度も「会津さわやかコンサート」「合同作品展」「獅子舞鑑賞」「防災学習」「昔の遊び体験」などを行った。また、地域の方々による「登下校の見守り活動」や「ラジオ体操」などもあり、地域で積極的に子どもたちを見守り、育む活動が展開されている。さらに、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」では、子どもたちがスポーツに親しむ多くの機会を提供しているため、子どもたちのスポーツに対する興味・関心が高まっている。 |   |  |          |
| 目 標  | 学校・園・地域   | 【学校】<br>様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して  |          |
|  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の伝統や文化とそその地域に住まう人々を大切にし、感謝する心を養う。</li> <li>言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。</li> <li>発表や作品の観賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。</li> </ul>   |          |
|  |   | 【地域】<br>公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する。  |          |
| 校(園)区の推進組織(組織体制図)  |   | 支援者及び支援組織  |          |
|  |   | 会津小育友会<br>会津小校区協議会<br>秋津公民館<br>万呂公民館<br>会津スポーツクラブ  |          |
| <b>成果と課題(学校・公民館からの視点)</b>  |   |  |          |
| 成果   |   | 課題   |          |
| 学校   | 2年生「町探検」や5年生「防災タウンウォッチング」などを通して、地域について詳しく学ぶことで、児童が地域への愛着心をもつことにつながっている。<br>校区協議会主催の「会津さわやかコンサート」は、育友会や町内会役員の協力を得て開催することができた。地域一体となった盛り上がりのある演奏会となった。<br>今年度から会津夏祭り実行委員会主催の「会津夏祭り」が会津小学校を会場として開催された。地域の方々や児童が交流する良い機会となった。 | 今後も実施できる取組であるかの内容を精査しながら持続可能な活動にしていく必要がある。そのためにも、学校と公民館が互いに情報を共有しながら、取組をすすめていく。<br>学社融合担当者や関係職員以外の教員も地域との関わりを広げる機会を設ける必要がある。教師間の入れ替わりもあるため、継続して取り組むことができるような位置付けを行っていききたい。<br>地域課題に目を向けることができるような、新たな地域教材を発掘していく必要がある。 |          |
| 公民館(地域)  | 今年度の万呂公民館作品展は、衆議院議員選挙の影響で1ヶ月延期することになった。そのような中でも、児童が学習の成果を発表する機会になり、多くの児童や地域の方に参観していただくことができた。<br>公民館主事が地域のコーディネーターとして、学校と地域をつないでいる。今年も、「町探検」や「防災タウンウォッチング」など、児童は地域について学ぶことができた。   | コロナ禍で中止となっていた行事が復活してく中で、これまでの取組を知らない人が増えている。児童数の減少や学校行事の精選など、時代の変化の中で、今の時代にあった取組や体制に見直す必要がある。<br>万呂・秋津公民館が児童が学ぶ機会を提供できるように、ゲストティーチャー・ボランティアを探している。今後も地域の協力者を一人でも多く見つけていくことが必要である。                                      |          |

|   |  |
|---|--|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)  |  |
| <b>第1回 会津小学校学社融合推進協議会</b><br>・会津小学校学社融合推進協議会は令和6年5月20日に開催され、以下のような内容の協議を行った。<br><b>【議事】</b><br>①役員選出 ②会津小学校スクールプラン(学校運営の全体構想)<br>③会津小学校 地域学習および連携授業・行事等計画<br>④令和6年度 収支予算書 ⑤その他  |  |
| <b>◇地域と連携した協働的な学び ~今年度の主な活動について~</b><br>小学校からの依頼があれば協力できるように、ゲストティーチャーやボランティアを探している。公民館は人材バンクの充実を進めていこうと考えている。<br><b>◇地域全体で子どもを見守る~「登下校の見守り活動」~</b><br>町内会の組織である「万呂学童見守ろうかい」が、登下校時に交通量の多い箇所子どもたちが安全に渡ったり歩いたりできるように見守り活動を行って来ている。見守りメンバーの方々は交通指導だけでなく、日々の児童の様子についても観察をし、職員や保護者の登校指導の際に、情報を伝えてくださっている。道路拡張工事が進み、校区内で交通量が増えている箇所もあるため、今後も安全に配慮する必要がある。 |  |
| 特徴的な協働活動  |  |
| <b>2年 町探検</b><br>万呂公民館主事の協力を得ながら、1学期は校区内の町探検(お店見学)を実施した。お店で働く方々にインタビューを行い、工夫や苦労について学ぶことができた。<br>2学期は万呂公民館を訪れ、公民館主事から万呂公民館の歴史や、公民館の地域での役割や活動について話を聞いた。<br>公民館で働く主事の話聞くことで、身近な公共施設について知るとともに、公民館の活動に興味をもつことができた。  |  |
| <b>3年 地域学習</b><br>地域の方(学社融合推進協議会メンバー)、万呂町内会長、公民館主事をゲストティーチャーに招き、「自分たちの地域をもっと知ろう」をテーマに学んだ。<br>公民館主事からは、地域の施設、自然や地理について詳しく教えていただくことができた。町内会長さんからは、地域の信仰のよりどころである須佐神社の話や地域の歴史について教えていただいた。この学習を通じて、3年生児童の地域への愛着心を一層深めることができた。  |  |
| <b>会津夏祭り</b><br>秋津・万呂盆踊り大会は、これまで紀菜館の駐車場を会場として開催してきた。今年度は、「秋津・万呂両地域の住民が、地域を超えて交流する場所をつくり、地域活性化へと繋げる」を目的にし、『会津夏祭り』に名称を変え、会津小学校の運動場で開催した。当日は、町内会・公民館サークル団体が夜店を出店し、多くの地域の方々が小学校に集まった。また、地域の方々と一緒に盆踊りを楽しむ児童の姿が見られた。  |  |
| <b>会津さわやかコンサート</b><br>会津校区協議会主催の「会津さわやかコンサート」には、毎年多くの保護者や地域の方々が集っている。今年度も、各学年の合唱・合奏や高雄中学校吹奏楽部の演奏を披露し、会場全体が一体となる演奏会となった。   |  |

|  |  |   |       |
|--|--|---|-------|
| 学校・園名  | 田辺市立新庄小学校  | 公民館名  | 新庄公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取り組みも進めている。 |  |   |       |
| 目 標  | 田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則<br>第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。<br><br>本校における学社融合の目標<br>地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。 |   |       |
| <b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b><br>   |  | <b>支援者及び支援組織</b><br>学社融合推進協議会<br>○ 幼稚園・小中学校教育友会<br>○ 学校支援者・地域代表者<br>○ 地域関係団体<br>○ 公民館運営委員会<br>○ 新庄地区校区協議会<br>○ 新庄共育コミュニティ本部<br>その他関係機関<br>○ 新庄地区老人会<br>○ 真寿会<br>○ ふたば福祉会<br>○ 南紀のぞみ会<br>○ 社会福祉協議会 |       |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |  |   |       |
| <b>成果</b>  |  | <b>課題</b>   |       |
| 学校<br>・地域の方々の協力を得ながら、専門的なお話を聞いたり体験的な活動を行ったりすることができ、児童は学びを深めることができた。<br>・地域の行事に参加したり、地域の方々とともに活動したりすることで、地域の文化や伝統を身近に感じ地域を誇りに思う心を育むことができた。<br>・地域の方々との交流後にお礼の手紙を書くなど、関係を継続することができた。                         | ・それぞれの活動後、児童が主体的に継続した取組ができるよう、目的や目標の持たせ方を工夫したい。<br>・地域を学ぶだけでなく、地域にも貢献できる学校となるよう取組を進めていきたい。<br>・体験活動が、教科との関連を意識し、より効果的な取組となるよう工夫したい。  |   |       |
| 公民館（地域）<br>・地域の方が授業に参加できることで地域のことを伝えたり、特技を披露することができ、生きがいに繋がった。また、特色ある地域の伝統文化を次世代へ継承できる良い機会となった。<br>・地域人材を活用した新たな取組を展開した。子どもたちの学びだけでなく、大人にとっても新たな発見のある事業を実施することができた。  | ・より多くの方に事業に携わってもらえるよう、情報提供や参加しやすい雰囲気づくりに努め、地域学習の幅をさらに広げていきたい。また、新たな地域人材の発掘にも取り組んでいきたい。<br>・効果的な事業の実現に向けて、学校と公民館の情報交換等をより積極的に行っていきたい。   |   |       |

|   |   |
|---|---|
| <b>今年度の取組内容</b><br><b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>  |   |
| ◇学力子育て部会<br>・保護者学級の活用<br>各校の保護者学級を学社融合推進協議会を通じて協議会委員に知らせ、参加を呼びかけた。<br>・教育講演会は、今後も検討していく。  | ◇ふるさと新庄部会<br>・内之浦干潟親水公園での観察会<br>地域の豊かな自然に触れ、大人と子供が一緒になって楽しく学べる機会として、干潟観察会を企画。講師には、地元でヒロメ研究等をされている山西秀明氏に依頼した。当日は20名程度の参加があり、親子で楽しく干潟の観察をすることができた。<br>・来年度以降も、継続事業として子供が参加できるイベントを企画していく。 |
| ◇防災安全部会<br>・田辺市消防団新庄分団の協力で、防災学習を実施。   |   |
| <b>特徴的な協働活動</b>   |   |
| <b>「ぎおんさんの夜見世」（3年生・1学期）</b><br>地域の方をゲストティーチャーに招き、「ぎおんさんの夜見世」の歴史や由来、作り方について学んだ。児童は、テーマ毎に生き物などを表現した作品を作り、地域の伝統行事に参加した。この学習を通じ、児童は地域への愛着心を一層深めることができた。   |   |
|   |   |
| <b>「農業体験」</b><br>◇梅収穫体験（5年生・1学期）<br>◇みかん収穫体験（4年生・2学期）   |   |
| 地域の方の梅畑やみかん畑に出向き、収穫体験を行った。JA紀南新庄支所の皆さんにもお手伝いいただいた。5年生の「梅収穫体験」では、収穫したばかりの実をじっくり観察することで新たな発見があったり、収穫するときの危険を知ったり、収穫するまでにたくさんの苦労があることが分かった。<br>4年生の「みかん収穫体験」では、再来年も実がなるための収穫の仕方や獣害から実を守るための方法などについて話を聞いた。<br>これらの体験活動を通して、農家の方の努力や工夫を知り、収穫する喜びを感じることができた。和歌山県の特産物である梅・みかんに触れる良い機会となった。 |   |
|    |   |

|  |  |   |       |
|--|--|---|-------|
| 学校・園名  | 田辺市立新庄第二小学校  | 公民館名  | 新庄公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、学校運営に地域の声を積極的に生かし、学校・家庭・地域が一体となり、「地域とともにある学校づくり」を進めている。各園・学校単位でも学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとに特色ある学校づくりを進めている。 |  |   |       |
| 目 標  | <b>学校・園・地域</b><br>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則<br>第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。<br><b>新庄第二小学校教育目標</b><br>自ら学び、人にやさしく自分にきびしく、心豊かにたくましく生きる児童の育成をはかる。  |   |       |
| 校(園)区の推進組織(組織体制図)  |  | 支援者及び支援組織   |       |
| 新庄地域のコミュニティスクール(イメージ図)<br>   |  | 新庄地域学社融合推進協議会組織図<br>  |       |
| <b>学社融合推進協議会</b><br>○幼稚園・小中学校育友会<br>○学校支援者・地域代表者<br>○地域関係団体<br>○公民館運営委員会<br>○新庄地区校区協議会<br><b>新庄第二小学校学社融合推進委員会</b><br>○育友会本部役員<br>○主任児童委員<br>○元学校評議員<br>○校長・教頭・学社融合担当   |  |   |       |
| <b>成果と課題(学校・公民館からの視点)</b>  |  |   |       |
| <b>成果</b>  |  | <b>課題</b>   |       |
| <b>学校</b>  | ①公民館や関係機関と連携・協働し、地域の人的資源を効果的に活用した学校経営をすることができた。【例】総合学習の単元計画や学校行事を立案する際に、公民館主事や学社融合推進協議会長、同推進委員に参画してもらうことにより、地域の特色を生かしたカリキュラムを実施。<br>②学校課題解決に向けたチームを学校の校務分掌と育友会の部会を併せて組織し、協働しながら解決に向け取組を進められている。<br>③校内研修の門戸を学社融合推進協議会委員にも開いて実施することにより、学校の現状や喫緊の教育課題を理解してもらうことができた。 | ①学校教育側のメリットだけでなく、社会教育側のメリットも考えカリキュラム設計しているが、公民館と連携・協働し、取組(カリキュラム)を毎年ブラッシュアップしていく必要がある。また、保護者や地域の人々とビジョンや目標をいかに共有していくかも課題である。<br>②教職員の入れ替わりが早いので、取組を持続可能なものにしていくために先を見通した校内配置を工夫していく必要がある。<br>③校内における取組の格差を無くしていけるよう、また、取組の質の向上を図れるよう、学級担任と教科担任が連携しカリキュラム設計をしていく必要がある。 |       |
| <b>公民館(地域)</b>   | ①「新二まつり」「サークル活動(箏・グラウンドゴルフ・俳句)」「新庄ぎおんさんの夜見世」など多様な取組により、多くの地域の方が活動に参加できた。子どもたちの活動や様子を知れるとともに、多世代の交流にも繋がった。<br>②地域の方が授業や学校行事に参加できることで地域のことを伝えたり、特技を披露することができ、生きがいに繋がった。  | ①学校で行っている学習や子どもたちに教えたことをよりの確に把握し、地域から適した人材を紹介できるネットワークを構築していく。また、地域として子どもたちにどういったことを伝えていきたいのか、住民の話をよく聞き把握していく必要がある。<br>②学校と地域それぞれの活動や課題をお互いに共有し、共通の目標に向けてできることを共に検討していきたい。  |       |

|   |   |
|---|---|
| <b>今年度の取組内容</b><br>会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)   |   |
| <b>* 学力子育て部会</b><br>協議内容:教育諸課題について学べる機会の提供について<br>昨年度より、それぞれの学校で実施している保護者学級の門戸を新庄中学校区に広げ、新庄地域の保護者それぞれが、必要と感じているテーマ(教育諸課題)を取捨選択し、小学校区を超えて一緒に勉強できる機会として提供できるようにしている。  |  <p>12月12日に新庄第二小学校で実施した保護者学級</p>       |
| <b>* ふるさと新庄部会</b><br>協議内容:フィールドワークについて<br>地域を知るために、絶滅危惧1類に選定されているシオマネキ等が生息している内之浦干潟親水公園での現地学習を地域の人、学校職員、子供を対象として実施した。   |  <p>11月10日に新庄第二小学校で実施した新二まつりでの親子体験</p> |
| <b>* 防災安全部会</b><br>協議内容:防災体験の実施について<br>消防新庄分団・田辺市消防本部と防災参観日・新二まつりにおける親子防災体験活動の内容について確認した。   |   |
| <b>特徴的な協働活動</b>   |   |
| <b>1. 学校図書館改造プロジェクト</b><br><b>保護者×学校(職員)×学校(児童)×地域(専門家)の取組</b><br>本校の学校図書館は、新館2階に設置されている。木材を基調にしたきれいな空間であるが、127名の児童用の空間であることを考えると少し狭く、学級単位での学習活動が困難な状況にある。そのため、新庄愛郷会からの助成を活用し、2024・2025年度の2カ年計画で新館2階にある図書館の真向かいにあるコンピュータ室を図書館機能を備えた多目的空間にリニューアルする計画に着手している。この計画は、2023年度より育友会研修部(保護者)、学校の図書委員会(児童)、学校の関係職員(教職員)が意見を出し合いながらその実現に向け、協働してきている。旧コンピュータ室を足を運びたくなる空間に変えることができれば、子どもたちの読書離れに歯止めをかける一助、また、学級単位の授業での学校図書館活用の活性化にもつながると考えている。新学校図書館での楽しい読書体験は読書活動の推進につながるだけでなく、子どもたち個々のウェルビーイングにつながることも期待している。 |   |
|  <p>地域の方(設計士)が描いたコンピュータ室改造設計図</p>  |   |
| <b>2. 教科学習と読み聞かせをつなげるカリキュラム設計</b><br><b>保護者・地域(読み聞かせ)×学校(教科学習)の取組</b><br>本校には、月一回程度、朝の時間に読み聞かせに来てくれる図書ボランティアの方々がいる。随時募集し、今年度は地域の方と保護者合わせて7名の方が在籍してくださっている。10月に行った国語科の授業後に、図書ボランティアの方々に協力してもらい授業で扱った作品のジャンルと関連づけた本の読み聞かせをしてもらった。読み聞かせ終了後、図書ボランティアの方から「どの本も最後まで興味深く聞いていて、反応もよかったです」との感想をいただいた。そのジャンルのお話のおもしろさを学習をした子どもたちだからこその反応である。本取組は、各学年の児童の日常生活における読書習慣につなげられる機会となった。  |   |
|  <p>保護者・児童による協働作業(椅子のリペア)</p>  |   |
| <b>3. 地域の人的資源を活用したサークル活動・新二まつり</b><br><b>公民館×地域×学校</b><br>年間通じて6回地域の方をゲストティーチャーに迎え、サークル活動を実施している。今年度は、8つのサークルを開設している。サークル開設に当たっては、新庄公民館主事と連携を密に取り、講師としてサークル活動に参画してくれる地域人材を発掘していただいている。新二まつりの親子体験活動も同様に公民館と連携を取りながら運営している(親子体験ブース9つ開設)。  |   |
|  <p>図書ボランティアさんによる特定ジャンルの読み聞かせ</p>  |   |
|  <p>地域の方から学ぶ親子体験 11/10実施の新二まつりより</p>   |   |

|   |   |   |       |
|---|---|---|-------|
| 学校・園名   | 田辺市立三栖小学校   | 公民館名  | 三栖公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>本校区は、梅を中心とする農村地域である。しかしながら、宅地造成や集合住宅の建設が進み、近年は専業農家数が減少傾向にある。また、他の地域からの転入数も多くなってきている。このような状況の影響により、昔と比べ、人と人との繋がりが難しくなっている。本校PTA組織は「育宝会」と名付けられており、子どもは地域の宝という意識が地域全体にある。地域は学校に協力的で、運動会等の学校行事やクラブ活動、教科学習でも各種団体に協力をいただきながら取り組んでいる。   |   |   |       |
| 目 標   | ・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者に関わろうとする態度を育てる。<br>・体験を通して、コミュニケーションを図るとともに、自他に関心を持つ。<br>・地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員として自覚をもたせ、ふるさとを愛する心を育てる。<br>・子どもと地域への愛着、地域貢献の心を育む。<br>・地域住民が子どもたちとのふれあいから、子どもたちの様子を知り、教育活動への関心を高める。 |   |       |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |   | 支援者及び支援組織   |       |
| 会長（公民館長）<br>副会長（町内会長）   | 委員<br>・地域関係者<br>・保護者<br>・校長   | ・三栖公民館文化委員<br>・クラブ活動外部講師<br>・交通安全指導員<br>・交通安全協会<br>・衣笠中学校<br>・三栖幼稚園<br>・保護者 |       |
| 事務局   | ・公民館主事<br>・小学校教頭<br>・小学校学社融合担当職員  |   |       |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>   |   |   |       |
| 成果  |   | 課題  |       |
| 学校<br>・幼稚園訪問では、歌や遊びを通して楽しみながら交流することができた。<br>・衣笠中学校合唱部による小学校での歌声披露では、美しい歌声やハーモニーを聞くことで、児童の音楽会に向けての意欲を高めることができた。<br>・梅学習では、JAの職員さんや地域の方に協力をいただき、梅の生産に関わるお話や梅探り体験を通して、学習を深めるとともに地域の特色について学ぶことができた。<br>・防災学習では、地域や保護者の皆さんを対象にアンケートを実施し、児童がそれを分析して、地域や保護者の方が抱えている不安に対するの意見文を書く活動を行った。この学習を通して、地域の方々と共に防災について考える機会にすることができた。<br>・史跡巡りでは、文化委員さんに語り部をしていただきながら地域の史跡を巡ることで、地域に対する誇りと愛情を育むよい機会になったとともに、地域の方との交流の機会となった。 | ・様々な機会を捉えて、幼稚園や中学校との交流の機会を更に増やしていきたい。<br>・学校職員と地域の方々との繋がりを広げたり深めたりする機会の工夫をしていきたい。<br>・地域の方々とともに防災について考える取組を増やしていきたい。<br>・職員の入れ替わりがあっても取組が持続可能であるかを意識して計画を立てていきたい。   |   |       |
| 公民館（地域）<br>・史跡めぐりでは、小学校側で事前学習を行っているため、詳しい内容の質問が出てきて、より深く地域の歴史について考えている様子がうかがえた。<br>・継続して史跡めぐりを行うことで、公民館側としても史跡について新たな発見が生まれている。<br>・文化展では、子どもたちが史跡めぐりの学習発表することによって、保護者や地域の方々にも三栖の歴史についてご理解いただける機会となっている。  | ・より子どもたちに興味を持ってもらえる史跡巡りになるよう、内容の改善を行ってきたい。<br>・平日の学社融合に関係した事業へ参加してくださる方はどうしても固定化されている。そのため、休日に実施する事業により多くの方に参加いただけるような工夫をしていきたい。  |   |       |

**今年度の取組内容**  
**会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）**

協議の際にいただいたご意見や話題になったことを元に、取組の工夫・改善を行ってきた。

①学校の取組や子供たちの様子を知る機会を増やしてほしい。  
 ・学校行事に地域の方を招待する機会を増やした。  
 ・運動会を全校開催にし、保護者と職員が参加する種目を設けることで、交流の機会とした。  
 ・1日まるごと参観日を学期ごとに2日間設定し、授業のみならず、休み時間や給食の時間などにも保護者が子供たちの様子を見に来ることができるようにした。  
 ・育宝会（PTA）役員を対象に給食試食会を開催し、感想やご意見をいただいた。  
 ・修学旅行やキャンプ等の宿泊体験学習の際、本校LINE公式アカウントのタイムラインを使って写真・動画・テキストでリアルタイムに様子を配信した。  
 ・運動会や音楽会の様子を動画にまとめ、youtubeで保護者に配信（限定公開）した。

②学校と地域が共に防災について考える機会があればありがたい。  
 ・防災学習の際に、地域の方にアンケートを実施し、それを児童が分析して学習に活かしたり、意見文として回答者に情報を提供したりする活動を行った。  
 ・公民館文化展にて4年生の防災学習の発表を実施する。（2月）

③三栖幼稚園の園児を増やしたい。  
 ・幼小連携協議会を開催し、児童と園児の交流機会や職員が互いに訪問する機会を多く設定することで、幼小連携の強みを生かすようにした。

**特徴的な協働活動**

4年生 地域×防災×他教科の取組

【社会科】「自然災害から人々を守る」  
 ・一般的な災害と対策についての学習  
 （風水害・地震・津波）  
 ・社会科見学（土砂災害啓発センター）

【総合的な学習の時間】「地域と防災」  
 ・三栖地域の防災について考える  
 ・防災についての調べ学習  
 ・地域、保護者への防災アンケートの実施・分析

↑ 防災学習をより深める

学んだことを、家族や地域の人たちに伝えたい！！みんなの命を守りたい！！  
 まずは、アンケートに記名回答して下さっていた方々の「自身の課題・不安」に対して自分たちが大事だと思ふことを文章に書いて伝えることにした。  
 自分の考えを書き表す難しさを感じつつも、とりあえず書いたものを防災目線から土砂災害啓発センターの職員さんに、地域目線から三栖公民館長さんに事前に読んでもらったが、やはり考えがうまく伝わっていない様子だった。

【国語科】「もしものときにそなえよう」  
 「自分の考えが伝わる意見文」の書き方を学び、情報整理・文章構成の再考・加筆修正をして完成。  
 アンケートに記名でご協力いただいた方々に意見文を送付したところ、地域・保護者の方々からたくさんのお返事をいただいた。

もっとたくさんの人に伝えたい！

【国語科】「クラスみんなで決めるには」  
 たくさんの人に伝える方法を考えて話し合い、2月の公民館文化展で地域の防災についてまとめたことを発表することに決定！

アンケートへの意見文、しっかり読ませていただきました。みんなそれぞれがしっかり学んでいておどろきました。ありがとうございます。私もすごく勉強になりました。土砂災害は、3種類あり、それぞれ逃げ方があること。

防災意見文をお送りいただきありがとうございました。作文を通して、みなさんが防災のことをとてよくわしく学習したことがわかりました。そして、地震による建物の倒壊や火災の怖さと、それから身を守るために気を付けるべきことがよくわかりました。もし、地震が起きたら、すぐに火を消すこと、逃げるときは建物から離れて、できるだけ高く広い所へ逃げようと思います。

色々教えて頂きありがとうございます。大変勉強になりました。家に居るときは安全な場所を事前に考えておき、家に居るときは、土砂災害、浸水被害、火災を想定して、行動するよう心がけておきます。トイレの水は、やり方、調べておきます。台風が来るときは、雨戸は、閉めませんが、ニュースなどで、降水量が多い時は、閉めようと思っております。何かあった時の避難場所は、子供達に教えておく。自分達、近く避難して

【総合的な学習の時間】「地域と防災」  
 ・調べ学習  
 ・パワーポイントの資料作成

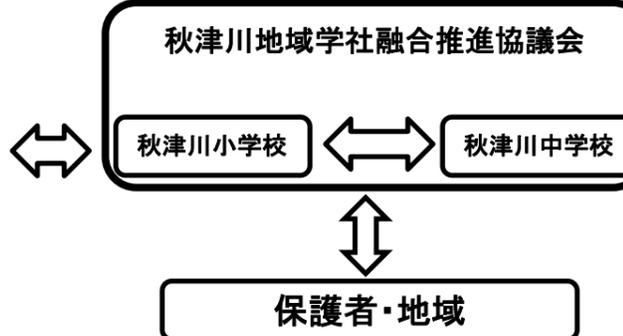
公民館文化展での発表

|   |  |   |       |
|---|--|---|-------|
| 学校・園名   | 田辺市立長野小学校  | 公民館名  | 長野公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>本校区は自然豊かな地域で、長野区では梅やみかん作り、伏菟野区では米作りやきくらげ生産に携わっている家庭が多い。地域の方々は、協力的でいつも児童を温かく見守ってくれている。児童らは、公民館や郷明会等の諸団体、地域の方々の協力を得ながら、地域の自然・産業・歴史・伝統文化等を学ぶことで、地域の素晴らしさを知るとともに地域を愛する心が育まれている。また、学校行事には地域から多くのご参加をいただき、児童と地域の方々の交流はもちろんのこと、地域の方々同士が交流する機会にもなっている。 |  |   |       |
| 目 標   | <b>学校・園・地域</b><br>地域と共にある学校づくり<br>～学校・家庭・地域のみんで自立・共生・健康をめざして～<br>学校・家庭・地域の三者の力を集め、「自立」「共生」「健康」という長野小学校の教育目標を地域住民の目標としつつ、三者が知恵を出し合い、当面する教育諸課題克服のための諸取組を模索し、展開していく。  |   |       |
| <b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b>  |  | <b>支援者及び支援組織</b>  |       |
|   |  | 学社融合推進協議会<br>○ 小学校育友会<br>○ 長野公民館<br>○ 長野町内会<br>○ 長野校区協議会<br>○ 長野郷明会<br>○ 地域関係団体<br>その他関係機関<br>○ JA紀南長野店<br>○ 光福寺<br>○ 不動寺<br>○ 各区老人会<br>○ 長野・伏菟野地域の方々 |       |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>   |  |   |       |
| <b>成果</b>   |  | <b>課題</b>   |       |
| 学校<br>・校内整備作業や運動会、ジャム作りや地区内ハイキングでは、公民館や諸団体、地域の方々にご協力いただき実施することができた。<br>・学習発表会や参観日にもお越しいただき、児童の頑張りを見ていただくことができた。<br>☆児童は地域の方々にも温かく見守られていることを実感したり、地域への関心を持つとともに、自然豊かな地域の良さについて学ぶ機会を得たりすることができた。  | ・児童数減少が気になるころではあるが、児童には、地域学習や体験活動の範囲を広げ、児童の目がより地域に向くよう進めたい。さらに地域を学びたいという意欲を持たせたい。<br>・児童も地域に住む一員であることを自覚させ、自分たちも地域のためにできることがないかを考え、行動・発信につながっていくカリキュラムづくりを進めていきたい。<br>☆長野・伏菟野地域への愛着や誇り、地域に貢献する心を育てていきたい。 |   |       |
| 公民館（地域）<br>・定期的な学校の整備活動に参加した。児童のいない上野地区からも来てくださる方がおり、ありがたい限りです。<br>・地区内ハイキングでは伏菟野方面へ。初めての試みとして、畜産農家さんの牧場にお邪魔し、地域で働く方と子どもたちの交流になり、子どもたちの視野も広がったのではないかなと思う。   | ・地域柄、農家さんが忙しい時期には学社融合としての活動はなかなか難しいが、負担のないように地域・小学校と連携して取組を継続していきたい。<br>・学社融合に関わる方々の高齢化は依然として存在するが、今後とも学社融合の取組が継続・発展することができるよう、今あるつながりを大切にしていきたい。  |   |       |

|  |                     |
|--|---------------------|
| <b>今年度の取組内容</b><br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |                     |
| ◇ 学校や地域の課題は…（学校と地域が連携して課題解決に取り組める）   |                     |
| 学校<br>・少人数での学校生活<br>・職員数が少ない。<br>・地域教材を生かし、長野だからできる学習に取り組みたいが、職員だけで進めるのは難しい。   | 地域<br>・人口減少<br>・高齢化 |
| ◇ 課題解決に向けて<br>▶ 授業への協力<br>昔遊び 生き物学習 ほたる学習 読み聞かせ 等<br>▶ 行事への協力<br>運動会 遠足 ふるさとをきれいに 草刈りボランティア<br>地区合同避難訓練<br>整備作業（木の剪定等）   |                     |
| どの委員さんからも「できることは何でもしたい」とありがたい言葉をいただきました！   |                     |
| 特徴的な協働活動   |                     |
| <b>【ブルーベリージャム作り】</b><br>①ブルーベリー摘み取り体験（7月16日）<br>全校児童で、西原地区にある竹内さんの「ブルーベリー園」で摘み取り体験をした。摘み取りに適した実の見方や摘み取り方を教えていただき、色の濃い大きな粒を選びながら一粒一粒丁寧に摘み取った。250g用カップいっぱい、一生懸命摘み取ることができた。学校に戻り、ジャム作り用に洗って冷凍保存した。上級生が下級生にやり方を教えるなど経験が学びになっていると感じた。   |                     |
|  |                     |
| ②ブルーベリージャム作り（11月7日）<br>1学期にお世話になった竹内さんや、学社融合推進協議会の委員さんに教えていただきながら、ジャム作りをした。ブルーベリーを煮詰めていく作業では、あく取りをしながら、どんどんブルーベリーの実がジャムに変わっていく様子を興味深く観察していた。グラニュー糖やレモン汁を入れるタイミングなど、たくさんアドバイスをいただきながら、各テーブルで楽しく調理を行うことができた。<br>教室にいい香りが広がる中、できたてのブルーベリージャムをホットケーキにのせて食べた。自然と笑みがこぼれ、地域の方との会話（料理の感想や学校の話等）もはずみ、和気あいあいとした時間が流れた。 |                     |
|  |                     |

|  |  |   |        |
|--|--|---|--------|
| 学校・園名  | 田辺市立上秋津小学校   | 公民館名  | 上秋津公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子   |  |   |        |
| <p>当地域は田辺市の中でも、梅・柑橘類を中心とした農業の盛んな地域である。本校では、地域の農業との関わりを大切にし、長年に渡り、地域の方々のご協力を得ながら体験学習に取り組んできた。近年、幼稚園・小学校・中学校が公民館と連携し「上秋津学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の方々の意見を取り入れた学校運営を進めている。</p> |  |   |        |
| 目<br>標   | <p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、体験活動を通して地域の良さを知り、ふるさとを大切に作る心を育てる。</li> <li>・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育を進める。</li> <li>・幼・小・中・公民館が連携して地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。</li> </ul>                                      |   |        |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |  | 支援者及び支援組織   |        |
|  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験学習支援委員会<br/>(JA紀南、JA紀南青年部、上秋津公民館、育友会)</li> <li>・上秋津町内会</li> </ul>   |        |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）   |  |   |        |
| 成果   |  | 課題  |        |
| 学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館と連携を密に取りながら、各学年とも農業体験学習を実施することができた。</li> <li>・上秋津公民館では、全児童の作品を展示し、地域の方々にも児童の作品を見ていただくことができた。</li> <li>・4年生では、米作りでお世話になった方々や保護者を招いて、収穫したお米を使っておにぎりを作り、振る舞ってお返しをすることで、学習内容を充実させることができた。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫時期は、地域の農家の方々にとっても、繁忙期であるため、年間計画を調整した上で、ゲストティチャーに依頼する必要がある。</li> <li>・教師の入れ替わりによって、地域との繋がりが少なくなってしまうようにしたい。取組が継続していけるよう、計画から振り返りを充実したものにしたい。</li> </ul>  |        |
| 公民館（地域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館が持つ地域とのつながりを生かし、農業体験学習を始めとした地域学校協働活動に取り組むことができた。</li> <li>・農業体験学習においては、収穫体験後にJA青年部の方と交流することにより、上秋津の農業についてより詳しく知ってもらうことができた。</li> <li>・講師派遣や世代間交流、体験学習において、公民館から農業関係者や地域の方のつながりを生かして声掛けを行い実施することができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験学習を実施するに当たり、収穫日等があらかじめ設定できないこと、収穫期は農家にとって繁忙期であることから、協力いただく農家には少なからず負担になるため、農家の方やJA青年部の方の負担を少しでも減らし、継続していける事業にしたい。</li> <li>・各種事業実施に当たり、人材の固定化が見受けられるため、地域の史跡などを活用した学びの機会創出について検討するなど、新たな方にも取組に参加してもらえるよう努めていきたい。</li> </ul> |        |

|   |   |
|---|---|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |   |
| ◆ 第1回学社融合推進協議会 定例会（上秋津小学校） 令和6年5月23日（木）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和5年度活動報告</li> <li>○令和6年度計画</li> <li>○登下校のあいさつについて</li> </ul>                           |
| ◆ 第2回学社融合推進協議会 定例会（上秋津中学校） 令和6年10月29日（火）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○上秋津中学校 授業参観</li> <li>○各校の取り組みについて</li> <li>○上秋津防災訓練について</li> <li>○地域の春祭りについて</li> </ul> |
| ◆ 第3回学社融合推進協議会 定例会（上秋津公民館） 令和7年2月25日（火）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業参観</li> <li>○各校の取り組みと成果・課題について</li> <li>○意見交流</li> <li>○学校評価アンケートより</li> </ul>        |
| 特徴的な協働活動  |   |
| <h3>4年生 『米作りプロジェクト』</h3> <p>農業体験学習支援委員会のご協力のもと、地域の柏木さんの水田をお借りして、米作りの体験学習を行った。</p>   |   |
| <h4>①米作り座学</h4> <p>○講師として芝 光治さんをお招きして、これから行う米作りで大切なこと、気を付けること（米の種類、年間計画等）を教えていただいた。</p>   |   |
|   |   |
| <h4>②田植え</h4> <p>○柏木さんの水田で、苗植えを行った。当日は天気にも恵まれ、一本一本丁寧に植えることができた。初めて体験する児童も多く、泥の感触を楽しんでいた。</p>  |   |
|   |   |
| <h4>③稲刈り</h4> <p>●児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんな暑い中で、長袖長ズボンで作業を行うことは大変だと思った。</li> <li>・農家さんのすごさが分かった。僕たちは楽しい作業だけをさせてもらっているけど、実際は手間暇をかけて、今まで丁寧に育ててくれたんだなと実感しました。</li> </ul> |   |
|   |   |
| <h4>④お米を使ったおかし・感謝をおにぎりに込めて</h4> <p>○お米を使ったポン菓子を下田さんに実演していただき、試食した。<br/>○米作りでお世話になった方々や保護者のみなさんをお招きして、自分達で握ったおにぎりをふるまった。大変好評であった。</p>  |   |
|   |   |

|   |  |  |        |
|---|--|--|--------|
| 学校・園名   | 田辺市立秋津川小学校   | 公民館名   | 秋津川公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子  |  |  |        |
| <p>本地域は豊かな自然や伝統文化、地域産業に恵まれており、また、地域の方々の学校教育への協力体制も手厚く、常に子どもたちを温かく支えてくださっている。学社融合の取組によって、地域の産業や伝統文化等について学ぶことによって、地域のすばらしさを知り、地域を大切に思う心が育まれている。また、秋津川中学校や秋津川保育所との「保・小・中連携活動」によって、交流を縦軸にもつなぐ取組を継続している。</p> |  |  |        |
| 目 標   | <p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとに夢や誇りを持ち、未来の創り手となる子どもを育成するため、学社融合を推進し、地域の豊かな伝統、文化、産業、自然環境等について学ぶとともに、地域の方々に感謝し、地域振興に主体的に貢献しようとする態度を育てる。</li> <li>・地域の方々との温かな交流を通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域への愛郷心を養う。</li> <li>・日常的に子どもたちと接する機会の少ない方々に、行事などを通して交流を持っていただき、地域の活性化につないでいく。</li> </ul>  |  |        |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |  | 支援者及び支援組織  |        |
| 教育委員会   |    | <p>秋津川公民館<br/>秋津川町内会<br/>秋津川振興会<br/>JA紀南秋津川店<br/>JA女性会<br/>秋津川婦人会<br/>秋津川中学校<br/>秋津川保育所</p>  |        |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）  |  |  |        |
| 成果  |  | 課題   |        |
| 学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋津川公民館、秋津川町内会、秋津川振興会をはじめ、地域の方々の積極的な支援のおかげで、児童は地域の自然や産業、伝統文化のよさを実感し、学んだことを積極的に発信することで達成感を得ることができた。</li> <li>・紀州備長炭風鈴づくりやウバメガシの森づくりの植樹・育苗活動とおして、子どもたちは世界農業遺産について学びを深めるとともに、地域のために貢献する経験ができた。</li> <li>・国際ワークキャンプ事業での海外の方々との交流や、子ども備長炭サミットでの他県の子どもたちとの交流といった新たな取組とおして、多様な文化や考え方にふれることができ、新しい発見を生み出しながら、主体的なコミュニケーションをとることができていた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな活動の成果と課題をふまえ、必要に応じて教育課程の見直しを行いながら、見直しをもって実施できるようにする。</li> <li>・学社融合活動を支えてくださる地域の方々への感謝の気持ちを今後も大切にするとともに、地域社会の願いに応じて行動している子どもたちの意欲を次年度にもつないでいく。</li> </ul>   |        |
| 公民館（地域）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋津川地区は、地域全体で学校を支える体制が整っているため、町民運動会やふるさとまつりなどの各種事業において、学校、地域、公民館が一体となった協働活動を実施することができた。</li> <li>・備長炭風鈴づくりや備長炭サミット等を通して、地域の特性や資源について学びを深めることができた。</li> <li>・今後も子どもたち自身が地域の魅力を実感し、愛着が湧くような取組を実施していきたい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域では高齢化が進んでおり、児童数も減少傾向にあるため、各種事業実施に当たっては、内容を見直すなど工夫を凝らし、より地域に合った形での実施を検討していく必要がある。</li> <li>・今後も学社融合活動を支えていただいている地域の方と意見を交わしながら、秋津川地区ならではの活動を進めていきたい。</li> </ul> |        |

|   |   |
|---|---|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |   |
| <p>○学社融合推進協議会において、学校運営方針について承認をいただいた。</p> <p>○「地域全体で子どもを見守る」という観点から、次年度より各地区から委員を選出するとの方向性を確認した。</p> <p>○今年度も、地域の関係機関、各種団体と連携しながら、秋津川地域の特色を活かした教育活動を展開していくことを確認した。</p> <p>○人権教育映画鑑賞会を開き、平和で生命が尊重される世の中の重要性について、皆で考える機会をつくることとした。</p> <p>○子どもたちは、これまでの地域学習の中で地域の様々な素晴らしさに気づき、学ぶ喜びと共に、視野を広げることができている。学習内容については、学習発表会や県外小学校とのオンライン交流会等で発表するとともに、リーフレットにもまとめるなど、より広く発信できるよう工夫してみることにした。</p> <p>○今後も、子どもたちのために、本地域の良さを活かしながら協議を重ねていくことを確認した。</p> |   |
| 特徴的な協働活動  |   |
| <p>○梅収穫体験・梅ジュースづくり</p> <p>地域の方に教わりながら、楽しく梅の実を収穫しました。子どもたちからは、「梅の木植えてみたいな。」「梅の香り、大好きや。」という感想が寄せられました。</p> <p>また、国際ワークキャンプ事業で秋津川を訪れた海外の方々と梅ジュースづくり等をして、楽しく交流しました。梅ジュースには自分で収穫した梅を使いました。小中学生による炭琴演奏と合唱を聴いていただいたり、外国語で「だるまさんが転んだ」をしたり、温かなふれあいの機会となりました。</p>   |  |
| <p>○秋津川町民運動会（地域全体）</p> <p>秋津川ふるさとまつり（地域全体）</p>  |   |
| <p>○紀州備長炭風鈴づくり（全学年）</p>   |   |
| <p>○紀州備長炭の里秋津川 ウバメガシの森づくり（地域全体）</p>   |   |
| <p>○子ども備長炭サミット</p> <p>備長炭についての学習をしている高知県・宮崎県の小学校の子どもたちとオンラインで交流しました。紀州備長炭の歴史や効能を調べた実験、世界農業遺産である梅づくりとのつながりや、炭琴の音色について伝え、「備長炭に長い歴史があることにびっくりしました。」「世界農業遺産について伝えてもらえてよかった。」「炭琴はとてもきれいな音色で、聴いていて心が安らぎました。」などの感想をいただきました。発表を聴いてくださった地域の方々からは、「学習が積み上がっていると感じた。」「秋津川地域を誇りに思う気持ちが伝わってきた。」「遠方の子どもたちと一緒に、お互いの学習を深める機会になっていた。」などのお話もいただきました。</p>  |   |
|  <p>令和5年度「紀州備長炭のひみつ」 高学年児童が作成したリーフレット 令和6年度「備長炭の歴史と効果」</p>   |   |

|   |   |  |        |
|---|---|--|--------|
| 学校・園名   | 田辺市立上芳養小学校  | 公民館名   | 上芳養公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。公民館は子供対象の行事の実施や住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。 |   |  |        |
| 目<br>標  | 学校  | 学校<br>○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。<br>○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていきこうとする児童生徒を育成する。<br>○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。  |        |
|   | 地域  | 地域（公民館）<br>○将来を担う子ども達が地域のことをよく知り、多くの地域住民と交流することで地域に愛着を持つような学社融合の取組を行う。<br>○子ども達が学校生活では体験できないような事業を実施し、豊かな感性を育む。  |        |
| <b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b>  |   | <b>支援者及び支援組織</b>   |        |
| 上芳養地域学社融合推進協議会<br>委員14人<br>（学校関係者、各種団体代表及び学識経験者）<br>事務局4人（上芳養小・中、公民館）   |   | 校区協議会<br>育友会<br>上芳養小学校育友会<br>上芳養中学校育友会<br>上芳養公民館<br>日向保育所<br>各種団体<br>・上芳養町内会<br>・交通安全協会上芳養分会<br>・上芳養消防団<br>上芳養校区協議会<br>学識経験者<br>地域の事業所・地域の先生   |        |
| 各種団体・地域住民等  |   | 小学校、中学校及び育友会   |        |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>   |   |  |        |
| 学校  | <b>成果</b><br>・「かみはやキャラバン」では、小学校、中学校、保護者、地域、事業者が一体となり、上芳養を盛り上げる活動を行うことができた。<br>・梅学習を年間計画に位置づけ、地域の方々の協力のもと、系統的に学ぶことができています。地域の方々は大いに協力的であり、地域の特産である「梅」について意欲的に指導してくれています。<br>・今年度途中から行っている「cokochi」には、TETAUさんや保護者の方、地域の方、4年生以上の希望児童が一緒になって様々な体験ができています。 | <b>課題</b><br>・今年度から始まった「梅田での梅配り」や「cokochi」などの取組を持続可能な取組にしていくための仕組み作りを引き続き行っていく必要がある。<br>・公民館や地域の各種団体とより一層連携を深めていきたい。<br>・子供たちがさらに地域のことをよく知り、多くの地域の方と交流を深めることで、上芳養の未来を自分事として考えられるよう、学社一体となって取り組んでいきたい。  |        |
|   | 公民館（地域）   | ・これまで行っていたカヌー体験教室と乗馬体験教室への参加者数が減少傾向にあることを踏まえ、新企画として7月にはアウトドア体験教室with防災を実施。また、6月に小学生・中学生の保護者、中学生を対象に行ったアンケートでの要望に応え、12月にクリスマスケーキ手作り体験教室を実施したところ即日、定員を超えて20名の申込みがあり、子どもたちにとって新たな学びの場となった。<br>・子どもたちに必要な学びと子どもたちが求めている学びを常に模索する必要がある。<br>・各種体験教室の講師や指導者を地域の方に担ってもらえるように引き続き人材の発掘に努める。 |        |

|  |  |
|--|--|
| <b>今年度の取組内容</b><br><b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>   |  |
| かみはやキャラバン実行委員会 令和6年5月1日（水）<br>○令和6年度「かみはやキャラバン」の計画について<br>概要説明・広告の掲載・ボランティアの募集等<br>かみはやキャラバン報告会 令和6年6月27日（木）<br>○5月26日（日）に行われた「かみはやキャラバン」について<br>当日の会場（大阪梅田0S広場）の様子や子供の学び等の共有<br>第1回定例会 令和6年7月10日（水）<br>○上芳養小、中学校 学校経営方針<br>○令和6年度事業計画書 ○令和6年度収支予算書<br>○今後の本校の姿について熟議を行う。<br>かみはやキャラバン説明会 令和6年10月10日（木）<br>○令和7年度「かみはやキャラバン」の計画について<br>概要説明・アンケート・各部の構成等<br>第2回定例会 令和6年12月19日（木）<br>○活動のまとめと次年度の取組について ○学校評価について |   |
| <b>特徴的な協働活動</b>  |  |
| <b>梅学習 梅から地域を学ぶ 3～6年</b>   |  |
| 【3年】6月 梅座学 JA職員より梅についてのお話を伺う。<br>梅採り 地域の方の畑で体験をする。⇒梅ジュース作り<br>【4年】3学期 着花率調べ JA職員の指導のもと、地域の方の畑で観察・調査をする。<br>【5年】6月 梅座学 JA職員より着果率、流通等のお話を伺う。<br>梅拾い・梅漬け体験 地域の方の畑で収穫し、地域の梅農家さんの指導で梅を漬ける。<br>7月 梅天日干作業 地域の方の指導のもと実施する。<br>3学期 梅干しパック詰め<br>【6年】5月 「かみはやキャラバン」梅田で梅干しを配布したり、梅や地域についてのプレゼンを行ったりする。   |   |
| <b>～ 地域の先生から学ぶ ～</b>   |  |
| ようこそ先輩 5, 6年<br>創立記念日（7月15日）7月12日8:10～<br>毎年創立記念日上芳養小出身の先輩に来ていただき、昔の地域や子どもの様子についてお話をしていただいている。今年度は、昭和56年度卒業生松葉和彦さんに、「夢」を見つけ、それに向かって努力することの大切さや能登半島地震の際に現場で感じたことなどについてお話いただいた。  | 上芳養cokochi 4～6年<br>月1回水曜の放課後<br>TETAUさんとの共同開催で、ICTとクリエイティブを触媒にして、誰もが心地よくいられる場所を地域や人と連携しながらつくることをめざし、活動している。  |
| ころころ山 読み聞かせ 全学年<br>毎月第2第4木曜日<br>地域の方々で構成されている読み語りグループ「ころころ山」のメンバーが、学年に合わせ、紙芝居や絵本を中心に読み聞かせてくれる。今年度は夏休み中の登校日に全校での読み聞かせを行って、一緒にダンスも楽しんだ。  | 上芳養 地域学習 6年<br>町内会長さんやJA職員の方に来て頂いて、上芳養の特産品である「梅」や「みかん」についてお話をうかがった。自分たちの地域について知り、考える時間となった。  |
| 上芳養名人にインタビュー 4年<br>11月<br>上芳養の産業や特色等について理解するため、地域に住んでいる名人にインタビューした。今年度は「日向屋さん」「山森農園さん」「キャラバンサライさん」でお話をうかがった。   | 生け花教室 6年<br>毎週水曜日<br>生け花教室の先生に来ていただき、生け花教室を行っている。同時に花の名前や花の特徴も教えていただいている。でき  |
| 書道教室 3～6年<br>書き初め会の時期を中心に、書道に精通した地域の方に、毛筆の指導をしていただいている。筆の運び方などを分かりやすく教えていただいている。   |  |

|  |  |   |        |
|--|--|---|--------|
| 学校・園名  | 田辺市立中芳養小学校   | 公民館名  | 中芳養公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>本校は、田辺市街地周辺の自然豊かな農村地帯にある。児童は明るく、上級生が下級生のお世話をするという優しいところがある。地域住民も学校の教育活動に協力的で、みんなで子供たちを育てていこうという雰囲気の中で教育活動を行っている。平成28年度までの「共育コミュニティ本部事業」の三つの柱「子供の育成」「文化の継承」「交流の推進」を大切に、学校と公民館が連携しながら地域の教育資源を活かした教育活動の充実に努めている。 |  |   |        |
| 目<br>標   | 学校・園・地域<br>・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。<br>・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。   |   |        |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |  | 支援者及び支援組織   |        |
|  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中芳養公民館</li> <li>・中芳養幼稚園</li> <li>・中芳養中学校</li> <li>・JA紀南芳養谷支所</li> <li>・中芳養町内会</li> <li>・中芳養地区老人会</li> <li>・中芳養地区消防団</li> <li>・中芳養小学校PTA</li> <li>・地域の農家</li> <li>・地域の寺院・神社</li> </ul>                         |        |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）   |  |   |        |
| 成果   |  | 課題  |        |
| 学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産業や歴史等をテーマとした学習を年間を通して展開することができた。地域について学ぶ中で、様々な方々と関わり交流を深めることができた。</li> <li>・調べ、体験し発表する活動を通して、課題を追求する力や表現力、協力する態度などを育成することができた。</li> <li>・地域を教材として、地域に住む人から学ぶことを通して、地域への関心が高まり、親しみや愛着心を持つことができた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して実施することができるように、活動の様子や協力者を引き継いでいく。また、さらに充実した学習ができるようにカリキュラムの見直しをしていきたい。</li> <li>・活動や体験のみにならないように、活動の目的・目標を明確にし、児童にも意識させて取り組むようにする。</li> <li>・地域での学習や行事を通じて、さらに関心を持ち、地域へ貢献できるような活動に取り組んでいきたい。</li> </ul> |        |
| 公民館（地域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き、地域の方を講師に招きヨガ教室を開催。</li> <li>・学校（幼稚園、小学校、中学校、各PTA）と地域（町内会、芳寿会、消防団、JA等）で実行委員会を組織し、地域全体の行事として中芳養夏まつりを実施し、親と子、子と子のふれあいの場となった。</li> <li>・また、地域の方から中芳養の伝統ある盆踊りを教えていただき児童たちの郷土愛を深めることができた。</li> <li>・敬老祝賀会においては、小学校の協力のおかげで児童による発表が行われ、児童たちといっしょに長寿をお祝いすることができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちに必要な学びと子供たちが求めている学びを常に模索する必要がある。</li> <li>・各種体験教室の講師や指導者を地域の方に担ってもらえるように引き続き人材の発掘に努める。</li> </ul>   |        |

| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |
|---|
| 第1回学社融合推進協議会（中芳養小学校）令和6年6月11日（火）<br>・各校の経営方針都教育課程について<br>・令和6年度年間計画<br>・意見交流：児童・生徒の朝食状況についてや地域住民のマナーについて、意見交流をした。<br>第2回学社融合推進協議会（中芳養中学校）令和6年10月9日（火）<br>・中芳養中学校1年生授業参観<br>梅製品販売に向けて、各グループで活動している姿がいきいきとしていて、とても楽しそうに取り組んでいた。<br>・各校園の取組と成果について<br>・説明を聞いたが、どこも素晴らしい取組をしていると感じた。<br>第3回学社融合推進協議会（中芳養幼稚園）令和7年2月<br>・各校園の年度末評価、成果と課題・活動報告 その他 |

**特徴的な協働活動**

## ふるさと学習～地域に学ぶ

### 季節みつけ

7月・10月・2月頃と学期に1回、近くの神社や山に行き、季節ごとに違う草花や生き物の様子について、地域の先生に教えてもらっている。児童は、季節の草花やいろいろな昆虫の名前を知ることができ、とても楽しみにしている活動である。




### 中芳養の魅力再発見

芳寿会の皆さんや地域の方々に、「昔の中芳養」についてお話を聞いた。平野方面の昔の土地の使われ方や、産業の移り変わりなど、詳しく教えていただきながら、地域を探索した。そこで学んだことをまとめ、発表したりパンフレットを作ったりした。



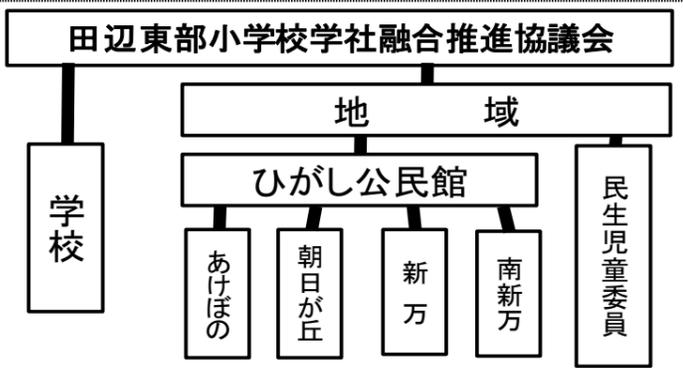


### 中芳養夏祭り

児童は低学年・高学年に分かれて、伝統的な盆踊りを公民館で地域の方から教えていただいた。当日は、櫓を囲んでの盆踊り、夜店、花火など、地域を挙げて盛大に行われた。





|  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| 学校・園名  | 田辺市立田辺東部小学校   | 公民館名  | ひがし公民館   |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>平成7年に「ひがしコミュニティセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組の充実を図ってきた。本年度も昨年に引き続き「ひがしふれあい秋祭り」を従来に近い形で開催した。これまで受け継がれてきた学校・地域の取組も子供や地域の現状に合わせてよりよい形で取り組むことができた。公民館・各町内会・育友会等の協力により盛況のうちに終えられた。来年度も地域・学校を取り巻く状況を総合的にとらえて判断し、本会の本来の目的がより高い水準で達成されるよう取組を進めていきたい。 |   |   |  |
| 目<br>標   | 学校・園・地域   | ○地域の方々を持つ知識や技能を活用し、専門的・体験的な学習を展開することで、子供たちの学ぶ力・生きる力を育む。<br>○学校と地域が協同的な活動に取り組むことで、地域の魅力・課題への認識を深め、子供も大人も地域の一員であるという自覚を高める。<br>○様々な交流やふれあいを通して、地域の方々と子供たち、また地域の方々どうし・子供たちどうしが望ましい人間関係を築く。         |  |
|  | 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |   | 支援者及び支援組織  |
|  |   |   | ◎ひがしコミュニティセンター<br>◎ひがし公民館<br>◎ひがし秋祭り実行委員会<br>◎町内会（新万・南新万・朝日ヶ丘・あけぼの）<br>◎子供会（新万・南新万・朝日ヶ丘・あけぼの）<br>◎花つぼみ会<br>◎読み聞かせサークル<br>◎ちひろ助産院<br>◎橋谷獅子舞保存会<br>◎地域にお住まいの方々 |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |   |   |  |
| 学<br>校   | 成果  | 課題  |  |
|  | ○5年ぶりに「東部っ子を育てる会」を開催した。育友会が企画し、地域の方と共に親子で参加することができた。<br>○「ひがしふれあい秋祭り」を昨年同様の形で本格開催し、多くの来場者で賑わった。地域と学校が一体となり連帯感を深めるという目的を達成することができた。<br>○地域の方々をゲストティーチャー等に迎え、様々な体験活動を通して、子供たちに新たな気づきを与えることができた。 | ○「東部っ子を育てる会」を現在の実態に合わせて開催していく必要がある。<br>○「ひがしふれあい秋祭り」を午前中は低学年の「あきまつり」、全校での「学習発表会」と一緒に行っているため、職員や児童の時間的な負担は大きい。ゆったりと行えるようにできればよい。<br>○地域の人材を活かした体験を、子供自身が与えられるだけではなく、主体的に学ぶ意欲につなげられるようにしていく必要がある。 |  |
|  | ○「夏休みこども体験教室」、「グラウンドゴルフ大会」などを通じ、世代を超えた交流を深める機会をつくることができた。<br>○「第15回ひがしふれあい秋祭り」を開催した。昨年度の反省を踏まえながら、地域・学校・公民館で合意を取りながら進めることができた。当日は多くの来場者で賑わい、地域と学校の関わりを深めることができた。                              | ○「ひがしふれあい秋祭り」の時間配分について、事前の聞き取りをより詳しくしておく必要がある。予算についても、諸々の値上りを考慮した取り扱いを要する。<br>○世代間交流がより活発になるように、事業を改良していきたい。<br>○今後も公民館と学校が連携を密にして計画的に活動を進めていきたい。   |  |

|  |  |
|--|--|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）   |  |
| ○児童の様子や学習活動の実態を知るため授業参観を行った。<br>協議内容<br>校訓をもとに教育活動が進められている。どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいる。先生方のICT機器の活用やタブレットの活用など、授業風景が様変わりしてる。また、子供たちが楽しんで取り組んだり、先生方が工夫して授業づくりをしている姿が見られた。タブレットについては自宅に持ち帰ってデジタルになれていくこともこれからは必要になってくるであろう。ネットトラブルの危険性などにも触れながら、身近に感じてもらう機会にしてほしい。<br>一クラスの数が多い学級があるため、指導する側も子供も大変であろう。少人数での指導ができれば良い。  |  |
| ○「ひがしふれあい秋祭り」を、公民館や町内、学校が協力して開催した。<br>協議内容<br>午前中に学習発表会、午後から「ひがしふれあい秋祭り」が行われ、地域の方も子供たちも楽しく過ごすことができた。たくさんの催し物が用意されており、天気が良かったこともあり、終日たくさんの方が訪れた。  |  |
| ○読み聞かせサークルによる読み聞かせ<br>読み聞かせサークルにお越しいただき、各学年毎月1回20分間の読み聞かせを行っている。季節に合ったお話や子供の興味に合わせた内容のお話を選書し、読み聞かせをしていただいている。毎回の訪問を子供たちはとても楽しみにしており、読み聞かせの時間には、とても落ち着いて話が聴けている。読み聞かせが終わると、子供たちは、読んでもらった本の感想や、感動した場面を楽しそうに話している。  |  |
| ○東部っ子を育てる会<br>8月6日（火）、ひがしコミュニティセンターを会場に「東部っ子を育てる会」を5年ぶりに実施した。多くの方に参加してもらえよう、育友会が中心となって企画した。今回は田辺市消防本部職員の方を講師に招き、「火災時における避難の仕方について」講演をしていただいた。DVDの視聴などもあり、保護者や地域の方だけでなく、子供も参加して災害への備えについて学ぶことができた。「火事の時にどんなことができるかが分かった」「火事が起こらないようにできることをしたい」という感想が聞かれた。   |  |
| ○ひがしふれあい秋祭り<br>11月17日（日）、田辺東部小学校とひがしコミュニティセンターを会場に「第15回ひがしふれあい秋祭り」を実施した。昨年同様本格実施ができ、多くの来場者を迎えることができた。午前中は、1・2年生が「あきまつり」でお店屋やゲーム屋をしたり、全校児童が学習発表会でそれぞれの学習の成果を披露したりした。午後は、橋谷の獅子舞が秋祭りのオープニングを飾り、ステージイベントにはコーラス・大正琴・太極拳のサークルなどが出演した。子供たちは町内会・子供会が用意したゲームコーナーに参加し、最後の餅まきまで楽しむことができた。来場者からは「子供たちの一生懸命発表する姿がすばらしかった。」「どの学年も立派に発表をしていて、見ている方も元気をもらえた。」などの感想が聞かれた。 |  |



|  |   |  |            |
|--|---|--|------------|
| 学校・園名  | 田辺市立龍神小学校   | 公民館名   | 龍神公民館 龍神分館 |
| 学社融合における学校・地域の様子   |   |  |            |
| <p>龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印として学社融合を推進することで、龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組んでいる。</p> <p>少子高齢化が進んでいるが、保護者や地域の方々は、学校の教育活動に大変協力的である。</p>                                      |   |  |            |
| 目 標  | <p>学校・園・地域</p> <p>本校における学社融合の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことで児童の様子や教育課程の実施状況について理解してもらう。</li> <li>・地域の素材や優れた人材を活用し、生きた教育活動を展開する。</li> </ul>  |  |            |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |   | 支援者及び支援組織  |            |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>龍神小学校学社融合推進協議会<br/>会長－副会長－委員（7名）</p> </div>  |   | <p>田辺市役所 龍神行政局<br/>田辺市立龍神小学校PTA<br/>田辺市立龍神小学校動産委員会<br/>田辺市龍神公民館龍神分館<br/>田辺市教育委員会 龍神教育事務所</p>   |            |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around;"> <span>公民館</span> <span>PTA</span> <span>行政局 教育事務所</span> </div> |   |  |            |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）   |   |  |            |
| 成果   |   | 課題   |            |
| 学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、地域の方々にご来校いただいたり、こちらから地域や地域の方々の所に出かけて行ったりすることで、地域や地域の方々を知り、学校や児童について地域の方々に知っていただくことができた。</li> <li>・特に今年度は、毎年学習発表会で行っている「龍神太鼓」を地域の林業まつりで披露し、地域の方々との交流を積極的に図ることができた。</li> <li>・地域の方々には、運動会に参加していただくことをはじめ様々な行事を通して、子供たちと交流し子供たちの成長を見守り支えていただくことができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域（校区）が広く高齢化が進んでいるため、来校いただくなど学校行事への参加が難しくなっている。</li> <li>・今後は、こちらから出向くなどして、地域の素材や優れた人材を活用するための工夫をしていく必要がある。</li> </ul> |            |
| 公民館（地域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学社融合活動を通して、児童と地域が交流する機会となった。特に龍神小学校は、運動会・学習発表会や敬老の手紙、コンサート鑑賞、バレエ鑑賞などの行事に地域の方が参加し、児童の様子を見る機会が多い。普段から児童と交流する機会が多いため、地域も児童のことをよく知っている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで活動に参加してくれていた方が高齢になり、参加を遠慮されたり、参加できなくなった。</li> <li>・学校と関わる機会がしばらくの間なかった地域の方や、活動を知らない方へのアプローチを工夫していきたい。</li> </ul>    |            |

|  |  |
|--|--|
| <p>今年度の取組内容<br/>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</p>   |  |
| <p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の経営方針に関する事項について、本年度重点的に取り組んでいくことを中心に学校長が説明を行った。</li> <li>・運営に関する年間計画について話し合い、防災キャンプ、運動会や学習発表会で協力していくこととなった。また、バレエ鑑賞やバイオリンコンサートなどにも積極的に参加することを話し合った。</li> </ul>  |  |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>       |  |
| 特徴的な協働活動   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術鑑賞会・防災キャンプ（6月）</li> </ul> <p>全校児童・保護者・学社融合推進協議会委員・地域の方々とバレエ鑑賞をした。間近で素晴らしい演技を見せていただき、生の芸術に触れるとても良い機会となった。</p> <p>その後、1・2年生と3年生以上に分かれて防災学習をした。3年生以上は防災キャンプとして学校に宿泊し、子供たちで食事を作ったり「きいちゃんの災害避難ゲーム」などをしたりした。</p>   |  |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオリンコンサート（11月）</li> </ul> <p>今年度も「Wa corda」さんに来ていただき、バイオリンコンサートを行った。様々な工夫を凝らした演奏に、参加者全員が耳を傾けた。</p> <p>また、保護者や地域の方々だけでなく近隣校の小学生も参加し、一緒にバイオリン・コントラバス・ピアノ演奏に合わせて合唱するなど、交流を深めることができた。</p>   |  |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・龍神太鼓（11月）</li> </ul> <p>4月から全校で龍神太鼓の練習に取り組み、学習発表会で披露した。毎年、保護者や地域の方々も楽しみにしてくれているので、児童も意欲的に練習に励み、成果を発揮することができた。</p> <p>今年度は、龍神林業まつりの開会式でも、龍神太鼓を披露し、龍神村のたくさんの人に見ていただくことができ、児童らの自信につなげることもできた。</p>   |  |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>   |  |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>   |  |

|   |  |  |                         |
|---|--|--|-------------------------|
| 学校・園名   | 田辺市立上山路小学校   | 公民館名   | 龍神公民館<br>殿原分館・東西分館・宮代分館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>殿原小学校、宮代小学校、東小学校の3校が統合して、今年度で16年を迎えた。どの地域の方々も学校の取組に協力的であり、「自分たちの学校」という思いを強く持ってくれている。それぞれの思いや伝統を大切に、地域の教育資源を活かし、地域と学校が一体となった取組を進めている。   |  |  |                         |
| 目 標   | 学校・園・地域<br>学校地域連絡協議会規則<br>上山路小学校と学区民が連携を図り、地域全体で児童の健やかな成長を担う環境づくりに寄与する。<br>本校における学社融合の目標<br>・「地域とともにある学校」づくりを推進する。<br>・学校・家庭・地域の連携を強化し、子どもたちの健全育成を進める。   |  |                         |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |  | 支援者及び支援組織  |                         |
| <pre>                     graph TD                         A[学社融合推進協議会] &lt;--&gt; B[学校]                         B &lt;--&gt; C[学校地域連絡協議会]                         C &lt;--&gt; D[上山路地域]                     </pre> |  | 学社融合推進協議会<br>・殿原分館 ・東西分館<br>・宮代分館 ・学校支援者<br>・地域指導者<br>・龍神教育事務所<br>・上山路小学校PTA<br>・龍神中学校<br>学校地域連絡協議会<br>・学社融合推進協議会各位<br>・5地区（6区長）・3婦人会<br>・3老人会 |                         |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）  |  |  |                         |
| 成果  |  | 課題   |                         |
| 学 校   | ・町たんけんや花植え、つるし柿づくりなど、様々な体験を通して地域の方々と交流を深めることができた。<br>・学習発表会では地域の環境や産業等について詳しく調べ、保護者や地域の方に向けて様々な情報を発信することができた。<br>・以前からの小中連携に加え、保育園や南部高等学校龍神分校との交流ができた。各校種の課題を共有することで、自校の実践に生かすことができた。                    | ・地域の特色や取組を教職員間で共通理解し、人とのつながりを大切にしていきたい。<br>・取り組む内容や学習時期などをよく検討し、見通しを持って計画を立て、子どもたちが主体的に地域学習に取り組めるよう進めていきたい。                                    |                         |
| 公 民 館（地 域）  | ・第9回上山路祭りでは、上山路小学校と関わりの深い唐口ご夫妻をお招きし、ジャズコンサートを開催することができた。唐口氏は上山路小学校の校歌を作曲されており、発声や校歌の指導を児童と地域の方に頂き、参加者全員が楽しい時間を共有することができた。<br>・3小学校が合併して現在の上山路小学校となっており、各地域に出向いて児童が様々な体験学習を実施している。これが地域が児童と交流する機会にもなっている。 | ・地域と学校が体験学習等を通じて交流を継続的に実施してきた。しかし、コロナ禍で行事等が中止又は一部変更したことにより、認識やノウハウが共有出来ていない部分があった。   |                         |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）   |  |   |
| <b>【第1回 学社融合推進協議会】</b><br>(1)学社融合推進協議会について(①委員 ②規則 ③会長・副会長選任 ④学社融合推進体制)<br>(2)学校経営方針について(①学校経営・運営方針 ②学校教育目標(スクールプラン))<br>(3)年間計画について(丹生ノ川・殿原、東西、宮代)<br>(4)意見交流<br>①本校の課題・・・ア)学社融合推進事業について<br>児童減少による継続可能な学社融合<br>新たな地域の人材、文化財について<br>イ)コミュニケーション能力の育成<br>日々の取組において育成する力<br>家庭や地域において育成できる力<br>(5)その他 殿原地区B29慰霊祭<br>上山路祭りについて |  |   |
|  |  |   |
| 特徴的な協働活動   |  |   |
| <b>花の苗植え 春・秋 全校児童</b>  |  |   |
| 本校では春と秋の2回、花植えを行っている。全校児童で協力して種まきから始め、ポット植え、花壇への定植という流れで、夏は1日に2回水やりを行うなど枯れてしまわないよう気をつけて育てた。定植時は地域の高齢者学級のみなさんと共に花壇やプランターに植え付けた。春はサルビアやマリーゴールド、ペチュニア、秋はスミレ、ビオラ、クリサンセマムなどを植え、育てた花の一部は地域の上山路、宮代、殿原の各郵便局に配布し、地域の方々にも楽しんでいただいている。  |  |   |
|  |  |   |
| <b>読み聞かせ</b><br>   | <b>藍染め体験</b><br>   | <b>高校生との交流会</b><br>   |
| 昔の卒業生が描いた「かさこじぞう」の絵を用いて、地域在住の元教員に読み聞かせをしていただいた。情感がこもったとうとうとした語り、児童全員がじっくりと耳を傾けていた。   | 地域のゲストティーチャーの指導のもと、学校の花壇に植えている藍の葉を使った藍染め体験を行った。身近な植物から生まれる自然の藍色の美しさに感動するとともに、自然から受ける恩恵を実感することができた。 | 南部高等学校龍神分校の高校生の皆さんと交流会を行った。1・2年生は工作、3～5年生はマドレーヌ作りを行った。高校のお兄さん、お姉さんと楽しくおしゃべりしながら、交流を深めることができた。 |

|  |   |  |             |
|--|---|--|-------------|
| 学校・園名  | 田辺市中山路小学校   | 公民館名   | 龍神公民館 中山路分館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>本校では、地域に根ざした教育活動を進めていくために、ふるさと教育である「龍人学」に取り組んでいる。保護者および地域住民との対話やネットワークをとり、学校運営への支援や協力を呼びかけ、学校・家庭・地域が一体となり「地域とともにある学校」の基盤作りの展開をしてきた。それぞれにもつ役割や責任を共有し、時代の流れに合わせながら活動を広げている。 |   |  |             |
| 目 標  | ・学校、保護者、地域の連携を密にし、それらの教育力を相互に活用し合い、協力して学校運営の改善や児童の健全育成、地域の教育力向上に努める。<br>・地域の方々との交流を通して人とのつながりを深め、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。<br>・地域学習や地域の方々との交流を通して、地域の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛し地域に誇りを持つ子を育てる。   |  |             |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |   | 支援者及び支援組織  |             |
| 保育園・中学校・公民館・福祉施設<br>↓<br>中山路小学校学社融合推進協議会<br>↓<br>保護者・地域住民  |   | ・中山路小学校PTA<br>・龍神公民館中山路分館<br>・3地区<br>・3地区シルバー会<br>・柳瀬保育園<br>・龍神中学校<br>・龍トピア・龍の里<br>・龍神教育事務所<br>・学識経験者  |             |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |   |  |             |
|  | <b>成果</b><br>・今まで学校だけで行ってきた「せんだんFes」を公開活動にした。地域の方に児童の梅檀に寄せる思いを知ってもらえることができ、学校へ協力したい思いをさらに強く持ていただくことができた。<br>・音楽科では、地域に住む三味線の師匠に講師として来ていただき、和楽器体験を行うことができた。そして、継続して練習にも協力していただき学習発表会では一緒に演奏する貴重な体験をすることができた。<br>・体育科では、高学年において地域の陸上クラブチームの指導者に来ていただいた。専門的な指導をしていただいたことで通信陸上記録会では好成績をおさめることができた。また、中学年ではニュースポーツ体験としてシルバー会の方に来ていただき囲碁ボールを教えていただいた。子どもたちはスポーツは楽しいものだと感じることができた。 | <b>課題</b><br>・ご指導いただいている方が固定化されつつある。また高齢化も進んでいる。公民館を通して様々な分野の方に来てもらえるように声をかけていただいたり、知り合いの方を誘っていただいたりして、なるべく多くの方に来てもらえるように働きかけていく。<br>・ふるさとの魅力を学習するにあたってさらに協力をよびかけ、新たな地域教材を掘り起こしていく。<br>・新しく赴任してきた教員が会議等に参加するなど、地域を知り、人との繋がりをつくっていく機会を設定する。 |             |
| 学校   | ・学社融合活動を通じて、地域と児童が交流することができた。<br>・せんだんフェスについては、中山路小学校のシンボルとして100年以上の樹齢となる「せんだんの木」の学習内容を発表しており、地域に住む誰もが知っている「せんだん」について学習することで、地域の一員として郷土愛が育まれている。  | ・中山路小学校は徒歩通学であり、児童たちが徒歩通学する様子を地域の人たちがよく見ている。ただし、児童数減少に伴い、児童を見たり接する機会が減少し、学校との関係も希薄化している。<br>・学校に関わってくれる地域人材が少なく、増やしていきたい。  |             |
| 公民館（地域）  |   |  |             |

|   |   |
|---|---|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |   |
| <b>【第1回中山路小学校学社融合推進協議会】</b><br><b>[議事]</b> ①本会について（学社融合推進協議会規則の確認） ②役員選出<br>③令和6年度中山路小学校の経営計画について<br>④令和6年度の学社融合活動計画について ⑤地域での児童の様子について<br>⑥その他<br><b>[事業内容]</b><br>○学校運営方針に基づき、地域として運営の協力を行う。<br>○学社融合関係の取組に参加協力を呼びかけたり、実際の運営支援を行ったりする。<br>○挨拶運動について、地域にも声かけ等を呼びかけ、地域活性化につなげていく。<br>・10/6 運動会は半日で行う。今年度は餅まきを復活させた。<br>・各地域での児童の様子を聞いたり危険箇所はないか教えていただいたりした。 |   |
| 特徴的な協働活動  |   |
| <b>【交流学习】</b><br>★囲碁ボールを楽しもう！<br>3・4年生児童と地域の方々で囲碁ボールを通して交流する。<br><b>[児童の感想]</b><br>初めて囲碁ボールをしました。打つのがおもしろかったです。ちいきのみなさんがとても上手だったのでびっくりしました。やってみたらとてもおもしろかったので、またやりたいと思いました。   |   |
| ★和楽器「三味線」に挑戦！<br>5・6年生は、学習発表会に向けて地域の方から、三味線を習う。<br><b>[児童の感想]</b><br>最初の練習では持つので精一杯で大変でした。でも、講師の先生に教えてもらったり、友達と一緒にひいたり教え合ったりしているうちにどんどんできるようになりました。本番の学習発表会は楽しかったです。  |  |
| ★昔の遊び体験<br>1・2年生は、1月30日に地域の方をお招きして、こまやお手玉など、昔の遊びを教えていただく予定。   |  |
| ★りゅうりゅう音頭練習<br>運動会で披露をする「龍神りゅうりゅう音頭」を地域の方に教えていただく。<br><b>[児童の感想]</b><br>一年ぶりに踊るので、うまく踊れるか心配でしたが、先生が優しく教えてくれたのですぐに思い出すことができました。小学校最後のりゅうりゅう音頭になるので、本番では自信を持って踊りたいです。   |  |
| <b>【学習発表会】</b><br>これまで教科で学習したことや地域に出かけ調べたことなどを各学年ごとに発表した。発表の最後の全校合唱では、「もみじ」を地域の方と一緒に歌った。  |  |

学社融合推進協議会活動報告書 協議会名：咲楽小学校学社融合推進協議会

|  |  |  |                   |
|--|--|--|-------------------|
| 学校・園名  | 田辺市立咲楽小学校  | 公民館名   | 龍神公民館 福井分館・甲斐ノ川分館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>地域の方の学校教育に対する関心が高く、多くの家庭が積極的に協力してくれる。登下校の際の見守り活動を積極的に行ってこれたり運動会や学習発表会等に、たくさんの地域の方々が参加してくれたりする。平成18年4月の創立時より各地区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進協議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしてきた。本年度も地域の祭礼に児童が多く参加した。事前に笛や太鼓、獅子舞等を習った。祭り会場には、児童が手作りしたゴミ箱を設置した。地域ぐるみで子どもを育てようとする土壌があり、子どもたちも安心して生活することができている。 |  |  |                   |
| 目 標  | 学校・園・地域<br>○咲楽小学校と学区民が連携を図り、地域全体で子どもの健やかな成長を担う環境作りに寄与する。<br>・咲楽小学校の教育発展のために広く意見を聞き、学校運営に反映できるよう努める。<br>・学校を開き、地域住民と連携を図っていく中で、学校教育方針の周知に努める。   |  |                   |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |  | 支援者及び支援組織  |                   |
| <p>咲楽小学校</p> <p>⇔ 学社融合推進協議会<br/>・会長・副会長・委員（学校長含む）</p> <p>⇕</p> <p>⇔ 学校地域連携推進会議<br/>・老人会（4地区）・区長会（4地区）<br/>・女性会（福井、甲斐ノ川）<br/>・公民館（2分館）</p>  |  | ・咲楽小PTA<br>・校区会（4地区）<br>・龍神教育事務所<br>・市教研龍神ブロック<br>・柳瀬保育園   |                   |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）   |  |  |                   |
| 成果   |  | 課題   |                   |
| 学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動の日には多くの地域の方が参加してくださり、児童の登校を見守っていただいた。</li> <li>運動会では、龍神音頭等、地域の方が参加できる種目を作り、児童との交流を深めることができた。</li> <li>学校開放週間では、花の苗植えや収穫祭などの行事を通して、お年寄りの方や保護者との交流を深めることができた。</li> <li>学社融合推進協議会の会議では、地域から見た児童の課題について話し合うことができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、総合的な学習の時間に地域の高齢者の方に、昔の学校の様子をお話いただくことができたが、地域の高齢化が進む中で、更なる地域人材の確保を進めていく必要がある。</li> <li>地域の産業等について、よく知らない児童が多く、地域学習を通して、地域のことや良さを学び、また地域の方と交流を深めることで、ふるさとを愛する心を育てていきたい。</li> </ul>                         |                   |
| 公民館（地域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学社融合活動や公民館事業を通じて、児童と地域が交流することで、児童は地域の良さを知り、地域は児童の様子を知ることが出来た。</li> <li>今年の夏祭りでは、児童が盆踊りの輪に加わり、老若男女が一体となり祭りを盛り上げることができた。また、盆踊りを通じて、踊り方を教える側と教わる側で交流できたことに加えて、地域の踊りを継承することにも繋がった。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の数が減少し、児童がいない地区が増えており、今後もそのような地区が増加していくことが予想される。学校に通う児童がいなくなると、学校と地区との関係も希薄になることが懸念される。また、高齢化も進んでおり学校に協力してくれる方の減少も懸念している。</li> <li>学校と地域が交流する仕組みや行事が求められているが、現状の活動や担い手とのバランスを考慮した上で取り組んでいく必要がある。</li> </ul> |                   |

|   |  |
|---|--|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |  |
| 学社融合推進協議会・学校地域連携推進会議<br>第1回学社融合推進協議会議案<br>(1) 本年度の役員について<br>(2) 田辺市学社融合推進協議会の運営について<br>(3) 学校運営方針について<br>(4) 本年度の活動について<br>(5) 児童の様子意見交流等 |  |
| 学校地域連携推進会議<br>第1回学校地域連携推進会議案<br>(1) 本年度の役員・委員について<br>(2) 学校の様子について<br>(3) 第1回学社融合推進協議会より<br>(4) 今年度の活動について                                |  |
| 第2回学社融合推進協議会議案<br>(1) 学校運営の基本方針に係る取組報告（活動状況報告書の作成）<br>(2) 各専門部会からの取組報告（活動状況報告書の作成）<br>(3) 次年度に向けての意見交換<br>(4) 本部会議からの報告事項                 |  |
| 特徴的な協働活動  |  |
| ◇登下校見守り活動<br>徒歩通学の児童は、集団で登下校を行っており、その際、地域の方がいつも一緒に歩いてくれている。   |  |
| ◇愛校作業(8月24日)<br>保護者の方や地域の方と愛校作業(整備作業)を行った。運動場の木々の剪定や校舎内の窓拭き、草抜きなどの作業に多く参加していただいた。作業の後は、PTA主催の鮎のつかみ取りを行い、塩焼きにした鮎をお手伝い下さった方にも食べていただいた。      |  |
| ◇ふるさと学習(9月19日)<br>5・6年生の総合的な学習の時間に、地域の方に来ていただき、昔の学校の様子についてお話を聞かせていただいた。聞いた内容をまとめ、学習発表会で発表した。  |  |
| ◇絵画指導(9月25日)<br>3・4年生の図工の時間に、地域の方に来ていただき、人物画の描き方の指導をしていただいた。  |  |
| ◇学校開放週間(11月5日～15日)<br>校区内にお住まいの全戸に「学校開放月間全体行事予定案内」を、さらに保護者には各行事前に案内チラシをそれぞれ配布した。  |  |
| ①昔の遊び体験(8日)<br>1・2年生児童の活動。地域の方を講師として招き、今年度もぶんぶんごまの製作と遊び方(使い方)について教えていただいた。  |  |
| ②木工教室(8日)<br>3～6年生児童の活動。講師を招き、木トンボ(木でできた竹とんぼ)を作った。また森林の働きや、森を守るための活動について教えていただいた。保護者も参加、児童と一緒に学んだ。  |  |
| ③花の苗植え(13日)<br>地域の方の指導により、全校児童で学校の花壇やプランターの苗植え作業を行った。地域の方と一緒に花の配置等を考える姿が見られ、交流を深めることができた。   |  |
| ④収穫祭(14日)<br>児童が育てたさつまいもを収穫し、保護者や地域の方と一緒に焼き芋を作った。また、5・6年生が育て収穫したもち米を使って、餅つきもおこなった。ついたお餅はお世話になった地域の方にも食べていただいた。                            |  |

|  |  |  |        |
|--|--|--|--------|
| 学校・園名  | 田辺市立中辺路小学校   | 公民館名   | 中辺路公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子   |  |  |        |
| <p>本校は中辺路学社融合推進協議会を中心として、公民館・社会福祉協議会・老人会等の関係機関に様々な協力をいただきながら取組を進めている。地域の方々や保護者に見守られて子供たちは明るく健康的な学校生活を送っている。地域の方々に訪れていただける行事を計画、子供たちががんばっている姿を見てもらえるように、また、共に活動したり現地に出向いて指導していただいたりする中で、ふれあいや協働の機会を持てるように努めている。</p> |  |  |        |
| 目<br>標   | <p>子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘される中、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材を育成するため、これまでの「学社融合の取組」を活かして、学校と地域が当事者意識をもって子供の成長を支えていく学校づくりを進める。</p>   |  |        |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |  | 支援者及び支援組織  |        |
| <p>田辺市学社融合推進協議会規則（H30, 4, 1施行）に基づき設置</p> <pre> graph TD     A[中辺路地域学社融合推進協議会] --- B[事務局：教頭（教務）]     A --- C[学習支援・行事部会]     A --- D[環境・安全部会]         </pre>   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館</li> <li>・町内会</li> <li>・老人会</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・読み聞かせサークル ひまわり</li> <li>・田辺市消防団中辺路支団</li> <li>・岩見淳三（プロギタリスト）</li> <li>・下校見守り隊</li> <li>・JA女性会</li> <li>・校区内在住の方々</li> </ul>  |        |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）   |  |  |        |
| 成果   |  | 課題   |        |
| 学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会、収穫祭、学習発表会、校内持久走記録会では地域の方々に来校していただき、子供たちの活動や学習の様子を参観していただくことができた。</li> <li>・小学校・中学校・地域が連携した奉仕作業では、消防団等多くの方々の参加を得ることができ、学校の環境整備が進んだ。</li> <li>・地域の方々とともに活動する中で、学校だけでは教えられないことを学ばせることができるとともに、地域の方々との信頼関係づくりにもつながった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫祭では、児童と来校いただいた地域の方々との交流がさらにできるように、場の持ち方を検討したい。</li> <li>・奉仕作業の8月実施は熱中症の心配もあり、実施時期について検討していく必要がある。</li> <li>・ふるさと学習で学んだ成果を、学校間交流やホームページの内容の充実などを通して、広く発信できるようにしたい。</li> </ul>           |        |
| 公民館（地域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と連携し、小学校・町民の合同運動会や中辺路子ども環境探偵団、町民俳句大会、中辺路文化祭などの取組を工夫を凝らしながら進めることができた。</li> <li>・学習活動に協力することで、学校の取組を理解し、心豊かな子供たちの育成に関わることができた。</li> <li>・歴史や伝統、自然環境など、子供たちに地域のよさを伝えることができた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・町民合同運動会については、日程や種目を検討し、小学校や地域の意向を考慮して実施していきたい。</li> <li>・小学校が複式学級となる中で、中辺路子ども環境探偵団を実施する学年を再検討していきたい。</li> <li>・今後も様々な事業を継続させるためには、新たな支援者の発掘や、学校の要望に応じたゲストティーチャーを紹介していきたい。</li> </ul> |        |

|  |  |
|--|--|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、学社融合推進協議会として、学校・保護者の負担軽減を考え、小・中学校・地域が連携して奉仕作業を行うこととした。詳細については、第2回学社融合推進協議会において話し合い、当日及び当日までの準備や段取り、人員配置等について確認した。</li> <li>・小・中学校とも児童数・生徒数が減少傾向にあり、小・中学校で実施されている運動会、体育祭を合同開催にはどうか、今後協議していきたい。</li> <li>・夏の体育館の室温が非常に高いので、空気を循環させる工夫（大きな扇風機、網戸の設置等）が必要ではないか。</li> <li>・今後も、登下校の見守り活動やゲストティーチャーなど子供たちのためにできることがあれば、学社融合推進協議会として積極的にサポートしていきたい。</li> </ul> |  |
| 特徴的な協働活動   |  |
| <p>「世界遺産 熊野古道学習」の取組</p> <p>学校運営方針に「保護者・地域との連携を深め、共に学び、信頼される学校づくりの推進」を掲げ、ふるさと学習に力を入れている。校区に世界遺産がある学校として、ふるさと学習を「地域の文化遺産や伝統を学び、地域の良さを探求する学習」と捉え、ふるさとを誇りに思う児童の育成に努めている。</p>   |  |
| <p>(1) 地域との連携</p> <p>6年間を通じてふるさと学習に取り組んでおり、高学年では、世界遺産熊野古道について関係各所や地域の方々との連携して学習を進めている。</p>   |  |
|    | <p>県世界遺産センターの職員の方から、熊野は「よみがえりの地」として人々の心を癒やす特別な地であることや、熊野詣は巡礼の起源と言われ、誰でも受け入れてきた寛容の地であることなど、その歴史的・文化的価値について学んだ。</p>  |
|    | <p>紀州語り部「うた加楽衆」の小松勇二郎様から、滝尻王子や高原熊野神社について、現地でさまざまなお話を伺った。歴史や自然、数々の物語を、自身の地域への思いも交えて教えていただき、たくさん学ばせていただいた。</p>   |
| <p>(2) 公民館との連携</p> <p>中辺路公民館が中心となり、子どもたちが郷土の自然に親しみ、自然と人間が共に生きていくことの大切さを学ぶ「中辺路子ども環境探偵団」の取組を実施している。</p>  |  |
|   | <p>熊野古道中辺路（語り部）福田善一様、いちいがしの会 竹中清様、大江友亮様、公民館協力委員 庄司堅一様を講師に、「熊野古道潮見峠越ウォーク」と題して、潮見峠から捻木の杉、そして上野まで古道を歩いた。途中、植物やキノコの名前、安珍清姫物語の伝説など、たくさんのお話を伺うことができた。特に、子供たちには、豊臣軍と山本・湯川連合軍の合戦についてのお話が印象に残ったようだった。</p> |
| <p>(3) 地域等への発信</p> <p>熊野古道学習での学びの成果を学習発表会で発表したり、ICTを活用してオンラインで各学校の取組や地域の様子等を交流したりしている。</p>   |  |
|   | <p>11月の学習発表会では「わたしたちの熊野古道ようこそ」と題して、わがふるさとについて語った。参観者から「身近に素敵な熊野古道があることを知り興味がわいた」「知らないことがたくさんあり大人も勉強になった」などの感想が聞かれた。</p>  |
|   | <p>長野小、秋津川小、三里小、本宮小と5校で定期的にオンライン交流会を行っている。12月には、11月の学習発表会を踏まえてさらに内容を追加して発表した。地域にある熊野古道の良さを他校の児童に伝えることができた。</p>   |

|   |   |  |            |
|---|---|--|------------|
| 学校・園名   | 田辺市立近野小学校   | 公民館名   | 中辺路公民館近野分館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>近野地域は、歴史や伝統文化、自然環境に恵まれており、また、地域社会の学校教育への協力体制も手厚い。本校では学社融合を通して地域の豊かな文化・伝統・自然に学び、郷土への誇りと愛情をもつ子どもを育てることをねらいとし、取組を進めている。諸行事（近野区民体育祭、近野まるかじり体験、近野フェスティバル・文化祭）は、公民館、地域の諸団体、保育園、小学校、中学校で連携しながら運営している。学校行事やクラブ活動、各教科の授業など、様々な教育活動で地域の方々が積極的に参画してくださり、多くの教育的効果をあげることができている。 |   |  |            |
| 目<br>標  | 学校・園・地域   | 学校を含め地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康増進、地域福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。<br><b>【学校】</b><br>・地域での活動を通して地域を知る。<br>・共同作業を通して協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切に、尊重する気持ちを育てる。<br>・地域の一員として地域の行事に参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。<br><b>【地域】</b><br>・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。<br>・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。 |            |
|   | 校（園）区の推進組織（組織体制図）   | 支援者及び支援組織<br>・近野地域学社融合推進協議会<br>・中辺路公民館近野分館<br>・近野振興会・常会長会<br>・中辺路町森林組合<br>・近野獅子舞団・JA女性会<br>・近野まるかじり体験実行委員会<br>・ひな祭り公演実行委員会<br>・熊野百間溪谷自然学校 等  |            |
| 体<br>験<br>実<br>行<br>委<br>員<br>会   | 中辺路公民館近野分館行事実行委員会<br>近野地域学社融合推進協議会<br>近野区民体育祭実行委員会<br>近野フェスティバル・文化祭実行委員会<br>実<br>行<br>委<br>員<br>会<br>祭<br>り<br>公<br>演   |  |            |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>   |   |  |            |
| 学<br>校  | 成果  | 課題   |            |
|   | ・保、小、中、地域合同の行事で、学校と地域が一体となった学習の場を多く設けることができた。地域の教育力、学校の教育力を相互に活用することができた。<br>・校長、公民館分館長、学社融合担当者、PTA役員等が共通理解できる場を設定し、地域と連携した取組を進めることができた。<br>・野中の獅子舞「道中」、語り部活動など地域教材が数多くあり、地域の方との交流を楽しんだり、感謝の気持ちを伝えたりすることができた。<br>・近野フェスティバル・文化祭では、どの学年も地域に出かけ地域の方から学んだことを発表し、地域の良さを再確認する機会となった。 | ・多くの方が関わる行事では、さらに細かな打合せと共通認識が必要である。来年度に向けて活動内容を見直し、必要な修正を加えていくようにする。<br>・今後も地域の方々とのつながりを継承し、教職員間での共通理解を引き継いでいく。<br>・地域の方の高齢化が進んでいるため、新しい支援者との関係作りにも努める。  |            |
| 公<br>民<br>館<br>（<br>地<br>域<br>）   | ・地域の中で、地域の方とのふれあい交流ができた。人数は少ないけれど、地域の方から学ぶ、地域の方と一緒に活動する取組が継続して行えている。このことが、地域の活力となっている。<br>・消防団や地域の方と協力して、小学校・中学校・地域の合同防災学習を行うことができた。これを機会に、地域の防災意識の高まりを期待している。<br>・近野フェスティバル・文化祭では、多くの方に出品のご協力やJA女性会のバザーに野菜の提供をしていただくなど、地域をあげて取り組むことができた。                                       | ・本地域では、人口減少や高齢化が進んでいる。今後も学社融合の取組が継続・発展していけるよう、今あるつながりや組織の継承を大切にしたい。  |            |

**今年度の取組内容**  
**会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）**

【第1回 学社融合推進協議会 定例会】  
 （1）児童・生徒の様子を授業参観 （2）協議  
 ①職員及び児童生徒について  
 ②役職・年間計画・予算の決定  
 ③令和6年度小・中学校経営方針について  
 ④その他・タブレットの持ち帰り・プール監視員  
 [協議内容]・会長の選出・学校経営方針の承認  
 ・タブレットの持ち帰りを進めてもらいたい。→利用のルールや情報モラルの学習をした上で、今後進めていく予定である。  
 ・プール周辺の草刈りと監視員について →プール周辺の草刈りは学社融合推進委員のメンバーで行う。監視員が足りないので募集している。  
 ・近野区民体育祭について →半日開催がよい。

**特徴的な協働活動**

**地域の方々とふれあいながら 地域の豊かな文化・伝統・自然に学ぶ**

田植え・稲刈り・ブルーベリー狩り



地域の方々の協力で、季節を感じる勤労体験を毎年全校でさせていただいている。よい交流の場となった。

近野区民体育祭



保・小・中・地域合同の体育祭を行っている。小さい子どもからお年寄りまでみんなで楽しむことができる行事の一つであった。

近野地域合同防災学習



小・中・地域が、合同で防災学習を行った。災害時の課題解決策についての話し合い、防災グッズ作りなどを通して、地域全体の防災意識を高めた。

中辺路子ども環境探偵



公民館主催で年3回参加させていただいた。夏は、近露で水生生物の観察を、秋には潮見峠ウォークと南方熊楠ゆかりの土地探索をした。

近野まるかじり体験



地域のお祭りに毎年参加させていただいている。野中の獅子舞「道中」や語り部で、お祭りを盛り上げることができた。

近野フェスティバル・文化

文化祭も小・中・地域合同で行っている。各クラスともたくさんの身近な教材の中からふるさと学習を行い、発表している。

1・2年 近露探検

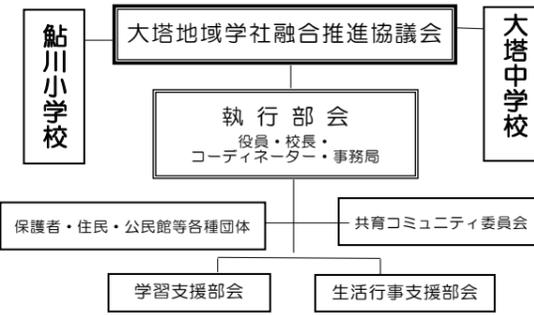


3・4年 稲の学習



5・6年 森林学習



|  |  |  |                         |
|--|--|--|-------------------------|
| 学校・園名  | 田辺市立鮎川小学校  | 公民館名   | 大塔公民館<br>鮎川分館・富里分館・三川分館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>本校は、平成27年に三川小学校、平成30年に富里小学校と統合し、大塔地域に1校の小学校となった。旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景から、地域全体として子どもたちを温かく見守り、育てていこうという意識を常に高く持ち続けている。中学1年生と小学5年・6年が6つの授業に分かれて参加する選択交流学习や小学校の授業への協力、登下校の見守りや放課後の居場所づくりに協力していただいている。「大塔地域学社融合推進協議会」では、昨年度に引き続き、生活行事支援部会と学習支援部会の2つの部会に分けて、子どもたちの安全とふるさとを愛する気持ちを養う活動を小学校と家庭と地域が連携・協働し「高めよう、ふるさと大塔。みんなの力で!」をテーマに取組を進めている。 |  |  |                         |
| 目 標  | ○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。<br>○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。<br>○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。<br>○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。   |  |                         |
| <b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b>   |  | <b>支援者及び支援組織</b>   |                         |
|    |  | ○大塔公民館、各分館<br>○田辺市自治会連絡協議会大塔支部<br>○大塔女性会<br>○大塔老人クラブ<br>○社会教育委員会<br>○子どもクラブ<br>○鮎川ふれあいスクール<br>○民生児童委員<br>○田辺市保護司会大塔支部<br>○社会福祉協議会<br>○田辺市消防 大塔分署<br>○青少年育成市民会議大塔地区協議会  |                         |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |  |  |                         |
| <b>成果</b>  |  | <b>課題</b>  |                         |
| 学校   | ○選択交流学习…小学5年・6年と中学1年を対象に6つの授業（地域の方々にも参加していただく）から1つ選択して活動を行う。<br>○大塔リフレッシュ大作戦…地域の方々と一緒に環境整備の活動を実施することができた。<br>○出前ふれあいスクール…低学年を対象に昔の遊びや防災についての学習を行うことができた。<br>○授業サポート…家庭科のミシンや書写の毛筆指導のサポートを実施した。<br>○チャレンジキャンプ…キャンプ体験では、公民館の方々を中心に青少年旅行村での夕食やキャンプファイヤーの準備を行った。また、カヌーの事前指導からカヌーボートの整備等も行った。 | ○参加してもらえるゲストティーチャーについては、人材の確保が難しい。（現状では特に支障なく確保できている。）<br>○今後も幅広い分野、多様な年齢層の方から学ぶ機会を作っていくために、声かけをしていきたい。<br>○職員が変わっても活動を引き継いでいけるよう、記録の確認や計画の見直しなど情報の共有を小学校・中学校・地域・公民館が連携して行っていけるようにしていく必要がある。<br>○水路見学については、例年事前の歩道の整備と道案内、水路の歴史や先人の苦労についての説明などをしていただいていたが、本年度は実施を見送った。 |                         |
| 公民館（地域）  | ○ふれあいスクールや図書ボランティア、学校授業のサポート、各種公民館事業を通して、児童と地域の方々に関わる機会を増やし、世代間の交流をより深めることができた。<br>○校外学習（チャレンジキャンプ）を通して地域学習を行い、児童に地域の魅力を伝えるとともに、郷土愛を育むことができた。<br>○朝のあいさつ運動や、見守り活動、コミュニティスクールだより、公民館だよりの発行等を通じて、児童に様々な生活支援を行うことができた。  | ○地域住民が、学社融合推進活動により関心を持ち、より関わるできるよう、コミュニティスクールだよりや公民館だよりの広報を積極的に行い、人材発掘、人材確保に努めていきたい。<br>○現在の体制を維持しつつ、より一層公民館と学校、地域が連携を密にして活動を進めていきたい。<br>○児童や地域をとりまく環境は常に変化するため、ニーズを的確に把握し、情報モラルやSDGs等、時代にあった学社融合推進活動や公民館事業を通じて積極的に取組を推進していきたい。  |                         |

|   |  |
|---|--|
| <b>今年度の取組内容</b><br><b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>  |  |
| <b>第1回大塔地域学社融合推進協議会（6/20）〈大塔公民館・成人教室〉</b><br>①コミュニティスクール構想・大塔地域学社融合推進協議会 設置要綱の確認<br>②令和6年度鮎川小学校・大塔中学校学校運営方針の承認 ③活動計画と予算の承認<br>④協議会を昼間、各校で開催していたが、委員さんの参加が難しいという意見が出され、児童生徒の様子を見てもらうよりも、会議を優先することとなり本年度は夜間の開催となった。<br>※読み聞かせCDの活用が、有効にできているかの確認があり、できているとの回答があった。（小学校） |  |
| <b>第2回大塔地域学社融合推進協議会（10/25）〈大塔公民館・成人教室〉</b><br>①全国学力学習状況調査結果について報告 ②児童生徒の様子について情報交換<br>③大塔リフレッシュ大作戦について<br>④2部会の活動報告<br>※インターネットやSNSの利用でトラブルが多く聞かれている。利用方法については保護者と連携することが重要である。<br>※小学校の創立150周年の記念行事について協力できることはしていく。<br>※中学校のトークフォークダンスは実施予定であることを確認                 |  |
| <b>第3回大塔地域学社融合推進協議会（大塔公民館にて2月に開催）</b><br>①令和6年度鮎川小学校・大塔中学校の学校評価について<br>②2部会の活動内容と成果について報告 ③決算報告 ④全体を通しての成果と課題について   |  |

|   |  |
|---|--|
| <b>特徴的な協働活動</b>   |  |
| <b>[生活行事支援部] 学校行事の地域との協働を進める。地域行事への児童・生徒・保護者の参加を進める。登校の見守り、毎月はじめの登校指導を行う。学校や施設の整備作業を進める。</b><br>☆大塔音頭の講習会 ☆川パトロール・大塔地球元気村パトロール ☆大塔リフレッシュ大作戦<br>☆ふれあいスクールへの協力 ☆登校時の見守り活動・あいさつ運動 ☆通学路の安全点検、改善要望<br>☆「すぐる」で情報共有 ☆施設の整備作業 ☆大塔CS(コミュニティスクール)だよりの発行(地域への広報) |  |
| <b>[学習支援部] 学校図書館の運営ボランティア、学習やクラブ活動の支援を進める。</b><br>☆図書ボランティア(水曜日の休休み) ☆クラブ活動(生け花・将棋) ☆芋の苗植え・焼き芋 ☆出前授業<br>☆選択交流学习 ☆家庭学習の手引き ☆ミシン(裁縫)・書写等実習ボランティア(適宜)  |  |

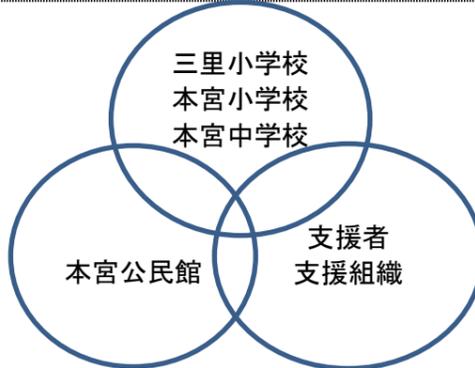
**【ふれあいスクール】**  
 小学校の児童を対象に放課後の居場所づくりとして、地域や各団体の方々にご協力いただき、工作や運動などの行事を計画し、実施しました。中学生もボランティアとして参加する生徒が少しずつ増えてきて、活動が充実してきています。



**【ミシンボランティア】**  
 家庭科のミシンを使った実習で、高学年児童と一緒に布製品の制作をしました。ミシンを使った実習では、細かな作業があるため、一人ひとり丁寧に教えてもらって、とても有意義な活動になりました。

**【大塔リフレッシュ大作戦】**  
 中学生がリーダーとなり、小学生を連れて各地域に別れて環境整備作業に取り組みました。学社融合推進協議会の方々を中心に、各地域の方々にも協力していただき、整備作業を進めることができ、地域や環境について考える良い機会となりました。



|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 学校・園名   | 田辺市立三里小学校  | 公民館名   | 本宮公民館 三里分館   |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>共育コミュニティといわれる以前から、本宮独自の地域連携教育を行っており、本宮地域学社融合推進協議会は、小学校2校、中学校1校と家庭、地域が一体となって連携・協働を行い、交流を進めている。<br>また、本宮行政局ロビーに各校の学社融合の活動内容を掲示し、地域の方に取組の広報活動を実施している。 |  |  |  |
| 目<br>標  | 本宮地域学社融合推進協議会発足前より、本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続き実施していく。<br>また、地域を知ることを中心に歴史、産業などを学校支援者・支援組織の皆様の協力を得ながら学びの機会を創出していく。<br>本年度は学社融合推進協議会の定例会で、「めざす子供の姿、具体的取組について」をテーマに協議した上で取組を進めていくこととした。  |  |  |
|   | <b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b><br>   |  | <b>支援者及び支援組織</b><br>育友会<br>熊野本宮語り部の会<br>田辺市女性会連絡協議会本宮支部<br>本宮町自治会連絡協議会<br>学校ボランティア<br>世界遺産熊野本宮館<br>熊野本宮伝統芸能教室<br>公民館サークル<br>学校クラブ活動協力者<br>和歌山県世界遺産センター |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>   |  |  |  |
| 学<br>校  | <b>成果</b><br>・本校の学社融合基本方針にある「地域に生きる学校として、地域をいかした学びを深める」という目標に沿った取組ができた。本地域には、地域に誇りをもち、様々な活動をされている方がたくさんいる。その方々と、子供たちにどのようなことを学ばせたいのか等、活動の趣旨や内容を細やかに打ち合わせすることで、より深い学びに結びついている。<br>・熊野古道語り部ジュニアの活動では、子供たちが歴史や文化を知り、それを伝える活動を通して、表現力の育成につながっている。また、高学年の活動を見て、下級生も憧れをもち、引き継いでいこうという気持ちがある。<br>・公民館と連携がとれ、学校行事・地域行事など、協力して実施することができている。 | <b>課題</b><br>・学校行事と地域行事の兼ね合いもあるので、年間を見通した活動計画が必要である。また、計画・準備・運営など、公民館等とこまめに連絡を取り進めていくことが大切である。<br>・福祉的な活動があまりできていないので、地域の協力を得ながら、学年で系統立てて行っていきたい。<br>・今まで行ってきた取組は、職員の入れ替わりがあっても継続して実施できるように、情報の集約や共通理解が必要である。  |  |
|   | <b>公民館（地域）</b><br>・運動会や秋祭りなど学校行事や公民館行事を共に協力し合いながら実施し、地域住民との交流の場となった。<br>・公民館主催の「文化作品展」に児童・生徒の作品を出展し多くの人に来場いただいた。<br>・学校の体験授業やクラブに地域の団体や地域の人を支援者として紹介し、それにより支援者も指導する喜びや生きがいを感じられる機会となった。  | ・加速的に進む人口減少と高齢化の中、新しい学習パートナーの発掘に苦慮している状況にある。今後も学社融合活動についての趣旨や活動をコミュニティ通信や公民館報などで地域住民に情報を発信し、興味を持ってもらえるよう努めていきたい。<br>・子供たちが生まれ育った地域を知り、理解する学習について地域住民に協力を頂いているが、この学びを故郷の魅力発信とし、故郷に誇りを持ってもらうよう、今後もその活動を支援していきたい。 |  |

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| <b>今年度の取組内容</b><br><b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>  |  |   |  |
| ○本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年2回開催とする。<br>・第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。<br>承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。<br><各校独自の取組>・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力 等<br><地域独自の取組>・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等<br>・今年度は、第1回目の定例会において「本宮の子供・地域の強みと弱み」について意見を出し合い交流した。その話し合いを通して、「学校と学校」、「学校と地域」とのつながりをより一層深めていけるように支援していくことを確認した。また、学社融合の活動を通じて、地域の方々の活動内容やその活動に対する思いを理解したり一緒に活動したりすることで、子供たちの本宮を誇りに思う、「本宮プライド」を高めることをめざしていくことを共有した。<br>・委員からの意見<br>「各校の学社融合に係る取組や事前の紹介は、地域の方に取組を知ってもらうよい機会になるため、今年度も行政局ロビーに年間を通して掲示する。」<br>○12月には臨時の学社融合推進協議会を開き、本宮中学校における部活動の地域移行の在り方について協議した。 |  |   |  |
| <b>特徴的な協働活動</b>   |  |   |  |
| <b>【本宮行政局や三里公民館主催の行事への参加】</b><br>・本宮町文化作品展・本宮公民館三里分館の秋祭りには、児童・教職員の作品を展示した。<br>・本宮公民館三里分館の秋祭りでは、児童有志のダンス発表・育友会によるバザーを行った。<br>・こだま祭では、児童有志のダンス発表とギター弾き語り・少年消防クラブによる田辺消防署本宮分署の体験コーナーの運営補助を行った。   |  |   |  |
|   |  |   |  |
|   |  |   |  |
| <b>【三里運動会】</b><br>小学校・本宮公民館三里分館が実行委員会となり、計画・準備・運営を共に行う。   |  | <b>【熊野古道ジュニア語り部】</b><br>・熊野本宮語り部の会の方から、「語り」の作成・練習など年間を通して指導を受けている。<br>・11月本宮小・近野小の児童・本校保護者、12月田辺東部小学校に語り部を行った。<br>・地域の方に藁笠の編み方を教えていただき、道休禅門地蔵に藁笠がけを行った。 |  |
|    |  |    |  |
|    |  |    |  |
| <b>【図書ボランティア】</b><br>・新刊本のカバーかけ<br>・読み聞かせ   |  | <b>【地域の方から学ぶ】</b><br>・さつまいもの苗植え<br>・お茶作り<br>・わさび田・アマゴ養殖場見学<br>・老人会との花植え<br>・行政局見学<br>・熊野和紙体験 など   |  |
|    |  |    |  |
|    |  |    |  |
|    |  |    |  |
|    |  |    |  |

|   |  |  |                       |
|---|--|--|-----------------------|
| 学校・園名   | 田辺市立本宮小学校  | 公民館名   | 本宮公民館・本宮分館・四村川分館・講川分館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>共育コミュニティといわれる以前から、本宮独自の地域連携教育を行っており、本宮地域学社融合推進協議会は、小学校2校、中学校1校と家庭、地域が一体となって連携・協働を行い、交流を進めている。<br>また、本宮行政局ロビーに各校の学社融合の活動内容を掲示し、地域の方に取組の広報活動を実施している。 |  |  |                       |
| 目 標   | 本宮地域学社融合推進協議会発足前より、本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、熊野古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続き実施していく。<br>また、地域を知ることを中心に歴史、産業などを学校支援者・支援組織の皆様の協力を得ながら学びの機会を創出していく。<br>本年度は学社融合推進協議会の定例会で、「めざす子供の姿、具体的取組について」をテーマに協議した上で取組を進めていくこととした。  |  |                       |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |  | 支援者及び支援組織  |                       |
|   |  | 育友会<br>熊野本宮語り部の会<br>田辺市女性会連絡協議会本宮支部<br>本宮町自治会連絡協議会<br>学校ボランティア<br>世界遺産熊野本宮館<br>熊野本宮伝統芸能教室<br>公民館サークル<br>学校クラブ活動協力者<br>和歌山県世界遺産センター   |                       |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>   |  |  |                       |
|   | 成果   | 課題   |                       |
| 学 校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、語り部ジュニア活動に継続して取り組んだ。昨年度の活動で得た成果や課題を生かしながら取り組めたことで、より充実した語りを行うことができた。また、語りを行う以外の歩く場面で参加者の方々と何気ない会話をしたり注意を促したりする活動を取り入れたことで、参加してくれた方々に楽しんでもらえたと同時に子供たちのコミュニケーション能力の向上につながった。</li> <li>・クラブ活動や手話学習、伝統芸能の活動には今年度も地域の方々に学習パートナーとして参画していただいた。クラブ活動では、昨年辞退された講師の方がおられ、継続できないクラブもあったが、新たに地域にある本屋さんの店長さんが引き受けてくださり、地域の方と関わりながら活動ができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童数や学級の人数が少ないことから、子供たちのコミュニティが限られたものになってしまう。そこで、近隣校や地域との関わりを意図的・計画的に取り入れていく必要性を感じている。また、今後も子供たちのコミュニケーション能力を高めたり、地域の魅力を発見したりするためにも、地域の方々と関わりをを広げ、深める機会を設けたい。また、より充実した活動になるよう、その活動の意義や目的を子供たちとその都度確認するようしたり学習パートナーさんとの新たな取組を模索したりする姿勢を持って臨みたい。</li> <li>・高齢化等により今年度も新たな人材確保の難しさを感じている。今後も学社融合推進協議会の協力を得ながら進めていきたい。</li> </ul> |                       |
| 公 民 館（地 域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会や秋祭りなど学校行事や公民館行事を共に協力し合いながら実施し、地域住民との交流の場となった。</li> <li>・公民館主催の「文化作品展」に児童・生徒の作品を出展し多くの人に来場いただいた。</li> <li>・学校の体験授業やクラブに地域の団体や地域の人を支援者として紹介し、それにより支援者も指導する喜びや生きがいを感じられる機会となった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・加速的に進む人口減少と高齢化の中、新しい学習パートナーの発掘に苦慮している状況にある。今後も学社融合活動についての趣旨や活動をコミュニティ通信や公民館報などで地域住民に情報を発信し、興味を持ってもらえるよう努めていきたい。</li> <li>・子供たちが生まれ育った地域を知り、理解する学習について地域住民に協力を頂いているが、この学びを故郷の魅力発信とし、故郷に誇りを持ってよう、今後もその活動を支援していきたい。</li> </ul>  |                       |

|   |  |
|---|--|
| <b>今年度の取組内容</b><br><b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>  |  |
| ○本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年2回開催とする。<br>・第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。<br>承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。<br><各校独自の取組>・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力 等<br><地域独自の取組>・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等<br>・今年度は、第1回目の定例会において「本宮の子供・地域の強みと弱み」について意見を出し合い交流した。その話し合いを通して、「学校と学校」、「学校と地域」とのつながりをより一層深めていけるように支援していくことを確認した。また、学社融合の活動を通じて、地域の方々の活動内容やその活動に対する思いを理解したり一緒に活動したりすることで、子供たちの本宮を誇りに想う、「本宮プライド」を高めることをめざしていくことを共有した。<br>・委員からの意見<br>「各校の学社融合に係る取組や事前の紹介は、地域の方に取組を知ってもらいよい機会になるため、今年度も行政局ロビーに年間を通して掲示する。」<br>○12月には臨時の学社融合推進協議会を開き、本宮中学校における部活動の地域移行の在り方について協議した。 |  |
| <b>特徴的な協働活動</b>   |  |
| <b>1. 【音無茶】</b><br>今年度も川湯地区の茶畑で音無茶を栽培している宇恵操さんの畑で3年生の子供たちが茶摘み体験をおこなった。収穫した茶葉は煎り、揉んで天日に干し、袋詰めをした。加えて、音無茶の魅力にふさわしい名前を考え、お茶に名前をつけた。出来上がったお茶は、学習パートナーの方や地域の方々にお配りし、皆さんに本宮の味を楽しんでいただくことができた。また、茶粥として給食のメニューにも活用してもらえたことで子供たちは、美味しいお茶を作るまでの苦労や作り手の想いに触れるとともに、達成感を感じることもできた。   |  |
|   |  |
| <b>2. 【語り部ジュニア活動】</b><br>今年度も子供たちは、語り部の会の梅崎さんのご指導の下、本宮や熊野古道の魅力、さらには語り部の役割や方法について学習を進めることができた。5、6年生は昨年度の経験を生かし、声の大きさや間合い、提示資料を工夫すると共に、場所の案内だけでなく、道中の安全のための声かけや日常会話などを行い、語り部に参加して下さった方々が安全かつ楽しく歩けるように努めることができた。語り部当日は、三里小学校の5、6年生や本校の保護者、行政の方々等が参加してくれ、子供たちも練習の成果を発揮しようとして一生懸命に語る事ができた。また、今年は語り部用のTシャツと帽子に加え、市役所からいただいた笠をかぶることができたことで子供たちはより一層、意欲的に取り組むことができた。  |  |
|   |  |
| <b>3. 【クラブ活動・読み聞かせ】</b><br>本校には「バドミントン」、「グラウンドゴルフ」、「シーズンレク」の3つのクラブ活動があり、地域の方々に講師にお招きし、指導してもらっている。今年度は新たに「シーズンレククラブ」を設け、学期ごとにそのシーズンに合った内容を計画し取り組んだ。2学期は、校区内にあるkumano森のふくろう文庫の安原さんに来ていただき、本宮小のエピソードを取り入れた紙芝居作りを行った。安原さんのお店に行かせていただき、たくさんのお本に触れることができたと同時に安原さんの本に対する知識にも触れながら、紙芝居を作り上げることができた。   |  |
|   |  |

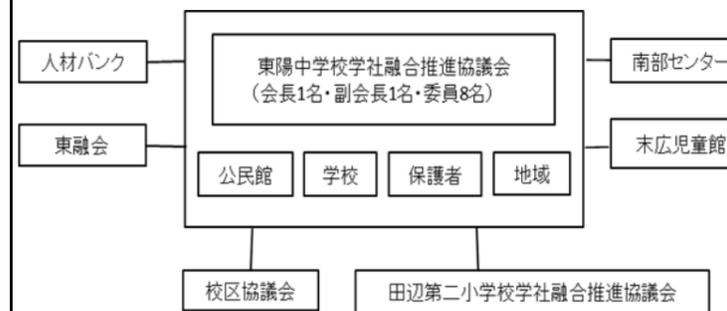
|       |           |      |                 |
|-------|-----------|------|-----------------|
| 学校・園名 | 田辺市立東陽中学校 | 公民館名 | 東部・中部・南部・ひがし公民館 |
|-------|-----------|------|-----------------|

学社融合における学校・地域の様子

公民館施設を併設した中学校として、公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施している。「東融会」（東部・中部・南部・ひがしの各公民館主事と校区の学社融合を推進する会）を通じて管内公民館と情報を交換し、共有している。地域の方々も公民館の働きかけに協力的で、東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただく等、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができている。公民館の掲示板には学社融合行事の様子や教科・部活の作品等を掲示し、地域の方々に紹介している。また、地域にある田辺第一、田辺第二、田辺東部各小学校と連携した学社融合の取組も推進してきた。学社融合推進協議会では、今までの取組を引き継ぎながら、現在の本校の地域実情に合った取組の議論を進めている。

|        |         |  |
|--------|---------|--|
| 目<br>標 | 学校・園・地域 | <ul style="list-style-type: none"> <li>公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。</li> <li>校区の小学校と連携を深め、児童と生徒が交流できる企画を進める。</li> <li>学校と地域が、共に取り組み、学び合う機会を増やし、「社会に開かれた教育課程」を推進する。</li> <li>幅広く地域の方に呼びかけ、学社融合活動に携わっていただく。</li> <li>生徒たちと共に、当地域の課題（防災等）について学んだり、活動したりする機会を持つ。</li> </ul> |
|--------|---------|--|

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

- 人材バンク  
(学校支援サポーター)
- 図書整備
  - バラ園整備
  - 各種授業講師



成果と課題（学校・公民館からの視点）

|         | 成果  | 課題   |
|---------|---|--|
| 学校      | <p>地域との連携は、主に総合学習として取組を行った。1年生は防災学習として学社融合推進協議会の委員の方と「きいちゃんの災害避難ゲーム」を行った。また「地域学」と題し、地元田辺市の魅力を調べ、他者に紹介するためのパンフレットを作成する取組を行った。田辺市の現状と課題を調べるにあたって、市内の事業所や市役所にご協力頂き、インタビューを実施した。これらの取組から、生徒は自分たちが住んでいる地域の良さを再認識し、さらに地域の一員としてなができるかを考える良い機会となった。</p> <p>小学校との連携では、田辺第二小学校・田辺東部小学校に向けて中学校体験を開催し、体験授業やクラブ見学を行った。</p> | <p>地域の方のご協力を受けるだけでなく、学校として地域にお返し・発信できる活動を増やしていきたい。そのために、生徒たちが、地域の一員として主体的に活動できるような取組を進めたい。</p>   |
| 公民館（地域） | <p>本年度もバラの見頃となる5月に「バラと音楽の鑑賞会」を開催した。東陽中学校校内のバラ園を一般開放するとともに演奏会を開催し、東陽中学校合唱部、吹奏楽部、また特別ゲストとしてアコーディオニストの田ノ岡三郎氏にご出演いただき、当日は約300名の方々にご来場いただいた。地域と学校の交流の機会へと繋げることができた。</p> <p>バラ園の管理においても普段から地域の方々に参加いただいております。サークル活動の合間などに剪定や草抜き、施肥等の整備作業にご協力いただいている。校内の環境の整備面においても地域の方々の協力体制を得ることができた。</p>                          | <p>校内にバラ園があるという特徴と学校と公民館が併設しているという特徴を生かして、今後も地域と学校につながりが生まれるような取組を検討していきたい。</p> <p>そのほかの事業においても地域と学校が協働できる可能性を模索することで、両者がともに学び合う関係性を築いていきたい。</p> |

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

11月11日に行われた第2回学社融合推進協議会では、1年生の授業を参観していただいた。防災学習の一環として「きいちゃんの災害避難ゲーム」を行った。その際、学社融合推進協議会や田辺市生涯学習課の方々に、各班1名ずつ一緒に入っていただいた。津波による犠牲者ゼロのため、災害時の迅速な避難行動や日頃からの備えの重要性について、楽しみながら実践的に学ぶことができた。その後の協議では、生徒について以下の意見が出された。

- 中学生は大変仲が良く、円滑なコミュニケーションが取れていた。
- 中学生と一緒に、事前準備の大切さを学ぶことができた。
- みんなで意見を出し合っ、楽しみながら災害について考える良い機会になった。
- 実際起きたときにとるべき行動と、自分たちの今までの認識のずれを実感できた。



特徴的な協働活動

バラと音楽の鑑賞会

毎年、中庭のバラが満開に咲き誇る5月に、バラ園の一般開放と、演奏会を開催している。今年度は5月11日（土）に開催した。300名を超える方にご来場いただき、大盛況の中終演した。演奏会では、合唱部が息のあった爽やかな歌声を、吹奏楽部が「め組の人」など誰もが知るポップス曲を披露した。また特別ゲストとして、田辺市にゆかりのあるアコーディオニスト・田ノ岡三郎さんにご出演いただいた。バラにちなんだ「The Rose」や「リベルタンゴ」など、様々なジャンルの楽曲を披露していただき、美しい音色に会場全体が酔いしれた。



「バラの東陽」をいつまでも

東陽中学校では地域の方と協力して、校内のバラ園を管理している。3月には卒業記念品のバラの苗を植えた。また5月には「バラと音楽の鑑賞会」の開催に向けて、バラ園整備ボランティアを募集。有志の生徒に加え、地域のボランティアの方や、普段からサークル活動で東部公民館を利用されている方も加わってくださり、草抜きや摘花作業を行った。今年はバラの開花状況も良く、大輪の花を咲かせることができた。来年も美しい花が咲くよう、地域の方の協力を得ながら大切に育てていきたい。



|  |   |   |             |
|--|---|---|-------------|
| 学校・園名  | 田辺市立明洋中学校   | 公民館名  | 西部・芳養・中部公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>本校では、学社融合推進協議会と公民館主事及び学社融合推進教員で組織する「明融会」の2つの会を中心に学社融合の取組を進めている。授業や部活動を地域から講師を招いて行う活動と、学校が地域に出向く活動があり、ともに公民館の協力を得ながら実施し、活動の充実に努めている。 |   |   |             |
| 目<br>標   | 学校・園・地域   | 【学校】<br>○地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であるということを実感し、故郷を愛する気持ちを育成する。<br>○地域での活動を通して、多くの方々と関わることによりコミュニケーション能力を育成する。<br>○地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。<br>【地域】<br>○地域住民との関わりをとおして、子供たちのコミュニケーション能力の向上と、伝統・文化の継承や技術の取得を図る。<br>○学校授業への適切な地域人材の提供により、子供たちの愛郷心を育みながら、健全な育成を目指す。<br>○子供たちとの関わりの中で、地域住民に学校の取組を知ってもらい、子供たちに対する意識のさらなる向上を目指す。 |             |
|  | 校（園）区の推進組織（組織体制図）   | 支援者及び支援組織<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・学社融合推進協議会</li> <li>・明洋中学校育友会</li> <li>・芳養地域人材バンク登録者及び各地域の方々</li> <li>・芳養公民館</li> <li>・西部公民館</li> <li>・中部公民館</li> <li>・西部センター</li> <li>・天神児童館</li> <li>・芳養児童センター</li> </ul>   |             |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |   |   |             |
| 成果   |   | 課題  |             |
| 学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学社融合の取組によって、学校や生徒の様子を保護者や地域に伝えることができた。</li> <li>・もとまち保育所との合同避難訓練を数年ぶりに実施できた。合同で実施することで、実際の避難時に想定されることについて見直す良い機会となった。</li> <li>・地域の方々の協力を得て、専門的な話を聞いたり体験的な活動を行うことで、学びを深められた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練については、保育所と合同で実施する場合の日程、また、地域との連携について見直すことの必要性を感じた。</li> <li>・地域の方々に関わる機会を生かして、コミュニケーション能力の向上を図りたい。</li> <li>・公民館や学社融合推進協議会と連携し、体験活動等の指導に携わっていただける人の確保に努めたい。</li> </ul>  |             |
| 公民館（地域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紀州手まりや茶道、華道等、公民館から講師を派遣して実施することができた。また、紀州手まりと生け花については、文化発表会において展示することができた。</li> <li>・各公民館主催の作品展に、中学生の作品を展示することで、地域の方々に中学校の取組の一端を示すことができた。</li> <li>・「天神児童館まつり」のオープニングセレモニーでは、吹奏楽部の演奏を行うとともに、併催の「西部人権の集い」では、生徒による人権作文を発表した。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の先生方が高齢になってきているため、取組内容を検討したり、取組自体できなくなることを予想した対応をしたりする必要がある。人材確保について、学校と連携したい。</li> <li>・今後も地域と子供たちの関係をより深く繋いでいきたい。</li> </ul>  |             |

|  |                 |                    |
|--|-----------------|--------------------|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）   |                 |                    |
| <b>【第1回学社融合推進協議会（R6.5.30）における協議内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度学校経営方針について説明し、承認を得る。</li> <li>・学校行事における生徒の様子を説明し、理解していただく。</li> <li>・部活動の入部状況を説明し、10月に部活動検討委員会を予定していること報告する。</li> <li>・今年度から本校に新設された通級指導教室について説明し、理解していただく。</li> <li>・体育大会・修学旅行・遠足について説明し、理解していただく。</li> <li>・登下校時の車による送迎の交通マナーについて協議をする。</li> </ul> |                 |                    |
| <b>【第2回学社融合推進協議会（R6.11.26）における協議内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会を午前中に開催し、授業参観を行った。生徒・教師の様子を委員の方々に見ていただけてよかった。</li> <li>・全国学力学習状況調査の結果分析について説明する。</li> <li>・2学期の学校運営について説明する。</li> <li>・部活動検討委員会で話し合ったことを報告する。</li> <li>・登下校の自転車通学についてや、通学路の安全について協議をする。</li> </ul>  |                 |                    |
| <b>【第3回学社融合推進協議会は3月に開催】</b>  |                 |                    |
| 特徴的な協働活動   |                 |                    |
| <b>【もとまち保育所との合同避難訓練】</b><br>避難訓練については、地域の学校として、様々なことを想定して取り組む必要性を感じている。今年度は数年ぶりにもとまち保育所と合同で避難訓練を行った。防災担当が保育所と打ち合わせを行い、事前に留意点などを確認したが、実際にやってみて分かったことも多くあり、実際に体験することの大切さを感じた。中学生には避難し、自分の命を守ることにともな、地域で中学生ができることを積極的に担う姿勢を身につける機会として継続したい。   |                 |                    |
|   |                 |                    |
| <b>【職場体験学習】</b><br>今年度の2年生は、6月の遠足の際にも紀州梅干館を訪れ、農業について学習するとともに、働くうえでの苦労や大変なこと、働くことの意味などを聞き取る活動を行った。9月には地域の協力を得て、職場体験学習を3日間行った。この体験学習は、勤労の尊さを学び、社会で通用する礼儀やマナーを身につけるとともに、将来の進路選択に生かせるようにすることを目的とした。職場についてはできる限り生徒の希望に沿うように25の事業所に協力していただいて実施した。また、文化発表会において、職場体験で学んだことについて発表し、保護者や地域の方々にもこの活動の目的を知ってもらう機会になった。                               |                 |                    |
|   |                 |                    |
| <b>【紀州梅干館の見学】</b>  | <b>【職場体験学習】</b> | <b>【文化発表会での発表】</b> |

|   |   |  |                       |
|---|---|--|-----------------------|
| 学校・園名   | 田辺市立高雄中学校   | 公民館名   | 秋津・万呂・稻成・ひがし・中部・南部公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子  |   |  |                       |
| 例年、家庭科、社会科、保健体育科などの授業や文化部などの部活動指導、総合的な学習における進路学習など、さまざまな形で地域の方をゲストティーチャーに迎えて取り組んでいる。また、1年生は校外学習、2年生は職場体験学習、3年生は保育実習等で地域と連携して活動している。 |   |  |                       |
| 目<br>標  | <p>授業や部活動での地域の方とのふれあいを通じて、地域を今まで以上に深く知り、専門性の高い内容に興味関心を抱くことで学習意欲を高め、自分が生まれ育った地域に誇りと愛着を持たせる。</p> <p>【高雄中学校学社融合推進協議会】<br/>高雄中学校学社融合推進協議会は、保護者及び地域住民等の（以下「保護者等」という。）の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。</p> |  |                       |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |   | 支援者及び支援組織  |                       |
|   |   | <p>公民館<br/>たなべる<br/>昭和幼稚園<br/>いずみ保育所<br/>田辺警察<br/>青少年センター<br/>田辺市消防署<br/>田辺社会福祉協議会<br/>城山台給食センター</p>   |                       |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）  |   |  |                       |
| 成果  |   | 課題   |                       |
| 学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校開放週間や学社融合推進協議会の授業参観、民生児童委員の学校訪問等で地域の方に学校や生徒たちの様子を知ってもらうことができた。</li> <li>職場体験学習や企業訪問を通して、地域でどのような仕事が行われているかを知ることができ、地域理解に繋がった。</li> <li>生徒会と公民館の協議を行う場を設け、生徒代表と公民館主事が意見交換を行った。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方に学校に来ていただく活動だけでなく、子供達が地域の活動へ出向く機会をつくっていききたい。そのために、生徒会と公民館の協議を継続して取り入れ、互いに参加できる活動を考案していききたい。</li> </ul>  |                       |
| 公民館（地域）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>公民館の文化作品展へ生徒の作品を出展していただいたり、学校の文化発表会にて地域の作品を出展させていただいたりしたことで、日頃の成果を地域で共有することができた。</li> <li>コロナ禍以降開催できていなかった夏祭りや運動会をとおして地域と関わるきっかけを作ることができた。</li> <li>生徒会と公民館主事が顔を合わせ、意見交換を行ったことで、事業展開の可能性が広がった。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会との意見交換の機会を無駄にしないよう、中学生のニーズを把握し、参加してもらえるような事業を展開する必要がある。</li> <li>ただ参加者としてではなく、地域の人材として地域を盛り上げてもらうために、ボランティアの募集を積極的に行いたい。</li> <li>公民館と学校が密に連携し、学校および地域の課題に対して互いに協力できる体制を構築するため、人材バンクへの登録者を増やし、その活用を促進していく必要がある。</li> </ul> |                       |

|   |        |        |
|---|--------|--------|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |        |        |
| <p>【本校の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットトラブル</li> <li>下校時間での交通マナー</li> </ul> <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が公民館のイベントに参加するような交流が少ない</li> <li>避難訓練の在り方</li> <li>公民館と学校の繋がりをより強くするためには</li> </ul> <p>【学校側として期待すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々や母校小学校との関わりを増やすことで、生徒の地元を大切にすることを育みつつ、「地域で子どもを育てる」という認識を一層深めたい。</li> <li>家庭や地域の持つ教育力を積極的に学校に持ち込みたい。</li> </ul> |        |        |
| 特徴的な協働活動  |        |        |
| <p>地域の方を迎えた講演会や合気道の授業、図書館の運営、文化部の紀州てまり教室や茶道体験などを実施することができた。また、学年の取組として、地域を知るために行った校外学習や、キャリア教育の一環としての職場体験学習などで、学校ではできない貴重な体験をすることができた。加えて、今年度から生徒会と公民館の協議を行うことで、生徒と地域が直に意見交換を行うことが出来た。</p>  |        |        |
|   |        |        |
| 公民館と生徒会の連携  | 模擬投票体験 |        |
|   |        |        |
| 紀州てまり教室   | 租税教室   | 合気道の授業 |
|   |        |        |
| 職場体験学習  | 校外学習   | 校外学習   |

**学社融合推進協議会活動報告書** 協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

|       |           |      |       |
|-------|-----------|------|-------|
| 学校・園名 | 田辺市立新庄中学校 | 公民館名 | 新庄公民館 |
|-------|-----------|------|-------|

**学社融合における学校・地域の様子**  
 新庄地域では、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、幼小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各学校単位で育友会・PTAの協力のもと、保護者・地域との取組も進めている。（今年度、新庄幼稚園は休園中）

|        |   |
|--------|---|
| 目<br>標 | <p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則<br/>                 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p> |
|        | <p>本校における学社融合の目標<br/>                 地域の祭りや行事等への参加と、地域の文化や伝統産業の調べ学習、地域の未来を考える学習を通して、地域を愛する心を育てる。</p>   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| <p><b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b></p> | <p><b>支援者及び支援組織</b></p> <p>学社融合推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼小中学校育友会・PTA</li> <li>○ 学校支援者・地域代表者</li> <li>○ 地域関係団体</li> <li>○ 公民館運営委員会</li> <li>○ 新庄地区校区協議会</li> </ul> <p>新庄中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新庄漁業協同組合</li> <li>・和歌山県南紀熊野ジオパークガイド田辺ジオパーク研究会</li> <li>・新庄橋谷獅子舞保存会 等</li> </ul> |
|---------------------------------|--|

**成果と課題（学校・公民館からの視点）**

| 成果   | 課題  |
|--|---|
| <p><b>学校</b></p> <p>1年生は、「地域学～新庄、田辺の魅力伝えたい～」をテーマに、自分たちが住む新庄町、田辺市の自然、伝統、産業の3つに焦点を当てて調べ、地域の方からも学ぶことができた。農業体験推進事業で、さつまいも栽培にも取り組んだ。2年生は、「新庄町お助け隊」と称して地域に貢献した。また、18カ所の事業所での職場体験学習に取り組んだ。3年生は、「新庄未来学～2030年の未来がより良くなるために～」をテーマに、身近でできることを考え、実践したことを文化発表会で伝えることができた。また、地域の消防団の方々と「きいちゃんの災害避難ゲーム」に取り組むことができた。文化発表会では、生徒の俳句作品や技術・美術・家庭等の作品を展示したり、各種たよりにおいて、行事のあとの生徒の感想を載せることで、地域の方にも、学校の活動を知ってもらうことができた。</p> | <p>・従来の活動がさらに充実したものとなるように、今後もカリキュラムの工夫や見直しを進めていく。また、専門的な技術、知識を持っている地域の方々とさらにつながり深め、ゲストティーチャーとして協力を仰ぎながら、取組の内容を考えていく。</p>              |
| <p><b>公民館（地域）</b></p> <p>「新庄の獅子舞」や「新庄ぎおんさんの夜見世」など、地域の特色ある伝統行事について、地域の大人から子どもたちへ伝える良い機会を設けることができた。子どもたちに自分たちが住む地域のことを知ってもらうとともに、大人にとっても自らの知識や特技を生かす場となった。</p>   | <p>・より多くの方に事業に携わってもらえるよう、情報提供や参加しやすい雰囲気づくりに努める。また、地域学習の幅をさらに広げられるよう、人材把握や育成に努めていく</p> <p>・効果的な事業の実現に向けて、学校と公民館の情報交換等をより積極的に行っていく。</p> |

**今年度の取組内容**  
 協議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- \* 学力子育て部会
  - ・新庄小・新庄第二小の保護者学級の案内を小中の保護者に配布。新庄地域全体で参加を呼びかけた。
- \* ふるさと新庄部会
  - ・8月22日 干潟観察会（内之浦親水干潟公園）講師：ヒロメラボ代表山西秀明氏委員と親子20名が参加した。
- \* 防災安全部会
  - ・10月25日 消防新庄分団ときいちゃんの災害避難ゲームを実施（3年生）。
- \* 文化発表会
  - ・11月17日の案内をし、協議会の委員さんが来校。生徒や学校の様子や取組内容を知っていただく機会とした。

**特徴的な協働活動**

**【1年生 地域学】**  
 自分たちの地元を知ってもらうために自然、伝統、産業の3つに焦点を当てて調べることができた。地域の人たちへのインタビューを通して、様々なことを学ぶ事ができた。



**【2年生 職場体験学習】**  
 職業観・労働観を育み、自己理解を深めること、社会規律やマナー等の必要性を理解し、体感することを目的として取り組んだ。今年度は18箇所の事業所にご協力頂き、10月9日～11日の3日間実施した。



**【3年生 新庄未来学】**

- 次世代育成作業
 

未来学の活動のひとつとして、未来のために行動すべき当事者として何が出来るかを考えるきっかけとして「熊野参詣道」に実際に身を置き、肌で感じることで、未来の世代に引き継いでいくべきかけがえのない宝物であることを実感することができた。
- きいちゃんの災害避難ゲーム
 

ゲームを通して、避難所での生活や、そこで起こりうるトラブルなどを学習した。また、地域の消防団の方にも参加してもらったことで、異なった視点での考え方に触れることができた。



|  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| 学校・園名  | 田辺市立衣笠中学校   | 公民館名  | 三栖公民館・万呂公民館  |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>三栖地域では、学社融合推進協議会やきのくに学び月間での学校開放の機会などで、保護者や地域と学校の現状や課題についての共有を行っている。また、育友会や学校が主催して行う教育講演会などを保護者や地域にも公開し、取組の共有を図っている。<br>学校・地域・公民館が連携し、互いに協力する体制が確立されている。 |   |   |  |
| 目 標  | (1)生まれ育った地域について学び、地域への愛着の気持ちや、地域に貢献したいという気持ちを育てる。<br>(2)地域の方々との交流を図る中で、好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる心など豊かな人間性を身につけさせる。   |   |  |
| <b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b><br>衣笠中学校学社融合推進協議会 組織体制図   |   | <b>支援者及び支援組織</b>  |  |
|  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○三栖幼稚園</li> <li>○三栖小学校</li> <li>○長野小学校</li> <li>○会津小学校</li> <li>○三栖公民館</li> <li>○万呂公民館</li> <li>○育友会</li> <li>○地域住民</li> <li>○田辺市梅振興室</li> <li>○J A三栖等地域団体や企業</li> </ul> |  |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |   |   |  |
|  | <b>成果</b>   |   | <b>課題</b>  |
| 学 校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は伏菟野地区についての防災学習を実施した。伏菟野地区での災害を経験した地域の方から講話を聞き、防災についての意識を高めることができた。また、地域の主産業である梅の生産加工を体験的に学ぶ梅体験学習の取組を行った。</li> <li>・2年生は職場体験学習を実施した。地域の事業所に協力していただき3日間の充実した体験活動を行うことができた。</li> <li>・部活動では、合唱部が三栖小学校の音楽会や地域のイベントに参加し、演奏を披露した。</li> <li>・昨年に引き続き、全校で衣笠ミニ町内会の取組を行った。「三栖」「城山台」「万呂」の各町内会の方々にも参加していただき、中学生として地域のためにできることを考え、グループごとに取組を行った。</li> <li>・講師を招聘して情報モラル教室や人権教育講演会を全校生徒を対象に実施した。その際に保護者や地域の方々も参加できる体制をとり、学校の取組を共有した。</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習や防災学習、職場体験学習など、例年行っているものを形骸化させないよう、取組の本質を押さえながら、学び方や発信の仕方などを検討し、よりよいものにする。</li> <li>・各町内会と連携し、ミニ町内会の取組をより良いものにする。地域が求めていることを共有し、中学生が主体的に地域に参画できる取組にする。</li> <li>・その時の生徒の実態や地域の課題に合ったテーマで教育講演会を開き、学校・地域・保護者の三者にとって有益な取組を行う。</li> </ul>            |
| 公 民 館（地 域）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から取り組んでいた衣笠ミニ町内会の取組について、三栖公民館を会場として利用した、中三栖子ども夏祭りが成果として挙げられる。地区の一つである中三栖の町内会と公民館が共同開催し、衣笠中学校の生徒は当日の準備や運営などで協力した。イベント当日は大変盛況で、会場となった公民館の集客力は身動きができないほどの人であふれるほどであった。</li> <li>・城山台のお祭りでは、出店の看板を衣笠中学校の生徒が作成し、お祭りに彩を添えた。</li> </ul>   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果で挙げた、ミニ町内会による夏祭りは、規模でいえば大きなものではなかったものの、人口増加はありつつも繋がりが薄いことが懸念されている三栖地区の現状に対し、一定の成果を示した。実施後、祭りやイベントを大勢でやるのなら出店側で自分たちも参加したかった。と地域の大人からの声があった。次年度以降も同様の取組を行うのであれば、学校の負担が増えない範囲で、という部分は念頭に置きつつも、地域の大人と生徒が共に活動し、繋がることのできる行事を増やしていけるのが理想だと感じた。</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <b>今年度の取組内容</b><br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |  |
| 学社融合推進協議会を開催して、地域の方々の困り感や課題、また今後の取組について出席者で意見を出し合い、共有することができた。<br><b>【具体的な内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に住む中学生としてどのように地域を盛り上げられるか、また地域の課題の解決に向けて話し合い、意見をもらえると嬉しい。<br/>→ミニ町内会の取組の中で、中学生として地域のために何ができるかを話し合い、町内会と協力して実施する。</li> <li>・防災対策を地域として取り組んでいきたいと考えている。<br/>→1月の防災訓練を町内会と中学校が協力して行う。</li> <li>・地域住人同士のコミュニケーションが減少している。</li> <li>・昨年度のミニ町内会の取組のおかげか、町内会員が増えた地区があった。</li> </ul> 時代の変化と共に、地域や学校の抱える課題も多様化している。ミニ町内会の取組をきっかけに、衣笠中学校と地域が協力し、子どもを育成していくという認識を共有した。  |  |
| <b>特徴的な協働活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生で、平成23年の台風第12号における豪雨で大きな被害に遭った伏菟野地区を訪問し、その後谷口元区長よりお話を聞き、災害の怖さや日頃の備えの大切さ、復興に向けての取組について学習することができた。</li> <li>・2年生の総合的な学習の時間に地域の事業所にて職場体験学習を行った。</li> <li>・NIT情報技術推進ネットワーク（株）代表取締役の篠原嘉一先生を招聘し、「スマホやSNSのトラブルから身を守るために」をテーマに、教育講演会を全校生徒を対象に実施した。</li> <li>・イラスト作家のRuiさんを講師に招き、人権教育講演会を行った。講演ではRuiさんの体験や取組について話していただき、いじめによって苦しむ人の気持ちを知ったり、いじめをなくすために必要なことについて考えたりした。</li> <li>・中学生が地域の敬老会宛に手紙を書き、公民館を通じて配布した。</li> <li>・元三栖小学校栄養教諭の田上成美先生を招聘し、全学年で食育の授業を行った。</li> <li>・衣笠ミニ町内会を開催した。「三栖」「城山台」「万呂」の各町内会の方々にも参加していただき、中学生として地域のためにできることを考え、グループごとに取組を行った。三栖地区では、地域清掃に参加して町内会の方々と一緒に清掃に取り組んだり、地域で行う秋祭りイベントでボランティアとして運営に関わったりした。城山台地区では、夏祭りのポップづくりに取り組んだ。万呂地区では地域の清掃活動に取り組んだ。</li> <li>・町内会と合同で防災訓練を実施した。生徒は「三栖」「城山台」「万呂」に分かれてそれぞれの地区ごとに避難訓練と学習を行った。三栖地区は衣笠中学校、城山台地区は集会所、万呂地区は自宅付近の一次避難場所に避難した後万呂コミュニティセンターへ集まり、それぞれの場所でアルファ米の炊き出しや避難所設置訓練、起震車体験などの体験実習を行った。</li> </ul> |  |
|  |  |

|  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| 学校・園名  | 田辺市立上秋津中学校  | 公民館名   | 上秋津公民館  |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b>  |   |  |   |
| 平成28年度から30年度までの、幼稚園・小学校・中学校・公民館と連携した「上秋津地域共育コミュニティ本部事業」の取組を継承している。幼稚園から小学校、中学校に至る11年間の教育活動を目標にした、地域とともにある実践活動を目指している。<br>従来から上秋津では、地域が子供たちを育てる取組が進められており、上秋津学社融合推進協議会はその活動をさらに発展させるため、幼小中の連携強化に重点を置いたものであった。 |   |  |   |
| 目<br>標   | 学校・園・地域<br>・農事体験を中心とした体験活動を行い、ふるさとを大切に育てる。<br>・地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。<br>・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育をすすめる。<br>・幼・小・中・公民館・地域の連携を図る。  |  |   |
|  | <b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b><br>上秋津地域学社融合推進協議会<br>公民館・上秋津幼稚園・上秋津小学校・上秋津中学校<br>PTA・町内会等<br>↓<br>役員・事務局<br>※役員=会長・副会長<br>↓<br>ふるさとを誇りに思う    学力の向上を図る    人を大切にする   |  | <b>支援者及び支援組織</b><br>上秋津町内会 上秋津公民館<br>JA紀南上秋津<br>JA紀南上秋津青年部<br>幼稚園PTA 小学校育友会<br>中学校PTA 民生児童委員<br>公民館サークル<br>秋津野ガルテン<br>介護老人保健施設あきつ の 等 |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |   |  |   |
| <b>成果</b>  |   | <b>課題</b>  |   |
| 学校   | ・農事体験や梅・みかんの加工体験を通して、地域の産業や文化について学ぶことができた。また地域の方々との関わりから地域で大切にされていることを実感させることができた。<br>・さまざまな交流の中で、地域の大人、小学生や園児など日頃関わることの少ない年代の人との関わりは、コミュニケーション力向上の機会となった。<br>・地域の防災訓練や祭りへの参加により、中学生が地域で活躍できる機会が得られた。                       | ・地域の方々との継続的な関わりの中で、社会性を育む手立てを考えていきたい。<br>・それぞれの活動において、受け身にならず生徒にとって自分ごととして捉えられるように目的意識や課題意識をもって取り組めるアプローチを考える必要がある。<br>・地域学習や防災学習等でより効果的な学びとなるよう、公民館や学社融合推進協議会の協力を得ながら地域の人と繋がる機会を大切にしていきたい。    |   |
| 公民館（地域）  | ・公民館が持つ地域との繋がりを生かし、中学校との協働活動において連携を取ることができた。<br>・上秋津文化作品展において、館区内の幼稚園、小学校、中学校の子どもたちの絵画や作品を展示するとともに、公民館の文化サークル（絵画、陶芸、写真）の作品と同時に展示会を行ったことは、出展者だけでなく一般の来場者にとっても見ごたえのある展示会となった。<br>・公民館事業実施に当たり、地域の方だけでなく中学生による協力のもと実施することができた。 | ・今後においても、公民館の繋がりを生かした地域と学校が協力できる体制を継続していくため、その機会をつくることや地域、学校、公民館の連携を密にし、繋がりを深めていく必要があると考える。<br>・公民館として、各サークル活動などにおいて参加者数は減少傾向となっており、人材の固定化が見受けられる。地域の方と繋がる機会を増やすため、新たな方にも取組に参加してもらえるよう努めていきたい。 |   |

| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会） |  |
|------------------------------------|--|
| ◇開かれた学校づくり                         | ◎学社融合推進協議会全体で課題・目標を共有する。<br>◎授業を中心に、学社融合を推進する。<br>・農事体験 ・職場体験 ・食育講座 ・防災学習 ・地域学習 など<br>◎地域と学校が一体となって行事を融合させる。<br>・公民館主催の夏祭・春祭 ・避難訓練及び防災学習 |
| ◇幼・小・中・PTA・公民館の連携                  | ◎校長・学社融合担当者会・公民館主事・PTA役員が共通理解できる場の設定。<br>◎幼・小・中・地域が連携した取組を進める。<br>・職場体験 ・幼稚園との交流（家庭科） ・小中交流授業 ・農事体験                                      |

**特徴的な協働活動**

### 上秋津ふるさとウォーク

上秋津地域では、毎年「春祭り」が行われていましたが、コロナ禍から昨年度まで、代替事業として「上秋津ふるさとウォーク」が開催されました。上秋津地域内の名所・旧跡に立ち寄り、歴史や成り立ちを解説してもらいながら約5kmのコースを歩いて、ふるさと上秋津の良さを再発見しました。






水力発電所跡    川上神社    川上神社参道    千光寺

### 地域の産業を核とした体験学習

地域の基盤となる産業の一つ、また生活を支える身近な職業の一つとして「農業」をとらえ理解する事を目的に、地域の農業を営むご家庭に協力をお願いして「農事体験学習」を実施しています。またJA紀南様、秋津野ガルテン様のご協力で「梅学習」や「マーマレードづくり」を通して地域の産物について、生産・加工・流通について知る体験学習をしました。






梅学習    梅ジュースづくり    マーマレードづくり    農事体験

### 幼稚園との交流 ～ふれあい体験学習～

3年生の家庭科「保育」の学習では、上秋津幼稚園との交流を続けています。一緒に歌ったり、園児のみなさんが喜んでくれる遊びを考えたり、プレゼントを制作したりと楽しみながら準備を進めました。





|   |   |   |        |
|---|---|---|--------|
| 学校・園名   | 田辺市立秋津川中学校  | 公民館名  | 秋津川公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>秋津川中学校では、ほとんどの生徒が保育所から小・中学校と一緒に生活し、生徒同士の人間関係がよい。また、保護者も長い年月を一緒に活動しているため、連帯意識が強く、地域の人々も子供たちを見守り育てていこうとする意識が強い。学社融合の取組から、計画的に子供たちが地域の方々と触れ合うことで、視野を自分たちから地域へと広げて考えられるようになっていけるとともに、一緒に行動することで地域全体の活性化に貢献している。                    |   |   |        |
| 目 標   | 学校・園・地域<br>・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にすることを育てる。<br>・地域の方々との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。<br>・地域の方々との交流を通して、子供たちに伝統文化等の様々な知識を教え愛郷心を養う。<br>・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の方々に、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただくことで、地域の活性化に繋げていく。 |   |        |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |   | 支援者及び支援組織   |        |
|   |   | 秋津川公民館<br>秋津川町内会<br>秋津川振興会<br>JA紀南秋津川店<br>JA女性会<br>秋津川婦人会<br>秋津川小学校<br>秋津川保育所 |        |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>   |   |   |        |
| 成果  |   | 課題  |        |
| 学校<br>・町民運動会やふるさと祭り等の地域行事は、昨年より再開された。また、外国の方とのボランティア交流、文化発表会での多肉植物の寄せ植え体験、中学生・小学生で行うウバメガシの植林作業、キャリア教育の実施などに取り組むことができた。今年度の職場体験はアドベンチャーワールドで実施した。<br>・校外学習で県の偉人についての学習を実施。稲むらの火の館（濱口梧陵記念館・津波防災教育センター）を訪れ、濱口梧陵の功績を防災学習の一環で学習した。<br>・小中学校の連携についても、例年通り実施できた。 | ・毎年実施している学校行事や地域との連携行事については、できるだけ続けていく方向で工夫しながら取り組んでいく。<br>・中学生の人数の減少から、今後も同じ取組を続けていくことはすでに厳しい状況であるため、そのことを地域にも伝えつつ、中学生として取り組める部分は取り組んでいく。  |   |        |
| 公民館（地域）<br>・令和6年度も昨年度同様の取組を実施することができた。<br>・町民運動会やふるさとまつりにおいては中学校との連携を密にして取り組むことができた。<br>・今後も中学生がふるさと秋津川を身近に感じられるような取組の機会を作っていきたい。   | ・秋津川地域では高齢化が進み、もともとある地域行事の継続が難しくなっている状況の中であるが、今後も学社融合推進協議会等で話し合いを続けながら、実施できるところは実施し、工夫が必要などところについても意味のある活動になるように取り組んでいく必要がある。   |   |        |

|  |  |
|--|--|
| <b>今年度の取組内容</b><br><b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>   |  |
| ・今年度の第一回学社融合推進協議会は、5月に実施。協議内容は以下の通りである。地域行事は通常通り実施した。<br>【議案】<br>・役員（会長・副会長）の決定及び確認<br>・令和6年度スクールプランについて（秋津川小学校・中学校）<br>・令和6年度年間計画案について ・令和6年度会計予算案について  |  |
| <b>特徴的な協働活動</b>  |  |
| ・5月21日（火）出張「減災教育」を実施。今年度は地震体験車による地震体験も行った。その後、県の防災課の方の指導も受けながら「きいちゃんの災害避難訓練2」を保護者の方にも参加していただき、ともに学習した。<br>また、10月9日（水）に広川町の稲むらの火の館に全校生徒で訪問し防災について学習を深めた。  |  |
|  |  |
| ・6月17日（月）保育所、小学校、中学校合同避難訓練を行った。地震が発生したという想定のもと、揺れがおさまるまで机の下に入り、指示が出てから運動場に避難した。保育園児たちの避難誘導も手伝った。その後煙体験を実施。消防署の方からお話を聞かせていただいた。貴重な体験だった。                  |  |
|  |  |
| ・同じく6月17日（月）町内会からの依頼を受け、秋津川地区に梅採りボランティアにいられている方々（外国人を含む）との交流会を開いた。中学生は地元の産物である「備長炭」の紹介を英語で行った。その後小中学生合同で炭琴を披露した。秋津川振興会のみなさんの協力でもみんな梅ジュースも作った。楽しい交流会になった。 |  |
|  |  |
| ・10月29日（火）県道田辺龍神線（虎ヶ峰）のボランティア清掃に参加した。当日はあいにくの天気だったが、地域の方や龍神分校の生徒たちと一緒に、県道沿いの空き缶やゴミを拾った。充実した時間になった。   |  |
|  |  |

学社融合推進協議会活動報告書 協議会名：上芳養地域学社融合推進協議会

|  |   |   |        |
|--|---|---|--------|
| 学校・園名  | 田辺市立 上芳養中学校   | 公民館名  | 上芳養公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に見守られながら学校生活を送っている。小・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、地域にある施設や事業所の方々と交流を図ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動に非常に協力的である。<br>公民館は子供対象の行事を実施したり住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。             |   |   |        |
| 目<br>標   | < 学校 ><br>○地域の自然や人とのふれあいを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。<br>○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする児童生徒を育成する。<br>○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。                                     |   |        |
|  | < 地域（公民館） ><br>○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。<br>○学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。<br>○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。   |   |        |
| <b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b>   |   | <b>支援者及び支援組織</b>  |        |
|  |   | 育友会<br>上芳養小学校育友会<br>上芳養中学校育友会<br>上芳養公民館<br>日向保育所<br>各種団体<br>・上芳養町内会<br>・交通安全協会上芳養分会<br>・上芳養消防団<br>上芳養校区協議会<br>学識経験者<br>地域の事業所・地域の先生 |        |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |   |   |        |
| <b>成果</b>  |   | <b>課題</b>   |        |
| 学校<br>・「上芳養キャラバン」を通して、自分たちの住んでいる地域の良さを意識して見つける活動を行う中で、地域の方の思いを聞くことができた。また郷土愛を育むことができた。<br>・「農業体験」を通して、自分たちで考えたレシピを実際に販売することができ、お客さんの表情を見たり感想を聞くことができた。それだけではなく、調理・接客などの社会体験もさせていただき、梅やみかんの収穫から販売の繋がりを学ぶことができた。                                       | ・地域の課題を子供たちに考えさせる機会が少なかったため、来年度は、地域の人たちの意見を聞きながら、地域の課題を考えたい。<br>・中学生自身が、地域にとってとても大きな力であることに、気づいてもらい、自分ごととして取り組ませていきたい。<br>・次年度も地域と様々な行事等で関わりを持ち、より一層連携を深め、地域貢献・地域活性化を共に考えていきたい。 |   |        |
| 公民館（地域）<br>・これまで行っていたカヌー体験教室と乗馬体験教室への参加者数が減少傾向にあることを踏まえ、新企画として7月にはアウトドア体験教室with防災を実施。また、6月に小学生・中学生の保護者、中学生を対象に行ったアンケートでの要望に応え、12月にクリスマスケーキ作り体験教室を実施したところ即日、定員を超えて20名の申込みがあり、子供たちにとって新たな学びの場となった。<br>・今年度は地域単独で防災訓練を実施し、昨年に引き続き中学生・町内会・公民館が一体となって行った。 | ・子供たちに必要な学びと子供たちが求めている学びを常に模索する必要がある。<br>・各種体験教室の講師や指導者を地域の方に担ってもらえるように引き続き人材の発掘に努める。<br>・中学生の学びにもつながり、地域にとっても活性化につながるような取組を増やしていきたい。   |   |        |

|   |  |
|---|--|
| <b>今年度の取組内容</b><br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）   |  |
| ＊第1回 定例会（令和6年7月10日）<br>・学校教育目標について<br>・今年度の活動について<br>＊第2回 定例会（令和6年12月19日）<br>・学校の取組について<br>地域の方々に関わっていただいた教育活動の成果について報告をした。<br>・来年度の活動について熟議<br>来年度の上芳養キャラバンに向けて話し合いをし、持続可能な取組にできるように組織を確立しようと検討した。<br>＊第3回 定例会（令和7年2月）<br>・活動のまとめ、次年度の取組について<br>・学校評価について  |  |
| <b>特徴的な協働活動</b>   |  |
| ○「上芳養キャラバン」を通して、梅についてより深く学習し、上芳養を全く知らない大阪の人に伝える活動を行った。その中で故郷のために何かをすることのやりがいや、故郷への誇りをより強く感じる事ができた。<br>○「農事体験学習」を通して、生徒たちは働くことの大切さ、意義についての学習ができた。特産物である梅やみかんを使ったドリンクの作製・販売に挑戦した。また、梅ワークショップでは、梅畑で梅拾い体験をさせていただいた。<br>○「職場体験学習」で地元のキャラバンサライ様、田辺消防署本部様、たなべる様、TETAU様、日向保育園様、日向屋様、マクドナルド42号田辺バイパス様、に訪問・体験協力を得られた。<br>○生徒会主催の「地域清掃活動」にも地域の方に参加いただいた。生徒の郷土愛を育む活動ができた。<br>○「ころころ山さん」読み聞かせを月1回実施していただいた。地域の読み聞かせサークルの方々の協力により、本にふれあう機会となり、読書意識が向上するきっかけとなっている。<br>○公民館主催体育行事（卓球・ファミリーバドミントン・カローリング）で、公民館・地域の方と交流し、地域・生徒・教員ともに親睦を図ることができた。<br>○「保育実習」では、日向保育所様で体験させていただいた。実習での発表のための取組の中で、子ども目線にたって考えることができ、実習の中で新たな気づきを得ることができた。<br>○「文化発表会」では、地域の方参加型のトークフォークダンスを実施し、地域の人と生徒たちがコミュニケーションをとることができた。 |  |
|   |  |

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 学校・園名   | 田辺市立中芳養中学校  | 公民館名  | 中芳養公民館  |
| 学社融合における学校・地域の様子  |   |   |   |
| <p>「地域と共にある学校 学校でつながる地域の”わ”」をテーマに、「子どもの育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めてきた。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にしたい取組を公民館と連携して進めている。</p> |   |   |   |
| 目 標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。</li> <li>幼稚園や小中学校の取り組みや行事に地域全体で協力し、子どもたちの成長を見守る意識を高める。</li> </ul>   |   |   |
|   |   |   |   |
|   | 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |   | 支援者及び支援組織   |
|   |   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中芳養公民館</li> <li>・中芳養幼稚園</li> <li>・中芳養小学校</li> <li>・JA紀南芳養谷支所</li> <li>・中芳養地区老人会「芳寿会」</li> <li>・中芳養町内会</li> <li>・中芳養地区消防団</li> </ul> |
|   | <p>成果と課題（学校・公民館からの視点）</p>   |   |   |
|   | 成果  | 課題  |   |
| 学校  | <p>公民館主催の「中芳養夏祭り」（8月）、「敬老祝賀会」（9月）、「中芳養合同作品展」（12月）に参加し、地域の方々に学校や生徒たちの活動の様子を知っていただくとともに、生徒の郷土愛を育むことができた。また、「中芳養夏祭り」に向けて「敬老会」の方々に中学生が盆踊りを教えてもらった。</p> <p>1年生が「梅プロジェクト」と称するキャリア教育体験活動を行い、地元の企業や高校と連携をはかった。2年生は「職場体験学習」を行い、市内の事業所で体験活動を行った。3年生は、「つながるプロジェクト」を企画・運営し、地域の方々との交流の機会をもつことができた。</p> | <p>多様な活動が広く深い学びにつながっている反面、取組の時間が増加しているため、内容の見直し及び精選が必要である。地域や住民のニーズにどのように応えていくか、学校としてどのようにかかわっていくか検討を続けていく必要がある。</p> <p>今後も、幼稚園・小学校・中学校・公民館・町内会の連携を進め、地域と共にある学校としての在り方を探っていきたい。</p> |   |
| 公民館（地域）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（幼稚園、小学校、中学校、各PTA）と地域（町内会、芳寿会、消防団、JA等）で実行委員会を組織し、地域全体の行事として中芳養夏まつりを実施し、親と子、子と子のふれあいの場となった。また、地域の方から中芳養の伝統ある盆踊りを教えていただき生徒たちの郷土愛を深めることができた。</li> <li>・敬老祝賀会においては、中学校の協力のおかげで生徒による発表が行われ、生徒たちと一緒に長寿をお祝いすることができた。</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに必要な学びと子どもたちが求めている学びを常に模索する必要がある。</li> <li>・各種体験教室の講師や指導者を地域の方に担ってもらえるように引き続き人材の発掘に努める。</li> </ul>                                     |   |

### 今年度の取組内容

#### 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

中芳養中3年生が実施したワールドカフェでつながった輪をもっと広げる活動ができればと、中芳養学社融合推進協議会とともに「Happy Smile シール」を創った。シールの配布活動を通して、一人一人がももちゃんになって、みんなに笑顔の輪が広がり、みんなの幸せにつながっていければと考えている。

四つ葉のクローバーの妖精「ももちゃん」は、街中のピンク言葉（前向きになる言葉）を「ハートさん」にぎゅっと詰め込みます。そして、相棒の「ぴいさん」に届けてもらいます。

---

#### 特徴的な協働活動

##### 1年生『梅UMEプロジェクト』

- ①JA紀南様のご指導のもと、「中芳養の梅産業」について学び、校内の梅を収穫した。
- ②南部高校様のご協力のもと、梅ジャム作りを行った。また、梅ジャムに合うスイーツ（ブロンディ・チーズタルト）作りも行った。
- ③南紀みらい様に「利益や売り上げの伸ばし方」を教えていただいた。
- ④各メディアのご支援で、梅ジャム販売に向けての広報活動を行った。
- ⑤田辺駅前tanabe en+様で、梅ジャムとスイーツの販売をし、国内外の多くの方に来ていただいた。
- ⑥中芳養祭において、取組の様子を地域に向けて発信した。

本年度、様々な方々のご協力のもと活動を充実させることができ、子どもたちは地域の方々とのつながりや温かさを感じることができた。また、商品作りから販売までの活動を通して、子どもたちに多くの興味・関心を生むことができた。

##### 2年生『職場体験学習』

事前学習として、ゲストティーチャーをお招きしてビジネスマナーや働くことの意義について学んだ。体験学習では、5年ぶりに地域の事業所で体験学習を行った。生徒たちは9つの事業所で、それぞれ貴重な経験をすることができた。

##### 3年生『つながるプロジェクト』

「みんなが幸せに生きるために、つながりをうみたい！」そう考えた3年生がワールドカフェを開催した。ワールドカフェには年齢の異なる25名の方々に参加していただき、「笑顔を増やすためにできること」をテーマに、カフェのような雰囲気でも自由に対話を行った。「笑顔を増やすための活動」について話し合った際には、「幸せをお裾分けし合うことが大切」、「幸せを伝え合うインフルエンサーになろう」などの提案があった。3年生たちは、多くの方々との対話を楽しみ、終了後は笑顔があふれていた。

#### チラシ

「すべての人の幸せを願う ワールドカフェ」  
**繋がる心の糸 at 中芳養中学校**

「みんなが幸せに生きるために、つながりをうみたい！」そう考えた中芳養中学校3年生が、ワールドカフェを開催します。カフェのような雰囲気、気軽にしゃべりましょうよ！（詳しくは、裏面をご覧ください）

ワールドカフェ テーマ **笑顔を増やすためにできること**

開催日 令和6年9月25日(水)

開催時間 13:45～16:00(受付13:30～)

参加費 高校生以上 無料 | 20名程度

会場 中芳養中学校 3年生教室(2階)

アクセス ↓

申し込みはこちら ↓

お問い合わせは、中芳養中学校までお願いします。お電話の際はワールドカフェのこととおっしゃってください。(0739-22-3875 担当:田中・川口・坂本)

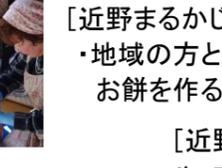
|  |  |   |       |
|--|--|---|-------|
| 学校・園名  | 田辺市立 龍神中学校   | 公民館名  | 龍神公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b>  |  |   |       |
| <p>校区が旧龍神村全体である本校は、3台のスクールバスを所有し、全校生徒の約55%がバス通学している。校区は広大であるが、各行事等への保護者の出席率は常に高い。地域も学校の教育活動に対して協力的である。</p> <p>学校は、地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）から外部講師を招聘した授業を積極的に実施したり、生徒が地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）での現地学習を設定するなどし、人とのつながりを大切にする教育活動に取り組んでいる。</p> |  |   |       |
| 目<br>標   | <p>①学校が教育活動等の情報を積極的に地域に提供し、地域の学校への関心を高め、地域から支援や協力が得られるように努める。</p> <p>②PTA、公民館等と協力して、学校・家庭・地域のそれぞれが果たす役割について考え、地域全体の教育力を高める活動の推進に努める。</p> <p>③体験活動の実施、外部講師を招聘する授業の実施等、地域の教育力を積極的に活用することにより、生徒の知識や技能を高め、さらに生徒の道徳性や社会性を高めていく。</p>   |   |       |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |  | 支援者及び支援組織   |       |
| <pre> graph TD     A[龍神中学校学社融合推進協議会<br/>(委員6名)] --&gt; B[地域]     A --&gt; C[公民館]     A --&gt; D[各小学校]     A --&gt; E[PTA]     B --&gt; F[学校運営・教育活動]     C --&gt; F     D --&gt; F     E --&gt; F             </pre>            |  | <p>学社融合推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○龍神中学校PTA</li> <li>○龍神公民館・各分館</li> <li>○学校支援者</li> </ul> <p>その他の関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○田辺市社会福祉協議会</li> <li>○龍神行政局</li> <li>○NPO「みらい龍神」</li> </ul>                     |       |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |  |   |       |
| 成果   |  | 課題  |       |
| 学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が、地域の清掃活動やリサイクル活動に取り組むことによって、達成感を感じることができ、自己有用感を高めることができた。また、地域での教育活動に対し、保護者や地域の方々から多大な協力を得ることができた。</li> <li>・生徒の学びの場を校区や広域な地域で展開することによって、実体験を通じて、知識を活用しながら学ぶことができた。また、外部講師を授業に招聘することにより、多様な考えにふれることで、生徒の「考える力」が深まった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々やたくさんの人々と交流する機会を増やして、生徒の自尊感情を高めていきたい。</li> <li>・地域の活動に参加することでふるさとへの郷土愛を深めながら、ふるさとの未来について考える生徒を育てていきたい。</li> <li>・生徒数の減少、保護者数の減少、地域の世帯数の減少の中で、未来につながる持続可能な取組を工夫していきたい。</li> </ul>                           |       |
| 公民館（地域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所清掃、年3回の古紙古着回収、「田んぼアート」への協力などの継続的な学社融合活動が、地域の交流の場となり、地域の活性化にも繋がっている。</li> <li>・龍神地区人権学習会実行委員会と合同で、3年生と地域住民が、視覚障害について学習を実施した。地域の方と生徒が座学と体験を通じて視覚障害を学び、また、交流することができた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学社融合の取組を継続的に実施してきたが、地域の人口減少と高齢化が進み、協力してくれる地域住民が減少している。内容や仕組みを現状に合わせて柔軟に変更し、持続可能な取組にしていきたい。</li> <li>・生徒数が減少し、生徒のいない地区（保護者のいない地区）が徐々に増えている。それに伴い、学校と地域の関係性が希薄になっていくことが予想されるため、状況に応じた学社融合の取組を実施していきたい。</li> </ul> |       |

|   |  |
|---|--|
| <b>今年度の取組内容</b>   |  |
| <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>   |  |
| <p>①保護者・地域の願いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎生徒の学力の向上</li> <li>◎生徒の「豊かな心」と「健やかな体」の育成</li> <li>◎部活動の取組の充実</li> <li>◎生徒にとって楽しい学校生活の実現</li> </ul> <p>②生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎素直で真面目な生徒</li> <li>◎授業、学校行事、部活動等に意欲的に取り組む</li> <li>◎他人を思いやることができる</li> <li>◎SNS等を利用する時間が長い</li> </ul> <p>③学社融合の活動を通してどんな生徒を育てていくか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ふるさとに誇りを持ちながら、時代に沿ってたくましく生きる生徒</li> </ul> <p>④「めざす生徒像」を実現するための取組をどう進めていくか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎生徒が地域に出て、地域の住民とともに活動を持続していく</li> <li>◎生徒の自己肯定感、自己有用感を高めることにつながる取組を行う</li> </ul> |  |
| <b>特徴的な協働活動</b>   |  |
| <p>【「豊かな人間性」を育むための取組】</p> <p>(1)「田んぼアート」への協力</p> <p>◎『田んぼアート』は、龍神地域の9団体(田辺市龍神行政局産業建設課他8団体)によって構成している『田んぼアート実行委員会』が取り組んでいる活動です。本校もその構成団体の一つです。『田んぼアート実行委員会』会則の目的に、「この会は、龍神村安井地内において田んぼアートを実施し、龍神村の観光振興、地域振興に寄与することを目的とする。」と記されています。本年度は、1年生が5月30日(木)に水路作り、6月11日(火)に田植えを行いました。また、7月2日(火)に2年生が、8月1日(木)に3年生が草取りを行いました、2年生は稲刈りを10月8日(火)に行いました。</p> <p>◎収穫した田んぼアート米は、給食や1年生は「ごはん作り」、2年生は「おにぎり作り」、3年生は「弁当作り」で活用させていただきました。今年は例年よりも多い約330kgのお米をいただきました。</p>   |  |
|   |  |
| <p>(2)古紙古着回収</p> <p>◎校区の全世帯(約1430戸)に案内を配布し、年3回6月、10月、2月(日曜日)に実施しています。1年間の回収量は約160tです。回収で得た収益は、各学年の宿泊体験活動の費用に使っています。</p> <p>◎古紙古着回収は、昭和52年、旧下山路中学校から始まりました。その後、多くの地域の方々にご協力いただきながら、旧龍神村の全ての中学校で実施されるようになりました。</p> <p>平成19年、龍神地域の3校が統合してできた龍神中学校も、学校と保護者、生徒が協力してこの取組を継続していて、龍神地域の古紙古着回収は、48年目を迎えています。</p>   |  |
|   |  |
| <p>(3)3年宿泊体験活動(沖繩修学旅行)</p> <p>◎【生徒感想文より】</p> <p>僕は、今日の学習で改めて戦争の悲惨さについて知りました。特に印象に残ったことは、アブチラガマの中で聞いた話です。僕と同じくらいの年の人が、負傷者の切った手や足を普通に運んで、ゴミを捨てるかのように捨てると聞きました。僕は慣れは怖いと思いました。また、ガマの中は、戦時は懐中電灯もなく、異臭が漂う中で、何ヶ月も過ごしていました。僕は、1日でもいられる気がしなかったため、戦時の人達がどれだけつらかったのか、少しだけ分かりました。</p>   |  |
|   |  |

|  |   |   |                           |
|--|---|---|---------------------------|
| 学校・園名  | 田辺市立中辺路中学校  | 公民館名  | 中辺路公民館・栗栖川下分館・栗栖川上分館・二川分館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>中辺路地域学社融合推進協議会では、学校と保護者・地域の三者が、より発展的な関わりや、結びつきが強まるような行事や取組が行えるよう協議を重ねている。少子化が懸念される将来の小中学校の在り方についても考えている。本校の生徒数は少人数であるが、保護者や地域の方々の協力により、温かく見守られて学校生活を過ごしている。学校においては、地域の方々の積極的な交流ができなかった3年間を乗り越え、活動可能な範囲を広げ、以前行っていた活動を再開させ、地域の皆様に協力してもらえようとする行事を行っていかようとしている。 |   |   |                           |
| 目 標  | 学校・園・地域<br>・家庭、地域の持つ教育力を積極的に取り入れ、地域の施設や環境などを教育活動に生かすことを大切にしたい取組をめざす。<br>・自然や地域の人とのふれあいを大切にし、生徒自身に地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。<br>・地域行事やボランティア活動に積極的に関わる生徒を育成する。                      |   |                           |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |   | 支援者及び支援組織   |                           |
| 田辺市学社融合推進協議会規則に基づき設置<br>学社融合推進協議会<br>事務局：教頭<br>学習支援・行事      環境・安全  |   | ・田辺市中辺路町 社会福祉協議会<br>・熊野の森ネットワーク<br>・いちいがしの会<br>・JA紀南<br>・中辺路生活研究グループ<br>・中辺路町観光協会<br>・田辺消防署中辺路分署 栗栖川分団、二川分団   |                           |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）   |   |   |                           |
|  | 成果  | 課題  |                           |
| 学校   | ・地域の方々の教育力を生かし、様々な行事や活動を行った。本年度も学校と地域が良好な関係を築けているので、種々の取組を通して地域との連携を深め、地域の方々の学校教育や生徒に対する理解や関心を高めることができた。<br>・地域の方々によるゲストティーチャーと関わることやICTを活用することで、学校では経験できない社会性が育まれ、コミュニケーション能力の向上に繋がった。 | ・体育祭や文化発表会などの学校行事に地域の方々を案内、参加を呼びかけたが、学社融合推進協議会の方々にもっと積極的に参加してもらえよう取組が必要だったと考える。<br>・生徒も清姫まつりなどの地域の行事にも参加し、地域との交流を深めることができたが、もう少し増やしていても良いのではないかと考える。<br>・学社融合推進協議会が主となり運営するような活動があっても良いと思う。 |                           |
| 公民館（地域）  | ・花いっぱい運動により、地域の方々のふれあいの機会が広がった。地域の高齢者も喜んでいる。<br>・地域の方は小中学生との交流をこころまにしているようで、両者にとって良い活動となっている。   | ・公民館として、学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ち、積極的に参加してもらえようサポートしていきたい。<br>・花いっぱい運動以外にも、地域の各自治会や社会福祉協議会等との活動を通じて、老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。<br>・地域交流の行事や取組の充実を目指し、発展させていく。                               |                           |

|  |  |
|--|--|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）   |  |
| <b>【夏の整備作業】</b><br>昨年度から再開した整備作業だが、今年度も予定通り実施した。協議では、作業内容や参加体制の確認等を行い、推進協議会会長、小中育友会会長と協議し、調整を図った。また、中辺路小学校との合同開催だったが、今年度は開始時刻をずらして行った。弟妹のいる家庭では、両方に参加し大変だったという意見もあったが、両方に参加できて良かったと言われる保護者もいた。また、中学校は開始時刻を少し早めたので、作業時の暑さは以前と比べると少しは改善された部分もあるが、やはり暑さは年々厳しくなっている。実施時期については、8月の後半は家庭での行事を予定することも多いので、今年度は8月初旬に行うこととした。昨年反省にもあったが、予備日の設定については、いろんな人の負担を考えるとない方が良いとの意見があったので、警報発令時以外は実施し、作業可能な場所の整備を行うこととした。実施時期を暑さの厳しい夏にするのか、体育祭前の暑くない春にするのか、どちらが良いのか育友会でもかなり検討を重ねたが、草木の伸びる夏が良いということになった。しかし、熱中症のことを考えると再度検討しなければならないと考える。電動機械や大型トラックなど家庭や地域から持ち寄っていただけなので、大変効率的に作業が行えたのが有り難かった。消防団や卒業生の親など地域の方々による作業、運搬・廃棄など多くの関係者に支えられて実施できた。 |  |
| 特徴的な協働活動   |  |
| <b>【花いっぱい運動】</b><br>今年も花いっぱい運動に取り組みました。中辺路町を花いっぱいの町にしようという取組で、1つ1つ種から植えて育て、大きくなった苗を牛乳パックを再利用したポットに植え替え、公民館と福祉センターに置かせてもらい、持って帰っていただきました。生徒は、たてわり班の8班に分かれて、ひまわり・マリーゴールド・ペチュニア・ほうせんか・ネモフィラ・コスモス・ゴデチアの7種類の種を植えました。<br>4月22日の種植えから始まり、5月31日のポットへの移植まで全校生徒で世話を続けてきました。学校だよりや公民館だよりでの広報のおかげで、今年は例年以上に好評でした。また、苗の横に置いてあった感想用紙には、たくさんの方からメッセージが書かれていました。生徒はそれを見て、「みなさんの役に立っている」「地域と繋がりが持てている」と感じ、大変喜んでいました。いつもお世話になっている中辺路町内の12の事業所等に直接苗を持参しました。みなさん快く受け取っていただき、大切に育てていただけると話してくれました。生徒は、中辺路町が花いっぱいになる手助けが少しでもできたと充実感に溢れていました。   |  |
|   |  |
| <b>【清姫まつり】</b><br>7月27日（土）、今年も清姫まつりが開催され、全校生徒で参加し、「なかちゅうソーラン」を演舞しました。5月の体育祭で演舞してから練習を重ね、暑い中の1学期末を乗り越え、当日を迎えました。今年は、全員が舞台上に上がりました。フォーメーションに変化を加え、みんな全力で演舞しました。体育祭の時よりパワーアップしていました。演舞後のインタビューでは、司会者のフリにしっかりと応えることができていました。中辺路の地域の一員として、地域貢献が実感できる機会を与えていただき、中学生も喜んでいました。   |  |
| <b>【森林ボランティア】</b><br>10月25日、森林ボランティア活動で、「牛馬童子」から「近露王子」「継桜王子」までの熊野古道を歩き、どんぐりを集めました。それを植えて苗木まで成長させます。その後伐採され更地になった場所に植樹されます。次世代に森を繋ぐ活動として責任と誇りを感じます。   |  |
|   |  |

|  |  |  |   |
|--|--|--|---|
| 学校・園名  | 田辺市立近野中学校  | 公民館名   | 中辺路公民館近野分館  |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>創立より地域との絆を密に紡いできた本校は、学校と地域が一体となって取り組む行事が多く、中学校も実行委員会に入りその運営の一翼を担い、生徒・職員ともに主体的に参加してきた。近野区民体育祭、米作り、職場体験学習、近野まるかじり体験、近野フェスティバル・文化祭、アメリカンファミリー交流と多くの行事を通じて地域と共に生徒達を成長させてきた。 |  |  |   |
| 目 標  | 学校を含め地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、地域福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。<br>(学校)・地域での活動を通して地域を知る。・共同作業を通して、協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切に、尊敬する気持ちを育てる。・地域の一員として地域のイベントに参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。<br>(地域)・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。 |  |   |
| <b>校(園)区の推進組織(組織体制図)</b><br>   |  | <b>支援者及び支援組織</b><br>・地域の方20名<br>・まるかじり体験実行委員会<br>・学社融合推進協議会<br>・関西近野会<br>・JA女性会<br>・近野振興会<br>・中辺路観光協会<br>・中辺路町森林組合<br>・公民館近野分館<br>・奥ジャパン株式会社の皆様方 |   |
| <b>成果と課題(学校・公民館からの視点)</b>  |  |  |   |
|  | <b>成果</b>  |  | <b>課題</b>   |
| 学校   | ・米作りを箱苗作りから収穫までを行い勤労の尊さを学ばせることができた。<br>・地域の秋のお祭り「近野まるかじり体験」で餅つきを行い、地域の活性化に貢献することができた。また、日本の食文化の学習もすることができた。<br>・地域の方との交流が深まり、感謝の気持ちや先人を敬う気持ちが育った。また、多くの共同作業に取り組む中で、協調性や思いやりの気持ちが育った。<br>・集団としてのまとまりが育ち、学校行事等でもその力が発揮された。   |  | ・天候に作用されることが多く、予定通りに実施できないことがある。<br>・生徒数、職員数が少ない中、今のままでの実施は難しくなっている。行事の精選や中身の検討が必要になっている。<br>・他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりを持ってできるようにしたい。<br>・地域の伝統に学び、地域の活動に今後とも継続して関わってほしい。 |
| 公民館(地域)  | ・地域住民の皆さんの協力により、校区内の休耕田を借用して、米作り体験を行った。「区民体育祭」「近野まるかじり体験」「近野フェスティバル・文化祭」などに、地域一体となって取り組んでいる。こうした取組により、地域の方々と生徒たちが交流を深めることができています。  |  | ・生徒数が少なくなっている中、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている。  |

|  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| <b>今年度の取組内容</b><br><b>会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)</b>   |   |   |   |
| <b>地域の実行委員会の内容を含む</b><br>(1学期)・新年度の体制とスクールプランについて<br>・春と夏の草刈りボランティアについて<br>・近野区民体育祭に向けて<br>・8月の清掃活動について<br>(2学期)・近野まるかじり体験について<br>①会計及び予算案<br>②おもてなしについて<br>③中学校の餡入りヨモギ餅作りについて<br>④各種届け出について<br>⑤チラシについて<br>⑥地域ボランティア(かまどと蒸し器の番、餅つき作業、餅取り作業)<br>・近野フェスティバル・文化祭について |   |   |   |
| ※生徒達の笑顔と成長のため、近野地域の皆様方から常に最大限の支援を賜ることができ、学校関係者として大きな喜びを感じる日々を過ごしている。   |   |   |   |
| <b>特徴的な協働活動</b>  |   |   |   |
| ○よもぎ餅作り(箱苗作りから近野フェスティバルでの餅つき体験まで)<br>・4月 よもぎ摘み、よもぎ処理 箱苗づくり ・5月 田植え<br>・7月 雑草取り、ガス抜き ・10月 稲刈り<br>米づくりを箱苗づくりから稲刈りまでの農作業を体験し、米作りの一連の作業を体験することができた。餅つき体験をすることで、生産活動の大切さを学び、収穫の喜びを味わう事ができた。   |   |   |   |
|    |   |   |   |
| [よもぎ摘み]  | [箱苗づくり]   | [田植え]   | [稲刈り]   |
|   |  |  |  |
| [雑草取り]   | [稲刈り]   |   |   |
| ○地域と一体になっての行事<br>・6月 「近野区民体育祭」 ・11月 「近野まるかじり体験」、<br>「近野フェスティバル・文化祭」<br>地域の方のご協力があったからこそ色々な活動ができています。今後も地域の中で育つ近野中学生として位置づけ、地域から多くのことを学び、地域に感謝の気持ちを伝える活動を目指したい。   |   |   |   |
|   |  |  |  |
| [近野区民体育祭]  | [近野まるかじり体験]   | [近野フェスティバル・文化祭]   | [近野フェスティバル・文化祭]   |
| ・左上は地域の方参加の「木こり競争」。地域のお仕事の一つである林業が競技になった種目<br>・右上は小、中学生が力を合わせて競技している様子   | ・地域の方と生徒と一緒にお餅を作る様子   | ・地域のコーラス隊「sing company」による合唱  |   |

学社融合推進協議会活動報告書 協議会名：大塔地域学社融合推進協議会

|  |  |  |       |
|--|--|--|-------|
| 学校・園名  | 田辺市立大塔中学校  | 公民館名   | 大塔公民館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景もあり、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、PTA活動や学校行事への参加は積極的である。しかし一方では、共働きや一人親家庭の増加に伴い、平日行われる参観日等の出席率は低い傾向にある。また、昼間はほとんどの成人が旧田辺市など近郊に働きに出るため、大きな災害が発生した時など、地域で活動できる人材が特に不足することも想定できる。                     |  |  |       |
| 目 標  | 学校・園・地域<br>○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。<br>○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。<br>○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。<br>○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。                                      |  |       |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |  | 支援者及び支援組織  |       |
|   |  | ○大塔公民館、各分館<br>○田辺市自治会連絡協議会大塔支部<br>○大塔女性会<br>○大塔老人クラブ<br>○社会教育委員会<br>○子どもクラブ<br>○放課後ふれあいスクール<br>○民生児童委員<br>○田辺市保護司会大塔支部<br>○社会福祉協議会<br>○田辺市消防署大塔分署<br>○青少年健全育成市民会議<br>○大塔地区協議会<br>○地球元気村実行委員会<br>○あゆかわ保育園 |       |
| <b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>  |  |  |       |
| <b>成果</b><br>・保育園との合同避難訓練を実施した。園児の避難に中学生がサポートする取組を行った。また、新しい取組として休日防災訓練を実施した。<br>・図書ボランティアさんと共同で図書研で本校の取組の発表ができた。<br>・すぐるを活用し、学校行事の参観を大塔OSに呼びかけた。その結果、地域の方に学校行事の際に足を運んでいただき、校内の様子を参観してもらうことができた。<br>・ふれあいスクールボランティアに参加し、地域の方と共に、小学生のサポート活動を行うことができた。 |  | <b>課題</b><br>・休日防災訓練は今年度が初めてで、参加の申し込み方法など改善点があった。また、アトラクション的な催しなども組み込み1人でも多くの方に参加してもらえるよう到来年度は考えていきたい。<br>・新しい図書の紹介やビブリオバトルの取組をして読書の向上を図ったが、図書室利用者が若干ではあるが減少してしまった。生徒が気兼ねなく利用できる環境の工夫を考えていく必要がある。        |       |
| 学校   | ○図書ボランティアさんと共同で図書研で本校の取組の発表ができた。<br>・すぐるを活用し、学校行事の参観を大塔OSに呼びかけた。その結果、地域の方に学校行事の際に足を運んでいただき、校内の様子を参観してもらうことができた。<br>・ふれあいスクールボランティアに参加し、地域の方と共に、小学生のサポート活動を行うことができた。  |  |       |
| 公民館（地域）  | ○図書ボランティアや、朝のあいさつ運動、地域学習のサポート、各種公民館事業を通して、生徒と地域の方々との交流をより深めることができた。<br>○大塔リフレッシュ大作戦などに加え、小学生対象の放課後等子ども教室推進事業に、中学生がボランティアとして協力することにより、中学生と小学生、また中学生と地域の方との交流を深めることができた。<br>○コミュニティスクールだより、公民館だよりの発行等、地域学習の支援などを通して、児童生徒に様々な学習支援を行うことができた。 |  |       |

|  |  |
|--|--|
| <b>今年度の取組内容</b><br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |  |
| ○地球元気村への参加<br>・中学生の出来ることを考える<br>各学年で考え、ブースを出す。<br>1年生 カフェ 保育<br>2年生 緑日ゲーム、ジュース販売<br>3年生 お化け屋敷 など         |  |
| ○リフレッシュ大作戦のあり方について<br>・各地域で判断し、安全面の確保に努める。<br>・小学生を中学生で挟み事故予防に努める。<br>・分別収集の方法の確認。最終分別は教育事務所で代表者が集まって行う。 |  |
| ★トークフォークダンスの企画・運営について<br>・地域の方と中学生が交流する。<br>・立場の異なる参加者同士が1対1になって、お題について話し合う。<br>・1分ごとに交代しながら、お題について話し合う。 |  |
| <b>特徴的な協働活動</b>  |  |
| 地球元気村参加に向けた取組の様子<br>全校生徒が集まり、今年度の参加の仕方について話し合いました。   |   |
| 2年生はジュースの販売と緑日ゲームの運営に頑張りました。完売しました。  |   |
| 3年生のお化け屋敷はリアルすぎて悲鳴が聞こえることもありました。大人気で長蛇の列ができました。  | <br> |

**学社融合推進協議会活動報告書** 協議会名：本宮地域学社融合推進協議会

|   |  |   |                            |
|---|--|---|----------------------------|
| 学校・園名   | 田辺市立本宮中学校  | 公民館名  | 本宮公民館・本宮分館・三里分館・四村川分館・清川分館 |
| <b>学社融合における学校・地域の様子</b><br>共育コミュニティといわれる以前から、本宮独自の地域連携教育を行っており、本宮地域学社融合推進協議会は、小学校2校、中学校1校と家庭、地域が一体となって連携・協働を行い、交流を進めている。<br>また、本宮行政局ロビーに各校の学社融合の活動内容を掲示し、地域の方に取組の広報活動を実施している。 |  |   |                            |
| 目 標   | 学校・園・地域<br>本宮地域学社融合推進協議会発足前より、本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続き実施していく。<br>また、地域を知ることが目的に歴史、産業などを学校支援者・支援組織の皆様の協力を得ながら学びの機会を創出していく。<br>本年度は学社融合推進協議会の定例会で、「めざす子供の姿、具体的取組について」をテーマに協議した上で取組を進めていくこととした。 |   |                            |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |  | 支援者及び支援組織   |                            |
|   |  | 育友会<br>熊野本宮語り部の会<br>田辺市女性会連絡協議会本宮支部<br>本宮町自治会連絡協議会<br>学校ボランティア<br>世界遺産熊野本宮館<br>熊野本宮伝統芸能教室<br>公民館サークル<br>学校クラブ活動協力者<br>和歌山県世界遺産センター  |                            |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）  |  |   |                            |
| 成果  |  | 課題  |                            |
| 学校  | ・今年度も学社融合の取組を実施することが出来た。防災学習では避難所運営のシミュレーションを地域の方と共に行ったり、道普請では世界遺産センターから意義・目的を話して頂いたりした。話を聞くことによって、取組が継続している意味について考えることが出来た。本宮語り部の会の方と一緒に古道の修繕を行った。様々な場面で地域、行政局、保護者の方々のご支援とご協力で取組が継続出来ていることを実感できた。                                       | ・今後、生徒数の減少が見込まれており、継続可能な取組と継続困難になってくる取組が考えられる。どのように、今後精査していくかが課題である。長期的な展望を持ちながら、考えていく必要がある。<br>・生徒に活動の意義・目的を理解させながら、主体的に活動できるようにしていきたい。  |                            |
| 公民館（地域）   | ・運動会や秋祭りなど学校行事や公民館行事を共に協力し合いながら実施し、地域住民との交流の場となった。<br>・公民館主催の「文化作品展」に児童・生徒の作品を出展し多くの人に来場いただいた。<br>・学校の体験授業やクラブに地域の団体や地域の人を支援者として紹介し、それにより支援者も指導する喜びや生きがいを感じられる機会となった。  | ・加速的に進む人口減少と高齢化の中、新しい学習パートナーの発掘に苦慮している状況にある。今後も学社融合活動についての趣旨や活動をコミュニティ通信や公民館報などで地域住民に情報を発信し、興味を持ってもらえるよう努めていきたい。<br>・子供たちが生まれ育った地域を知り、理解する学習について地域住民に協力を頂いているが、この学びを故郷の魅力発信とし、故郷に誇りを持てるよう、今後もその活動を支援していきたい。 |                            |

|   |  |
|---|--|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |  |
| ○本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年2回開催とする。<br>・第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。<br>承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。<br><各校独自の取組>・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力 等<br><地域独自の取組>・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等<br>・今年度は、第1回目の定例会において「本宮の子供・地域の強みと弱み」について意見を出し合い交流した。その話し合いを通して、「学校と学校」、「学校と地域」とのつながりをより一層深めていけるように支援していくことを確認した。また、学社融合の活動を通じて、地域の方々の活動内容やその活動に対する思いを理解したり一緒に活動したりすることで、子供たちの本宮を誇りに想う、「本宮プライド」を高めることをめざしていくことを共有した。<br>・委員からの意見<br>「各校の学社融合に係る取組や事前の紹介は、地域の方に取組を知ってもらうよい機会になるため、今年度も行政局ロビーに年間を通して掲示する。」<br>○12月には臨時の学社融合推進協議会を開き、本宮中学校における部活動の地域移行の在り方について協議した。 |  |
| 特徴的な協働活動  |  |
| ★道普請（12月4日）熊野古道の道普請に携わり、地域を知り郷土愛の気持ちを育むために、全校生徒でこの取組を行っています。今年度は2トンの土を、小袋に詰めて山道をのぼり、古道の修繕のために生徒達は何往復もして土を運びました。また、観光客のみなさんが歩きやすい道にするために土を押し固める作業を行いました。地域に貢献しているという実感を持てる取組です。  |  |
| ★古紙回収（夏と冬の1回ずつ実施）・プランター回収、土作り、花植え・プランター配布作業<br>古紙回収は地域の方や保護者の協力によってたくさん古紙を集める取組です。プランター回収から配布までの一連の作業は地域の環境美化活動の一環として行っています。約100個のプランターを地域の方の軽トラックに積み、回収・配布を行っています。プランターの土を肥料と混ぜて新しい土に生まれ変わらせる土作りの作業、パンジーの花植えの作業なども地域の方とボランティアの方と一緒に取り組んでいます。   |  |
| 成果 学社融合の活動は、生徒が地域のことを知ることのできる貴重な機会となっており、地域の方に支えられてこの本宮で成長していることを実感できる良い機会となっている。また自分達のふるさとを再認識できる大切な活動である。   |  |

|  |   |   |       |
|--|---|---|-------|
| 学校・園名  | 田辺市立三栖幼稚園   | 公民館名  | 三栖公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子   |   |   |       |
| <p>三栖地域は、新興住宅地として他地域からの転入家庭が増え、本園の保護者も地域に知り合いが少なく、保護者同士や保護者と地域とのかかわりも薄くなってきている。本園では継続的に「人とかわり育ち合う」を研究主題として、友だちや地域の方とかわり育ち合う保育を進めている。そうすることで、「自分が好き」「友だちが好き」「地域が好き」な子どもに育ちつつある。</p> |   |   |       |
| 目<br>標   | <p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学生、中学生、及び地域の方々とかかわる事で、お互いが育ち合う喜びや楽しさを味わう。</li> <li>園児同士が、日々温かい関係をつくれるよう保護者や地域の協力を得られる園経営を目指していく。</li> <li>地域と連携を図り、地域の方に幼稚園の様子を知ってもらうことで、地域ぐるみで子どもを見守っていく意識を高める。</li> <li>幼小連携を図り、地域の幼稚園としての特色を生かしていく。</li> </ul>  |   |       |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |   | 支援者及び支援組織   |       |
| 学社融合推進協議会  | 三栖幼稚園   | 三栖小学校   | 三栖公民館 |
| 会長（公民館長）   | 副会長（町内会長）   | 委員  | 事務局   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>地域関係者</li> <li>保護者</li> <li>校園長</li> </ul>  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>公民館主事</li> <li>小学校教頭</li> <li>小学校学社融合担当職員</li> </ul>   |       |
| 保護者<br>三栖公民館<br>三栖小学校<br>衣笠中学校   |   |   |       |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）   |   |   |       |
| 成果   |   | 課題  |       |
| 学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>防災教育として、今年度は三栖地域の避難訓練と合わせて幼稚園から中学校への避難訓練を実施することにし、地域全体の一人として防災意識を高めることができた。</li> <li>七夕飾りの提供や防火パレードを継続的に行っていくことで、地域の方が楽しみに待っていてくれるという嬉しい言葉をいただいた。</li> <li>三栖小学校の1年生や2年生との交流などを通し、幼小連携を図ることができた。</li> <li>衣笠中学校2年生の職場体験・合同避難訓練などによる交流を実施し、人間関係構築の良い機会とすることができた。</li> <li>お便り以外にも公民館への作品展示や文化展での舞台発表などで、園児の様子を知って頂く良い機会となった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>園児の減少が大きな課題であるが、少しでも多くの方に園の良さを知ってもらう努力をしていきたい。</li> <li>小学生・中学生と園児の触れ合いについて、今後も内容を精査しながら連携を図っていきたい。</li> <li>衣笠山登山や防災パレード、七夕の笹飾りのプレゼントなど、地域の方とかかわることは、地域を知り地域の方の思いにもふれる機会となると考えており、できることを企画し実施していきたい。</li> <li>公民館行事のひとつである文化展の舞台発表をすることで、園児の様子を地域の方に知って頂く良い機会となった。今後も可能な限り参加していきたい。</li> <li>地域との連携を図る際に、今までの年間行事等を見直し、継続していくことが可能なことや負担感にならないようにすることなど気を付けていく必要がある。</li> </ul> | 公民館   |
| 公民館（地域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>公民館と幼稚園の共同行事である衣笠山登山を実施することができ、文化委員さんとともに山歩きをし、郷土のすばらしさを感じることができた。</li> <li>継続している三栖公民館ロビーでの月替わり展示での作品展示や、行事による主事の園訪問、公民館行事の文化展にて園児による発表などを通じて、幼稚園の活動を地域の方にもより知ってもらえた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>公民館関係者の高齢化は変わらずであるが、園との交流を続けていきたい。</li> <li>園児たちにとって、より多くの地域の方と接する機会を増やすことは可能かどうか考えたい。また、高齢の方に限らず、園児たちと関わりたいと思っている地域の方あるいは団体があるという印象を受ける事が増えてきたため、過去の活動報告での課題としてきた、機会づくりに生かしていきたい。</li> </ul>  |       |

|   |
|---|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |
| <p>今年度も継続してできる交流を続けようと、以下の活動を話し合い確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA三栖支所との交流</li> <li>・JA三栖支所の職員と公民館主事の協力により、地域の産業である梅取り体験や親子サツマイモの植え付け等、地域の教育力を活かして継続的に実施する。</li> <li>・防火パレード</li> </ul> <p>防火パレードでは、地域の方とふれあうことで、園児たちの地域への意識を高めることができる。自主的に覚えた誓いの言葉を地域の方に聞いていただき、達成感を感じることができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校との交流</li> </ul> <p>幼小中で、それぞれ子どもたちの交流が大切である事をまず教師が認識し、今後も何かしらの交流を継続することで三栖地域の子どもの育てる意識を高める。幼小連携についても懇談会や交流会、授業参観や授業への参加、探検等の取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた園づくり</li> </ul> <p>公民館への作品展示や三栖文化展での舞台発表などは、幼稚園を知っていただく機会となるため、今後も可能な範囲で取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化委員さんと衣笠山登山</li> </ul> <p>保護者や文化委員さんといっしょに衣笠山登山をすることで、地域のよさを知る機会とする。</p> |
| 特徴的な協働活動  |
| <p>～三栖小学校・衣笠中学校との交流～</p> <p>今年も2年生のまち探検と防火パレード、運動会での交流などを通して職員も含めてお互いを知る機会となり、幼小連携を図ることができた。また、小学校との懇談会では、幼稚園の取組を理解していただくことで、幼稚園で培ってきたことを生かし小学校での生活がスムーズにスタートすることができる体験なども行うことができた。</p> <p>衣笠中学校とは、職場体験で2年生が来園した。事前に打ち合わせを行い、園児達と丁寧に接してもらうことができ、互いに大変有意義な交流となった。また、地域と共に行った防災訓練では、避難するときや避難してからの行動についても地域の一員として、学ぶことができた。</p> <p>～衣笠山登山～</p> <p>保護者や地域の文化委員さんたちと園歌にも歌われている衣笠山に登り、文化委員さんに衣笠山の歴史について説明を受けたり、地域の方々ともふれあったりすることで、地域のよさを知る機会となり、大変有意義であった。</p>   |
|   |

|  |   |   |        |
|--|---|---|--------|
| 学校・園名  | 田辺市立上秋津幼稚園  | 公民館名  | 上秋津公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子   |   |   |        |
| <p>上秋津地域では幼稚園・小学校・中学校が一緒に学社融合推進協議会を立ち上げ、幼小中が連携して子どもの健全育成を進めている。町内会・公民館・愛郷会等の地元の団体が地域の教育にたいへん協力的で、様々な場面で支援をいただいている。</p> |   |   |        |
| 目<br>標   | <p>公立幼稚園にとって、地域は「最大の教育財産」とするとともに、今後の公教育の「最後の砦」です。子どもを取り巻く社会状況がどんどん変化していくなかで、子どもの育ちを「幼稚園」という狭い枠組みのなかでとらえるのではなく、「学校で学び、家庭で育て、地域で鍛える」の言葉通り、園や家庭、そして地域ぐるみで子どもを育てる体制を整備していかなければならない。</p>   |   |        |
|  | <p>本年度の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校とのつながりを増やす</li> <li>・地域の人に出会う機会や発表する機会を増やす</li> <li>・外部講師や公民館主事に園内に来ていただいて、人と関わる機会を増やす</li> <li>・未就園事業を充実させ、園児獲得を目指す</li> </ul>   |   |        |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）  |   | 支援者及び支援組織   |        |
|  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上秋津公民館</li> <li>・上秋津校区協議会</li> <li>・秋津野塾会議</li> <li>・上秋津地区民生児童委員</li> <li>・地域ボランティア</li> <li>・あきつの運営委員会</li> <li>・社会福祉協議会</li> </ul>                |        |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）   |   |   |        |
| 成果   |   | 課題  |        |
| 学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は小学校の保健室や図書室などの訪問を行った。小学校を訪れる回数が増え、幼稚園を身近に感じてもらえるようになってきていると感じる。</li> <li>・夏休み中に小学校の1、2年生の担任の先生と意見交流の場を設けた。少人数を活かした交流の方法を協議し、実際に生活科の授業に招待してもらうことが出来た。</li> <li>・公民館主事が園内の行事や未就園事業に何度も参加してくれて、園児にとって公民館が身近なものになった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児も小学校を身近に感じているように思う。幼稚園、小学校と交流を通してお互いを感じたことを伝えあえる場があると、より良い交流に発展していくと感じた。</li> <li>・幼稚園側が少人数であるため、小学校や中学校との人数の差が大きいので、交流の内容も考えていく必要がある。</li> </ul> |        |
| 公民館（地域）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館と幼稚園との協働活動において連携を取ることができた。</li> <li>・幼稚園の活動において、園内行事や未就園事業など、公民館としても積極的に関わりながら実施することができた。また、様々な機関と連携した事業を実施した。</li> <li>・公民館事業においても、夏まつりでの地域の方々との交流や文化作品展での園児の作品を展示するなど、学社融合事業として積極的に展開することができた。</li> </ul>                  |   |        |

|  |  |
|--|--|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）   |  |
| <p>第1回学社融合推進協議会（5月23日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中のスクールプランを説明し、参加した委員から承認をいただいた</li> <li>・協議会の予算の有効な活用について協議した</li> <li>・幼稚園の未就園事業を、地域の保護者や幼児と交流する機会と位置付けた</li> </ul> <p>第1回推進協議会を受けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の未就園事業用に、雨天時でも遊べるボールプールを用意した</li> </ul> <p>第2回学社融合推進協議会（10月29日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の体育科で、地域の講師を招聘した合気道の授業を参観した</li> <li>・1月に開催する、市の防災訓練について内容を審議した</li> <li>・幼稚園と「小中学校と関わり、地域との関わり、未就園児との関わり」を説明した</li> <li>・6月の全国園長会で発表したスライドを使ってプレゼンした</li> </ul> |  |
| 特徴的な協働活動   |  |
| <p style="text-align: center;">小学校・中学校との関わり</p> <p>《小学校》</p> <p>これまでの交流を振り返り、今年度は保健室や図書室などの教室以外の場所への訪問も行ってきた。夏休み中には、1、2年生担任の先生との意見交流会の場を設けた。教師同士の交流が出来たことで、小学校での行事や授業の中で、園児と一緒に参加できる内容も考えてもらうきっかけとなった。</p> <p>～主な交流内容～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇4月 小学校へ散歩・校庭で遊ぼう</li> <li>◇6月 保健の先生に歯磨きを教えてもらおう・校庭で遊ぼう</li> <li>◇7月 七夕飾りを届けよう</li> <li>◇10月 図書室で司書さんによる読み聞かせ・校庭で遊ぼう</li> <li>◇11月 防火パレード～誓いの言葉聞いてね～・校庭で遊ぼう</li> </ul>   |  |
| <p>《中学校》</p> <p>今年度も計画通りに活動を行うことが出来た。中学生の温かい関わりが園児にとって自分を認めてもらい、受け入れてもらっているという安心感や自己肯定感の向上につながっていると感じる。</p> <p>～主な交流活動～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇9月 2年生職場体験</li> <li>◇12月 中学校訪問（落葉拾いと昼休みに中学生と遊ぶ）</li> </ul>   |  |

|   |  |   |        |
|---|--|---|--------|
| 学校・園名   | 田辺市立中芳養幼稚園   | 公民館名  | 中芳養公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子  |  |   |        |
| <p>「子供の育成」「文化の継承」「交流の推進」の三つを柱に学社融合の取組を進めた。特に今年度は、意識して小学校と連携した行事を進めた。園児たちは、豊かな自然環境と、いつも温かく見守ってくれて大変協力的な地域の方々や小中学生とのふれあいを通して、明るく伸び伸びと園生活を送ることができた。今後も、行事の内容、実施方法等地域や公民館と連携を図りながら取組を進めていきたい。</p> |  |   |        |
| 目<br>標  | <p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちの学びや体験活動を充実させ、自分の住む地域を知り、地域のことを大切に思う心情を育む。</li> <li>・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。</li> </ul>  |   |        |
| 校（園）区の推進組織（組織体制図）   |  | 支援者及び支援組織   |        |
|   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中芳養地域の方</li> <li>・中芳養公民館</li> <li>・中芳養小学校</li> <li>・中芳養町内会</li> <li>・中芳養中学校</li> <li>・老人会「芳寿会」</li> <li>・JA紀南芳養谷支所</li> <li>・未就園児の家庭</li> </ul>   |        |
| 成果と課題（学校・公民館からの視点）  |  |   |        |
| 成果  |  | 課題  |        |
| 学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中芳養地域の豊かな自然との関わり（梅採り、みかん狩り体験など）、伝統文化との関わり（泉養寺、八幡神社訪問など）、地域の人々との関わり（敬老祝賀会、夏まつり、芳寿会や小中学校との交流など）を通して、園児たちは中芳養地域を知るとともに、大きく成長することができた。</li> <li>・幼小連携の取組は、園児たちにとって、小学校入学に向けて期待感を高めるとともに、不安を取り除くものになった。また、保護者にとっても同様に感じる場所があったようである。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に応じて地域と連携して取り組む行事は大変多い。地域の方々は楽しみにして下さっており、また、園も地域から大切にいただいている。これからもその関わりを大事にしながら、見通しを持って内容等工夫改善しながら取組を進めていきたい。</li> <li>・幼小連携については、卒園児の小学校入学後の生活がスムーズにスタートできるよう、カリキュラムの作成や連携行事の取組等進めていきたい。</li> </ul> |        |
| 公民館（地域）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（幼稚園、小学校、中学校、各PTA）と地域（町内会、芳寿会、消防団、JA等）で実行委員会を組織し、地域全体の行事として中芳養夏まつりを実施し、親と子、子と子のふれあいの場となった。</li> <li>また、地域の方から中芳養の伝統ある盆踊りを教えていただき園児たちの郷土愛を深めることができた。</li> <li>・敬老祝賀会においては、幼稚園の協力のおかげで園児による発表が行われ、園児たちといっしょに長寿をお祝いすることができた。</li> </ul>     |   |        |

|   |  |
|---|--|
| 今年度の取組内容<br>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）  |  |
| <p><b>【中学校の授業参観】</b><br/>・中学校1年生の梅学習の授業を参観した。</p> <p><b>【幼稚園・小学校・中学校の取組】</b><br/>・幼稚園、小学校、中学校のこれまでの取組を紹介した。また、今後予定されているそれぞれの行事について確認した。</p> <p><b>【学社融合の取組について】</b><br/>・これまで以上に、幼稚園、小学校、中学校と地域が一体となって学社融合の取組を進めていくことができるように、互いに連携して進めていくことを確認した。</p> |  |
| 特徴的な協働活動  |  |
| <p>＜幼小連携の取組＞</p> <p>○避難訓練・教室訪問：津波を想定した訓練では、6年生が3階まで誘導してくれました。歯科検診前に保健室で練習。その後1年生教室におじゃましました。</p>  |  |
|   |  |
| <p>○1年生交流：1年生が来園。ゲーム「ジャンケン列車」で交流した後、園庭に出て遊具を使って一緒に遊びました。</p>  |  |
|   |  |
| <p>○秋まつり交流：1、2年生が招待してくれた秋まつり。「もぐらたたき」「どんぐりめいろ」「おみくじ」などの手作りゲームで交流しました。</p>   |  |
|   |  |

学社融合推進協議会活動報告書 協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

|       |           |      |       |
|-------|-----------|------|-------|
| 学校・園名 | 田辺市立新庄幼稚園 | 公民館名 | 新庄公民館 |
|-------|-----------|------|-------|

**学社融合における学校・地域の様子**  
 新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めている。

|        |  |
|--------|--|
| 目<br>標 | <p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会則<br/>                 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p> |
|        | <p>本校における学社融合の目標<br/>                 地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。</p>  |

|   |  |
|---|--|
| <p><b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b></p> <p>新庄地域のコミュニティスクール（イメージ図）</p> <p>新庄地域学社融合推進協議会組織図</p> | <p><b>支援者及び支援組織</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学社融合推進協議会</li> <li>○ 幼稚園・小中学校育友会</li> <li>○ 学校支援者・地域代表者</li> <li>○ 地域関係団体</li> <li>○ 公民館運営委員会</li> <li>○ 新庄地区校区協議会</li> <li>○ 新庄共育コミュニティ本部</li> <li>○ その他関係機関</li> <li>○ 新庄地区老人会</li> <li>○ 真寿会</li> <li>○ ふたば福祉会</li> <li>○ 南紀のぞみ会</li> <li>○ 社会福祉協議会</li> </ul> |
|---|--|

本園は現在休園中のため、今年度の取組はありません